

Ⅲ 調査結果の詳細

— 一般 —

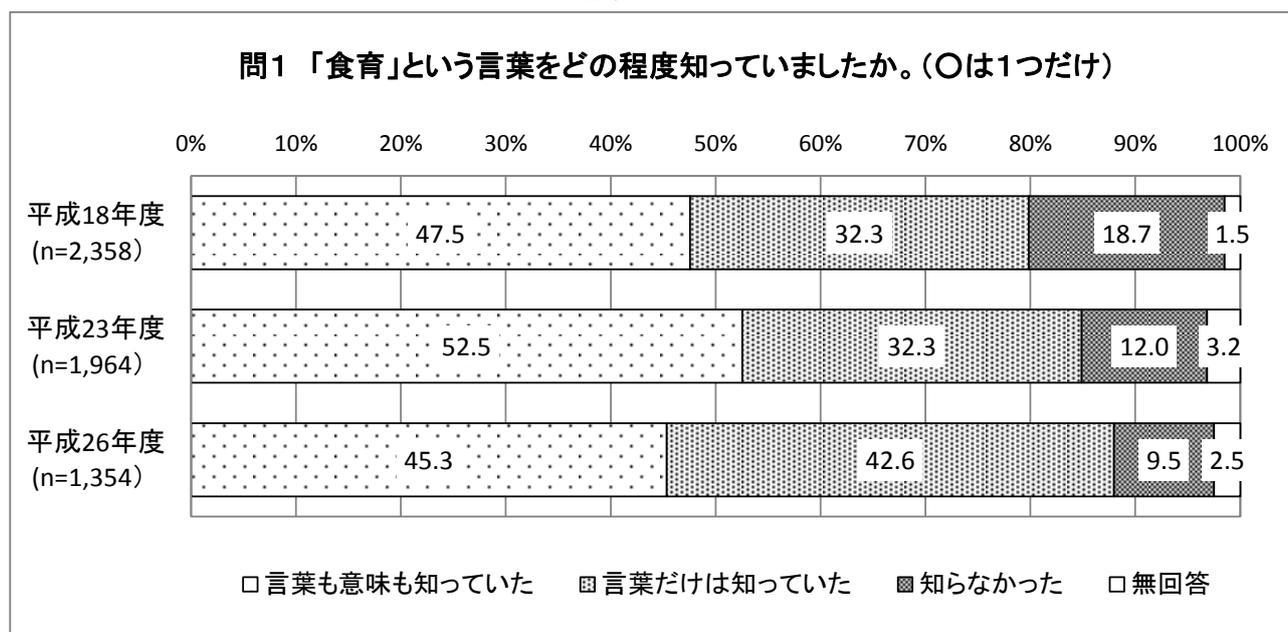
(1) 食育の認知度

1 「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」人が8割強

「食育」の認知度は、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）は87.9%と8割強に上り、平成18年度調査（79.8%）、平成23年度調査（84.8%）と比較して微増となっている。しかし、「言葉も意味も知っていた」人の割合は45.3%となっており、平成23年度調査の52.5%に比べ減少している。（図表I-1-1）

図表 I - 1 - 1



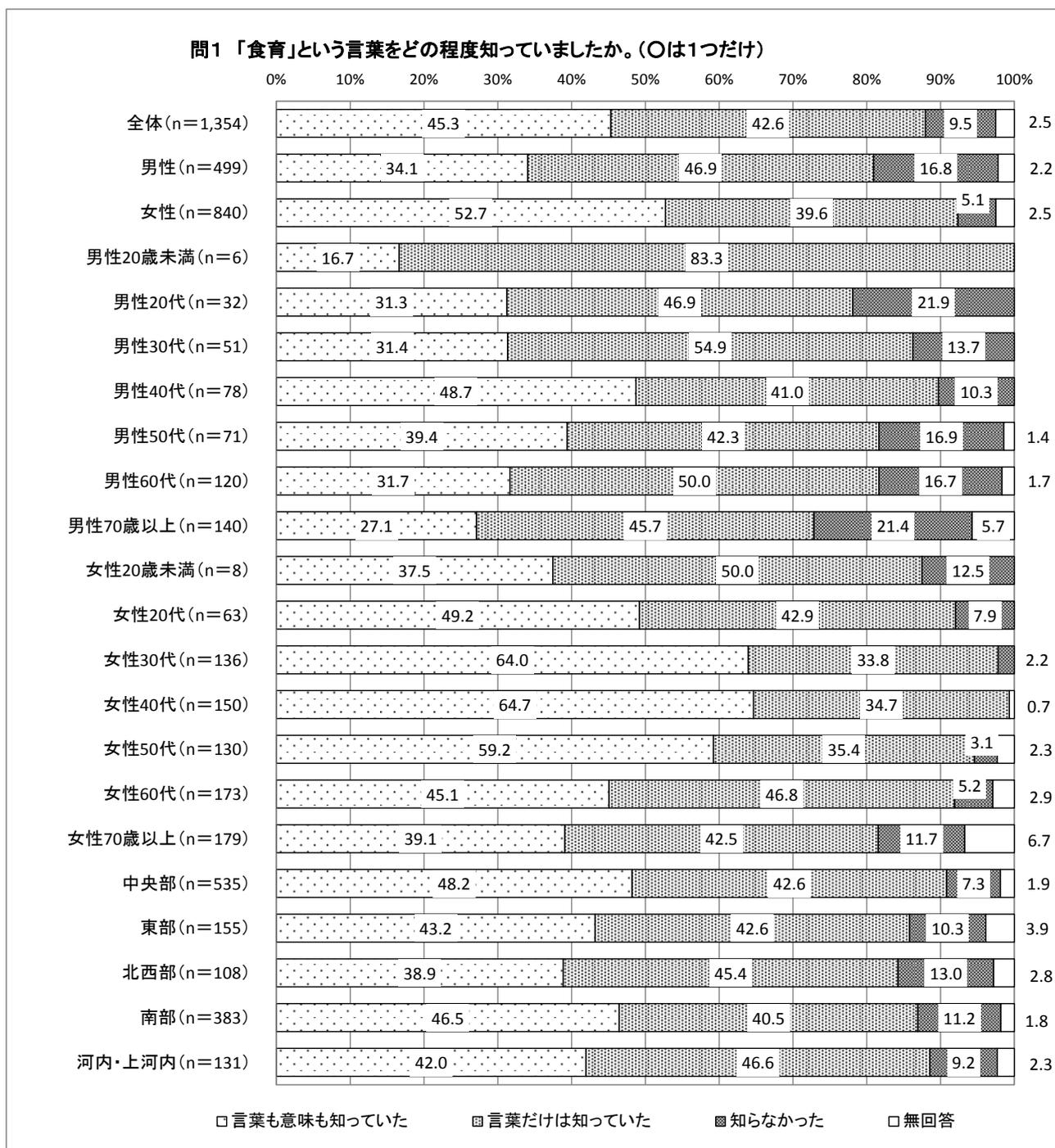
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「言葉も意味も知っていた」は女性 52.7%，男性 34.1%と、女性の方が 18.6%高くなっている。

性・年齢別では、「言葉も意味も知っていた」は、「女性 40 代」（64.7%）が最も高く、男性では「40 代」（48.7%）が高くなっている。一方で、男性の「20 代」「30 代」「60 代」「70 歳以上」では、他の年齢に比べ低くなっている。

居住地区別では、「言葉も意味も知っていた」が最も高いのは「中央部」で 48.2%，「知らなかった」が最も高いのは「北西部」で 13.0%となっている。（図表 I - 1 - 2）

図表 I - 1 - 2



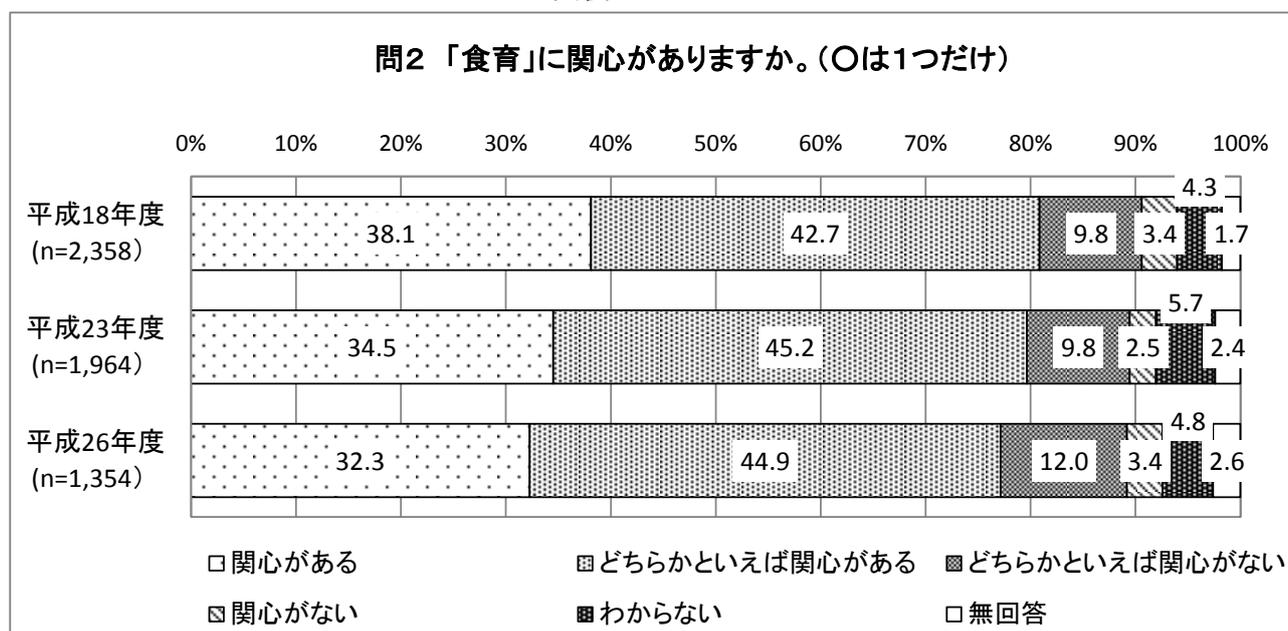
(2) 食育の関心度

2 「食育」に関心がありますか。

◆「関心がある」が約8割

「食育」の関心度は、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は77.2%となるが、平成18年度調査（80.8%）、平成23年度調査（79.7%）と比較すると微減となっている。「関心がない」（「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」の合計）は15.4%となっており、平成18年度調査（13.2%）、平成23年度調査（12.3%）と比較すると微増となっている。（図表I-1-3）

図表 I - 1 - 3



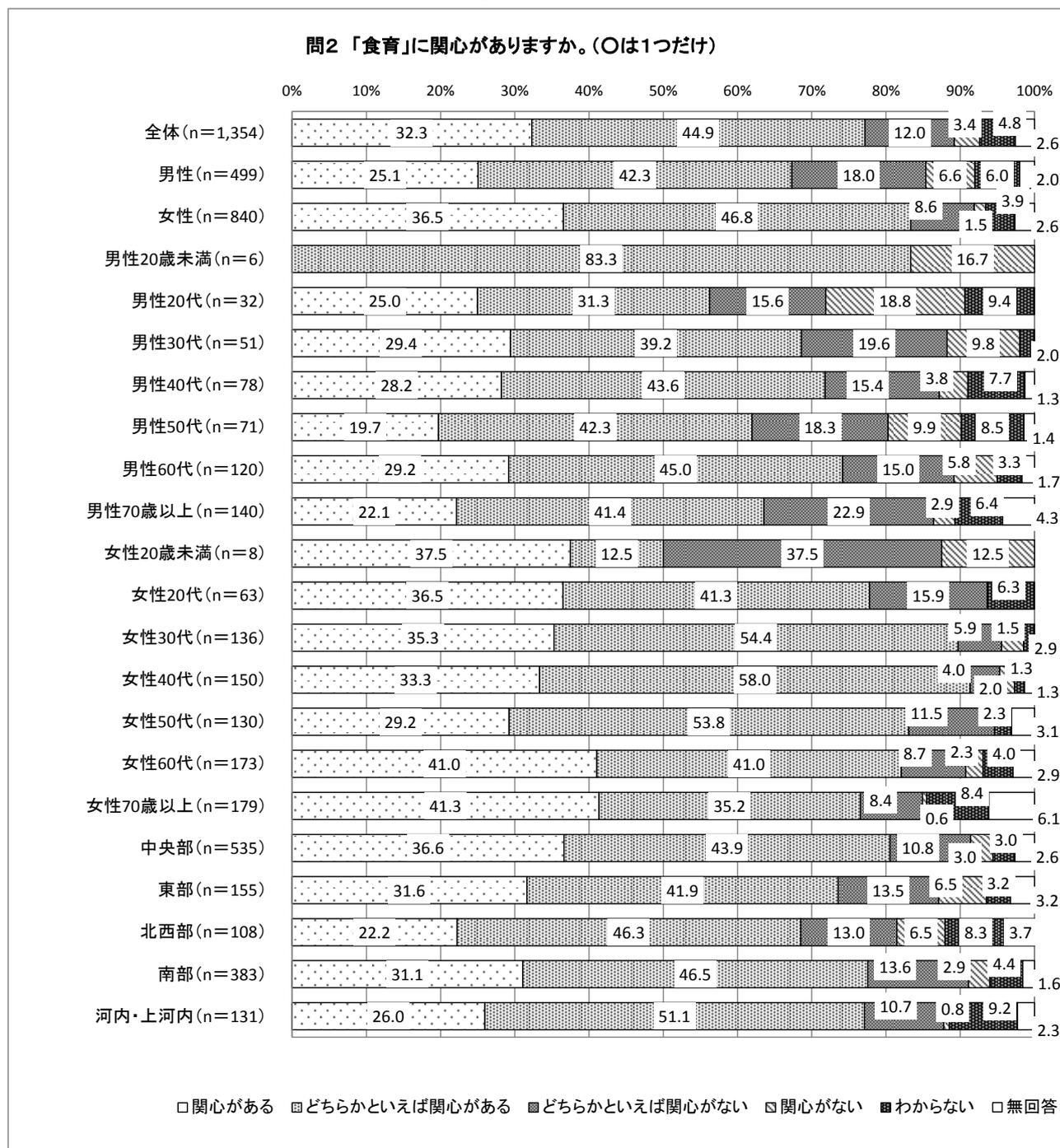
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、女性の「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）が83.3%，男性では67.4%と、女性の方が15%以上高くなっている。

性・年齢別では、「関心がある」の割合が「女性40代」（91.3%）と特に高くなっている。一方で、「関心がない」の割合が「男性20代」で18.8%と高くなっている。

居住地区別は、「中央部」（80.5%）で「関心がある」の割合が最も高くなっている。（図表I-1-4）

図表 I - 1 - 4

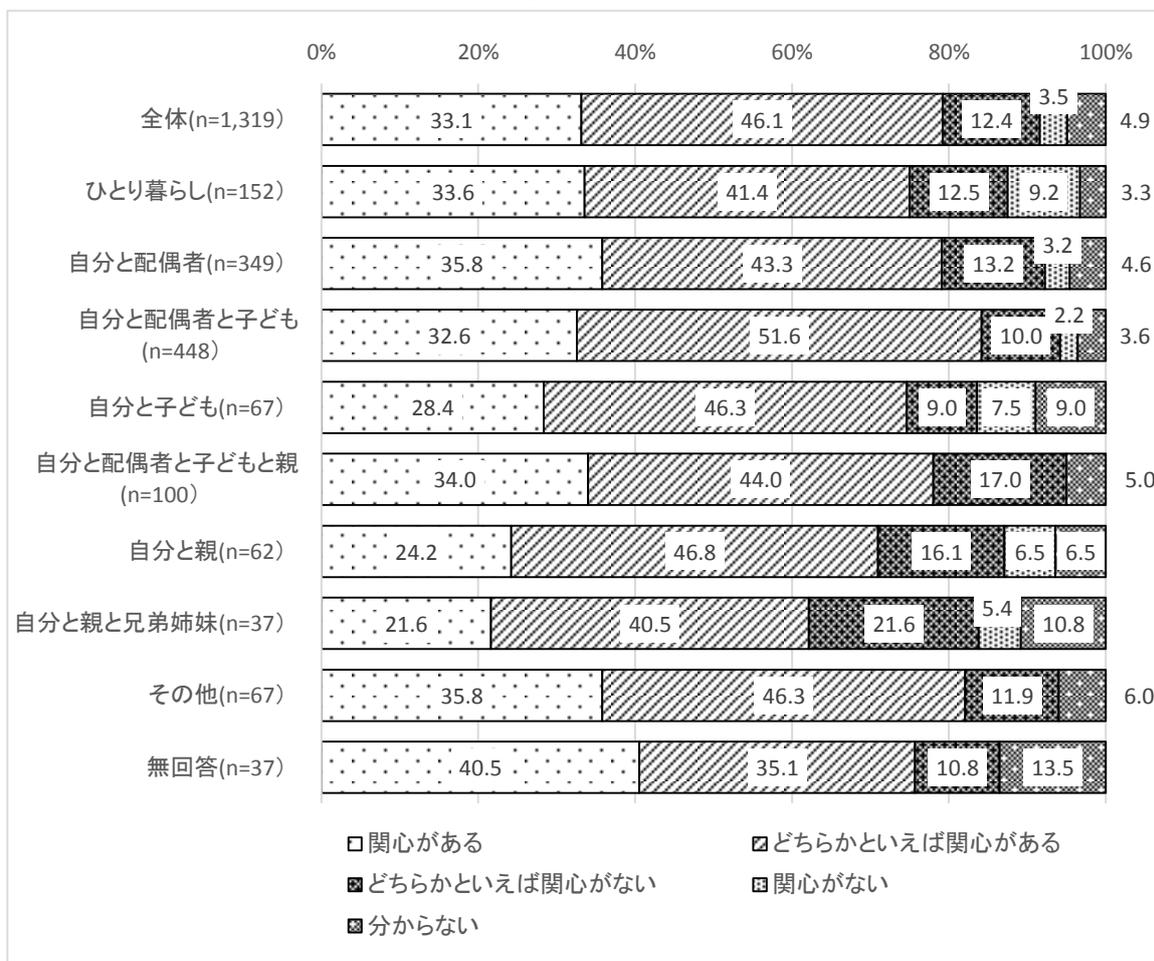


【食育の関心度と家族構成の関連性】

◆「自分と配偶者と子ども」の家族構成が、他の家族構成に比べて関心度が高い傾向

食育の関心度と家族構成の関連性を分析したところ、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は、「自分と配偶者と子ども」（84.2%）、「自分と配偶者」（79.1%）、「自分と配偶者と子どもと親」（78.0%）で、他の家族構成と比較して高い傾向となっている。（図表 I - 1 - 5）

図表 I - 1 - 5

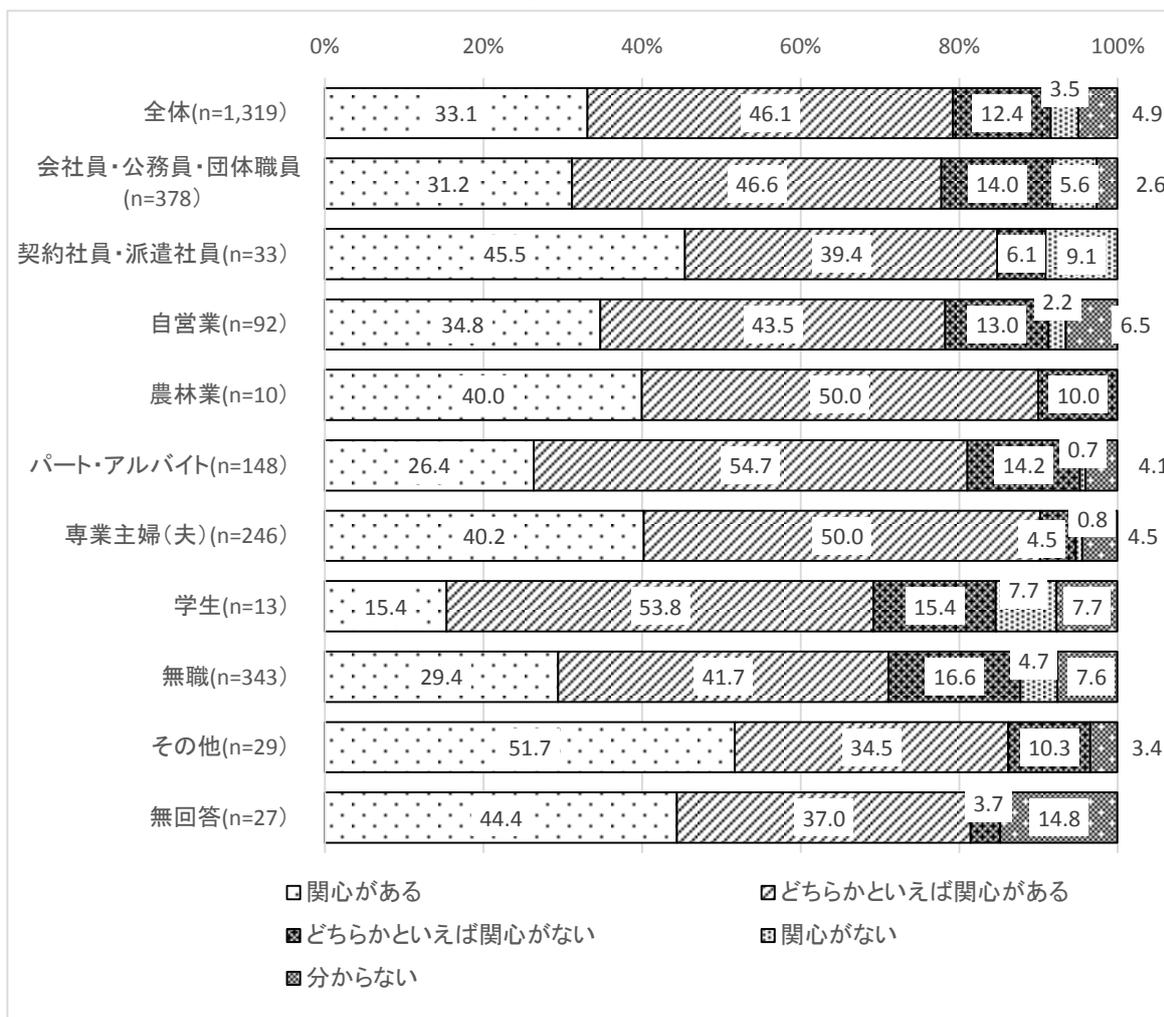


【食育の関心度と職業の関連性】

◆「専業主婦（夫）」は関心度が高く、「学生」「無職」は低い傾向

食育の関心度と職業の関連性を分析したところ、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は、「専業主婦（夫）」では90.2%と、他の職業と比較して、関心度が高い傾向であった。一方、「学生」（69.2%）、「無職」（71.1%）は低い傾向であった。（図表 I - 1 - 6）

図表 I - 1 - 6



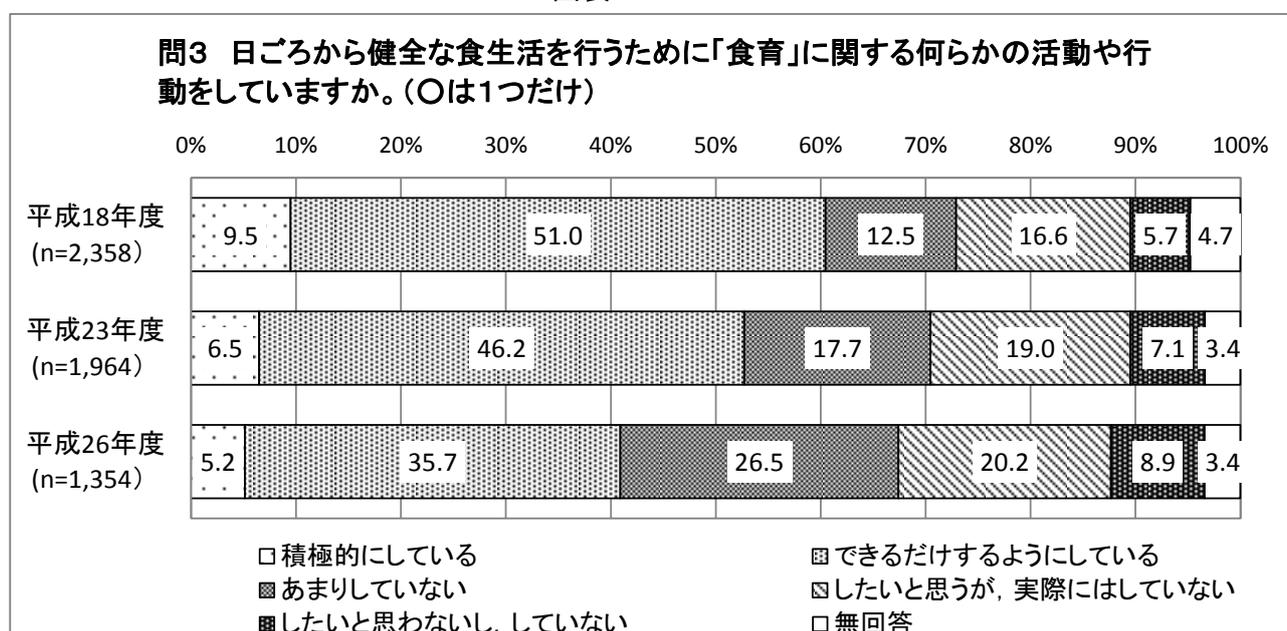
(3) 食育の実践度

3 日ごろから健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしていますか。

◆「できるだけするようにしている」が3割台半ば

「食育」に関する何らかの活動や行動を「している」（「積極的にしている」と「できるだけにするようにしている」の合計）は40.9%と、平成18年度調査（60.5%）、平成23年度調査（52.7%）と比較して減少している。特に「できるだけするようにしている」人が、平成18年度調査では51.0%と半数を超えているのに対し、平成23年度調査では46.2%、本調査では35.7%と減少している。一方、「あまりしていない」人は26.5%と、平成23年度調査（17.7%）、平成18年度調査（12.5%）と比較して増加している。（図表I-1-7）

図表 I - 1 - 7



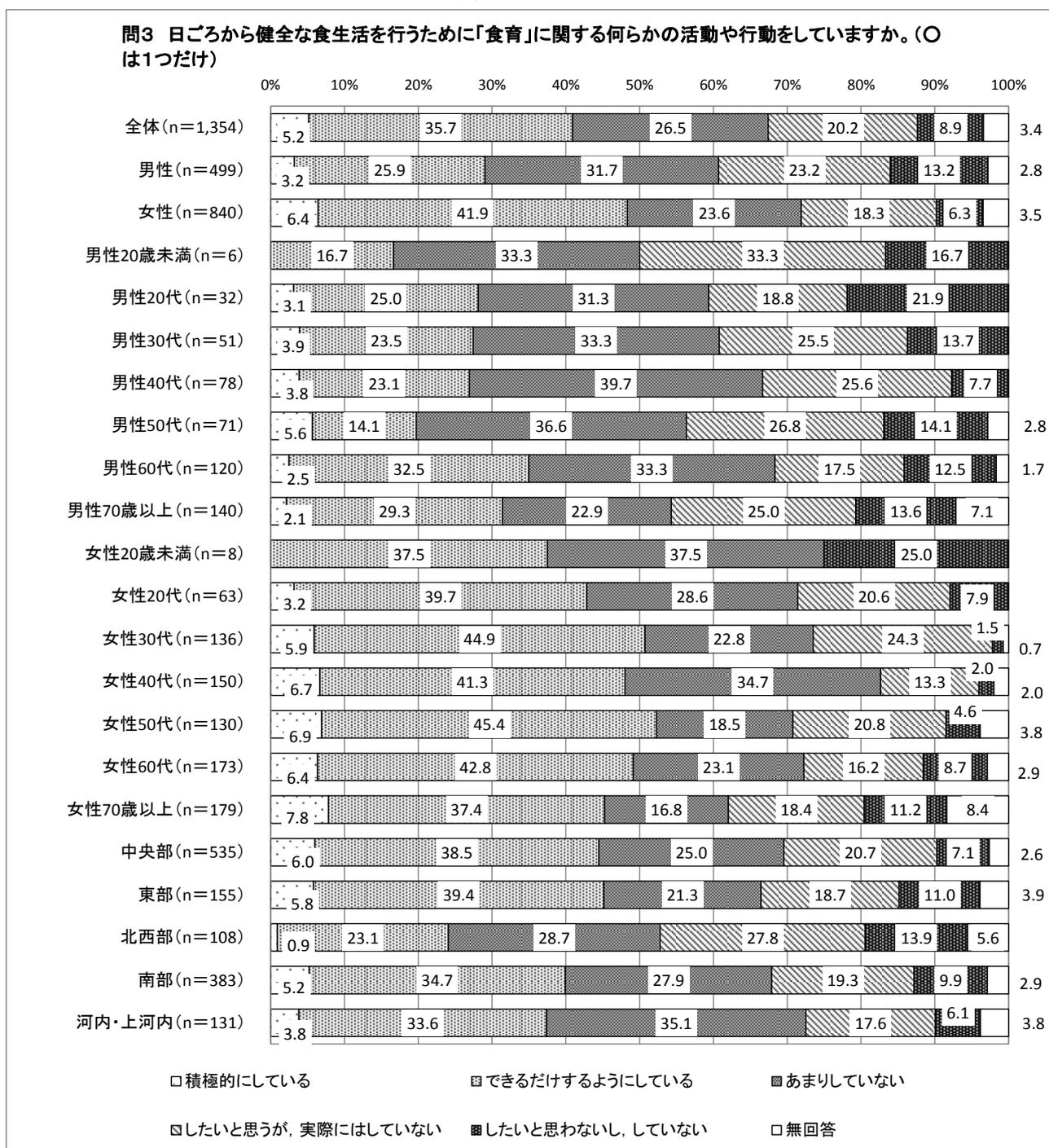
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「できるだけするようにしている」は女性が41.9%と、男性の25.9%より16%高くなっている。また、「したいと思わないし、していない」は男性(13.2%)が、女性(8.9%)より4%低くなっている。

性・年齢別では、「男性50代」、「女性70歳以上」で「積極的にしている」の割合が他の年代に比べ高くなっている。

居住地区別では、「中央部」で「積極的にしている」(6.0%)の割合が最も高く、一方で「北西部」(0.9%)で最も低くなっている。(図表I-1-8)

図表 I - 1 - 8

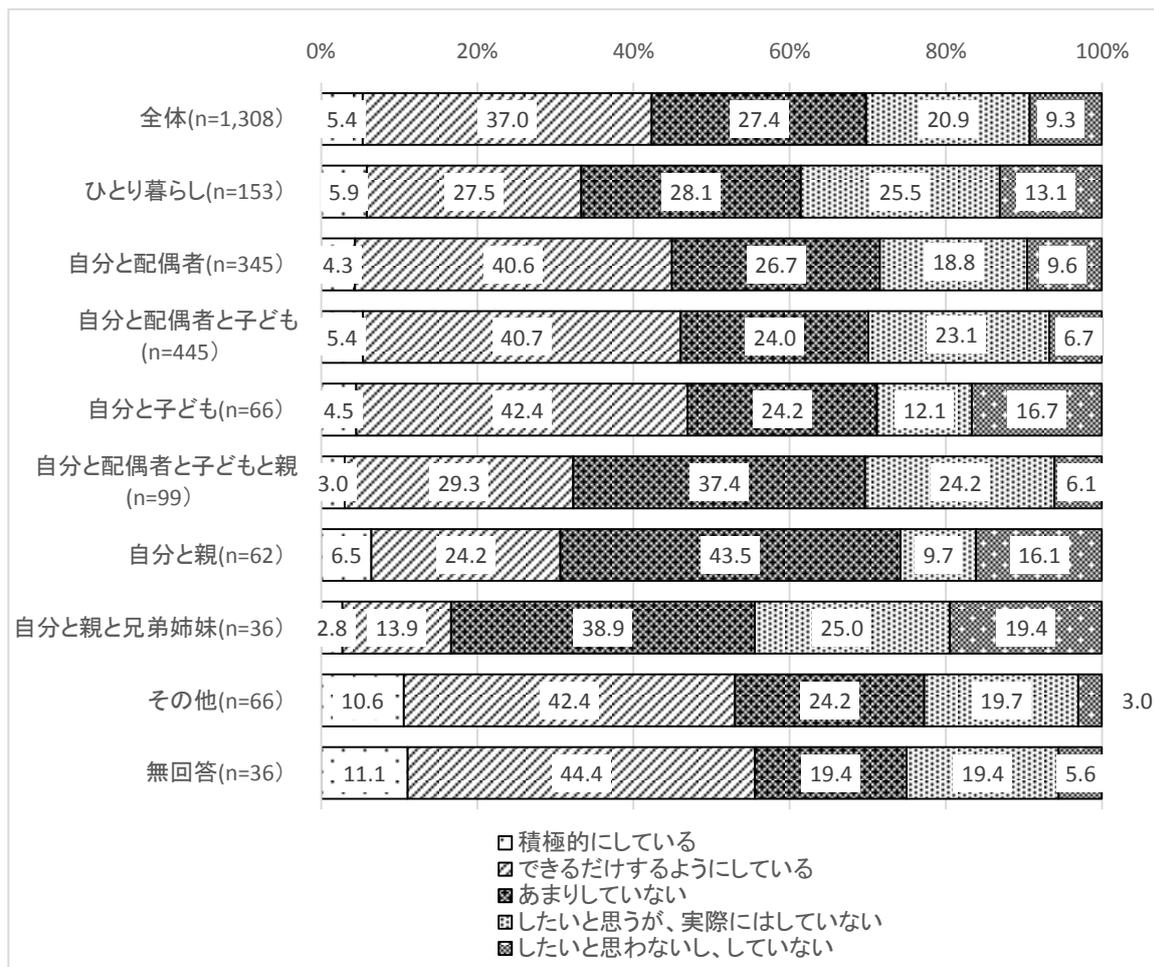


【食育の実践度と家族構成の関連性】

◆「自分と子ども」「自分と配偶者と子ども」の家族構成が他の家族構成に比べて実践度が高い傾向

食育の実践度と家族構成の関連性を分析したところ、「している」（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）は、「自分と子ども」（46.9%）、「自分と配偶者と子ども」（46.1%）、「自分と配偶者」（44.9%）で、高い傾向にある一方で、「自分と親と兄弟姉妹」（16.7%）「自分と親」（30.7%）では低い傾向となっている。（図表 I-1-9）

図表 I-1-9

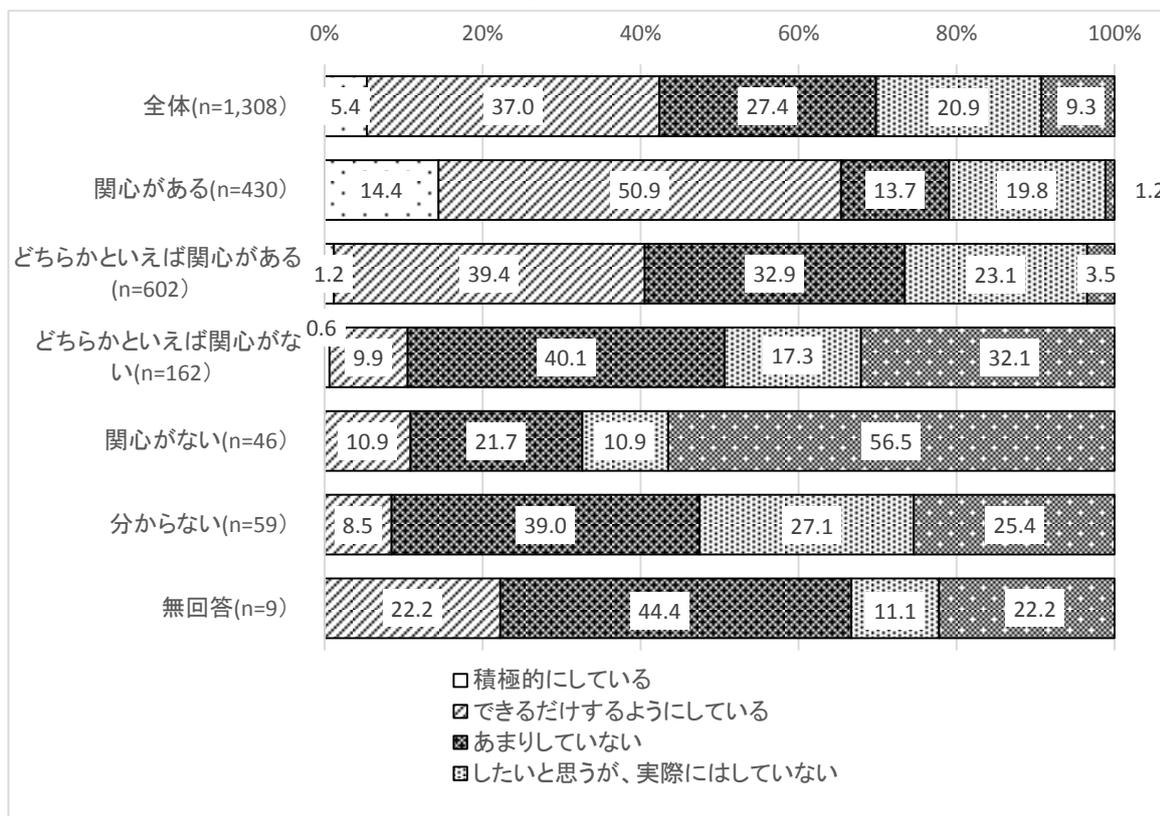


【食育の実践度と関心度の関連性】

◆食育の関心度が高い人ほど、食育の実践度が高い傾向

食育の実践度と関心度の関連性を分析したところ、食育に「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）では、食育の取組を「している」（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）が65.3%と、関心がない人に比べて高い傾向であった。（図表 I - 1 - 11）

図表 I - 1 - 11



(3-1) 実践しない理由

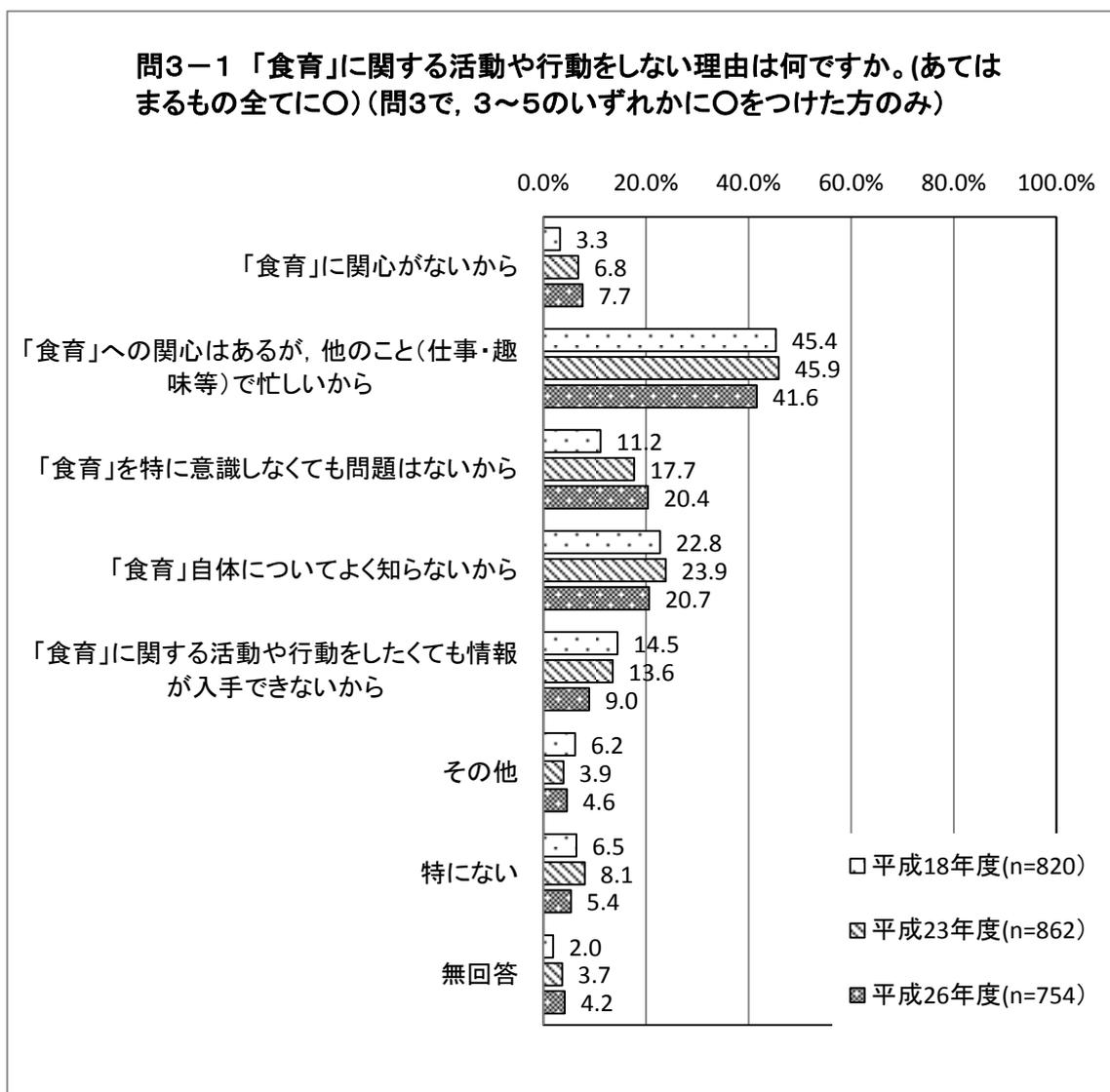
3-1 「食育」に関する活動や行動をしない理由は何ですか。

◆「食育への関心はあるが、他のこと（仕事・趣味等）で忙しいから」が4割

前問で「していない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「食育への関心はあるが、他のこと（仕事・趣味等）で忙しいから」（41.6%）が、4割を超えており、平成18年度調査、平成23年度調査と同様の傾向となっている。以下、「食育自体についてよく知らないから」（20.7%）、「食育を特に意識しなくても問題はないから」（20.4%）となっている。

また、平成18年度調査、平成23年度調査と比較すると、「食育に関する活動や行動をしたくても情報が入手できない」が減少している一方、「食育を特に意識しなくても問題ないから」が増加している。（図表I-1-12）

図表 I - 1 - 12



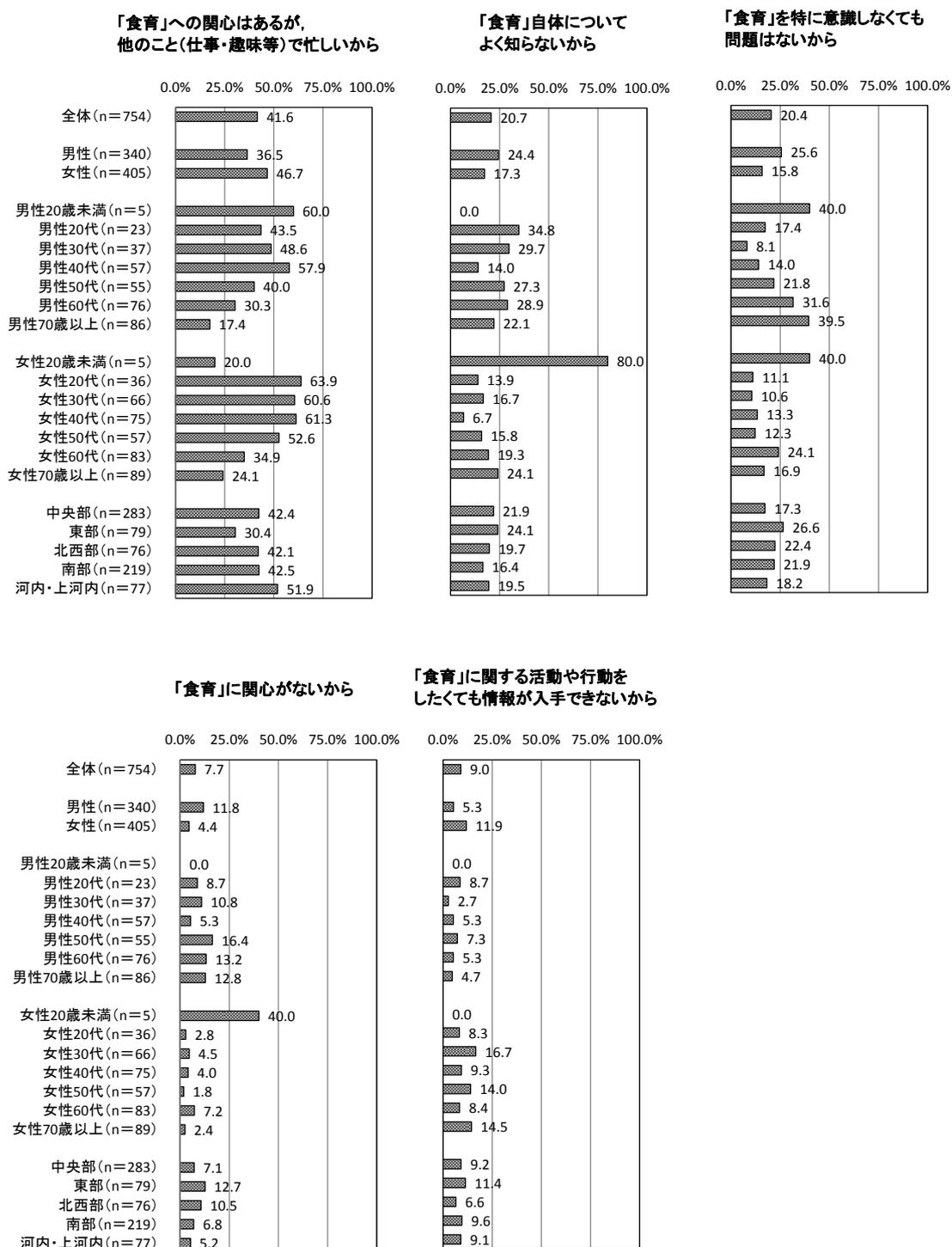
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「食育への関心はあるが、他のことで忙しいから」が「女性」で46.7%と高くなっており、「男性」(36.5%)と10%程度差がある。

性・年齢別では、「男性20代」～「男性60代」,「女性20代」～「女性70歳以上」で「食育への関心はあるが、他のことで忙しいから」が高くなっている。また、年齢が上がるにつれ「食育への関心はあるが他のことで忙しいから」が減少しており、「食育を特に意識しなくても問題ないから」が増加する傾向にある。

居住地区別では、全地区で「食育への関心はあるが、他のことで忙しいから」の割合が高くなっている。(図表I-1-13)

図表 I - 1 - 13



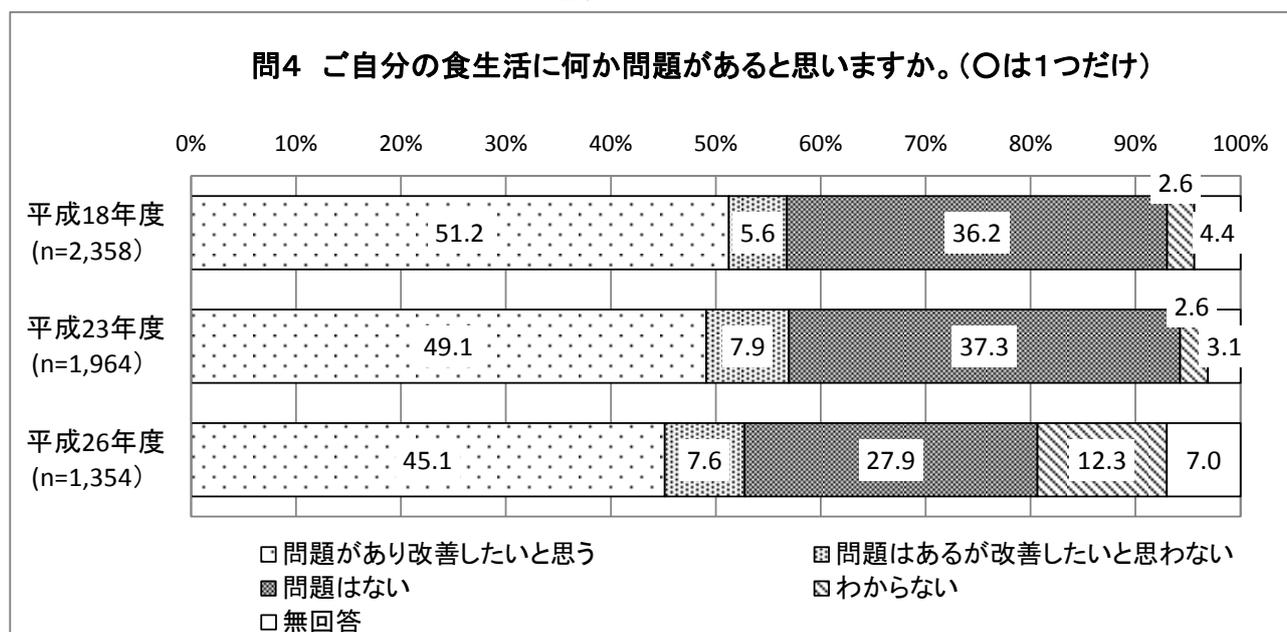
(4) 食生活の問題点の有無

4 ご自分の食生活に何か問題があると思いますか。

◆「問題があり改善したいと思う」が微減

自分の食生活に問題があるか聞いたところ、「問題があり改善したいと思う」(45.1%)が約半数を占めているが、平成18年度調査から約6%、平成23年度調査から4%減少している。また、平成23年度調査から「問題はない」(27.9%)が9.4%減少し、「わからない」(12.3%)が9.2%増加している。(図表I-2-1)

図表 I - 2 - 1



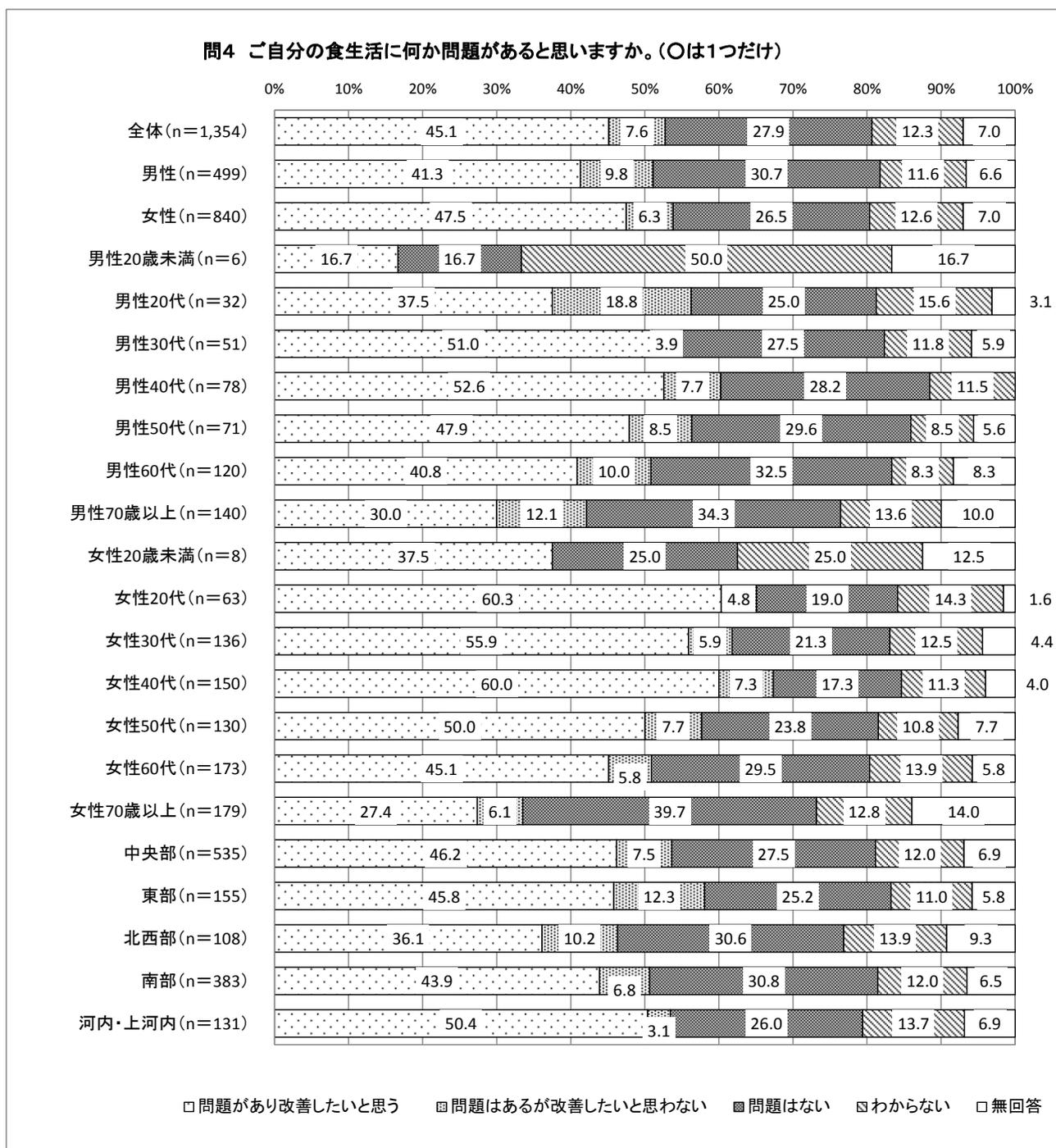
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性の方が「問題があり改善したいと思う」の割合が高くなっている。

性・年齢別では、男女とも「20代」～「60代」までが「問題があり改善したいと思う」の割合が高くなっている。特に、「女性20代」では60.3%と最も高くなっている。

居住地区別では、全地区で「問題があり改善したいと思う」が高くなっており、特に「河内・上河内」では50.4%と最も高くなっている。(図表I-2-2)

図表 I - 2 - 2



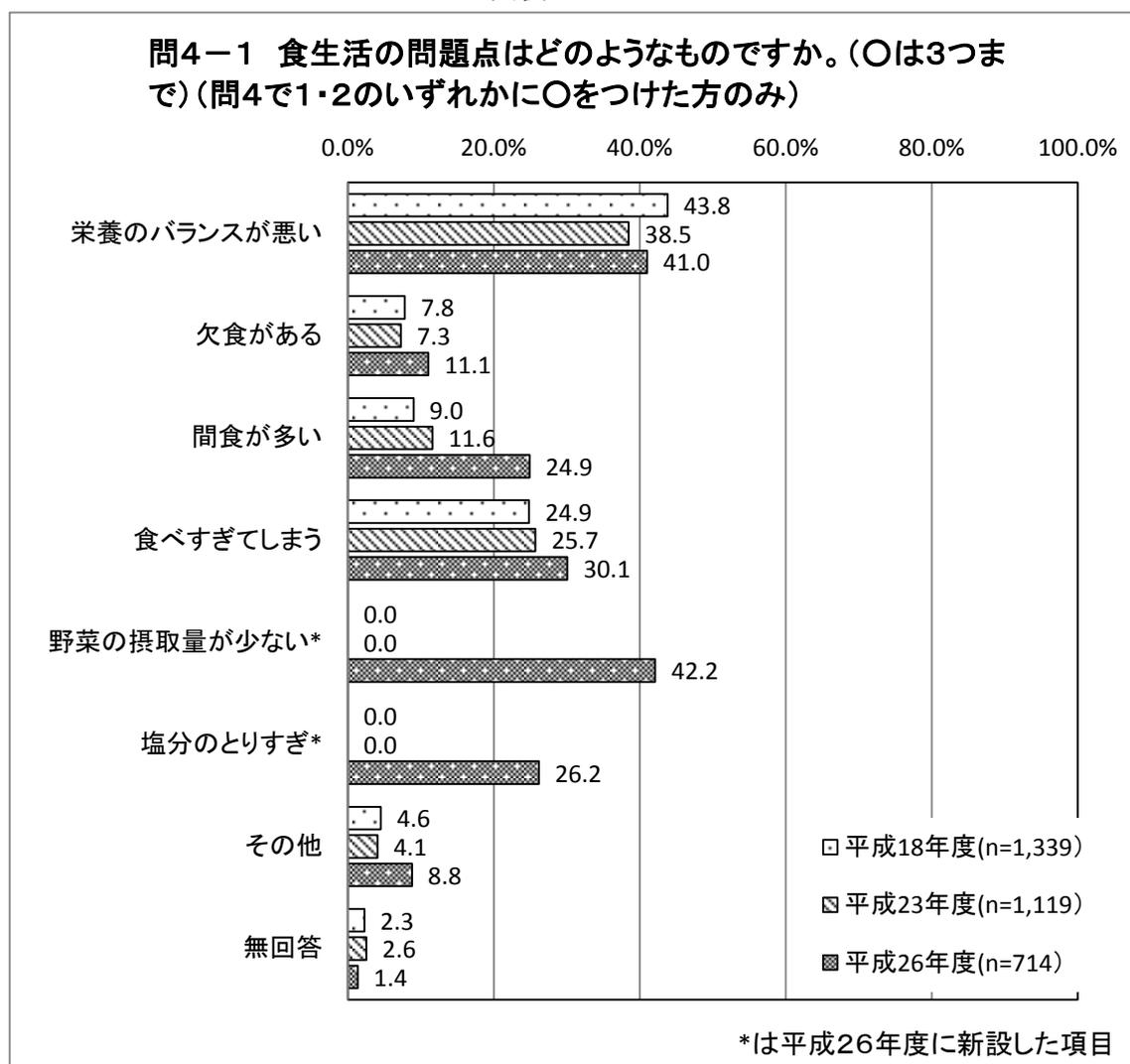
(4-1) 問題点の内容

4-1 食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「野菜の摂取量が少ない」「栄養のバランスが悪い」が約4割

前問で「問題がある」と答えた人に、その問題点を聞いたところ、「野菜の摂取量が少ない」(42.2%)が約4割と最も多く、次いで「栄養のバランスが悪い」(41.0%)となっている。前回調査と比較すると、平成18年度調査で4割を超えていた「栄養のバランスが悪い」が、平成23年度調査で38.5%と約5%減少したものの、本調査では41.0%と約3%の微増となっている。(図表I-2-3)

図表 I-2-3



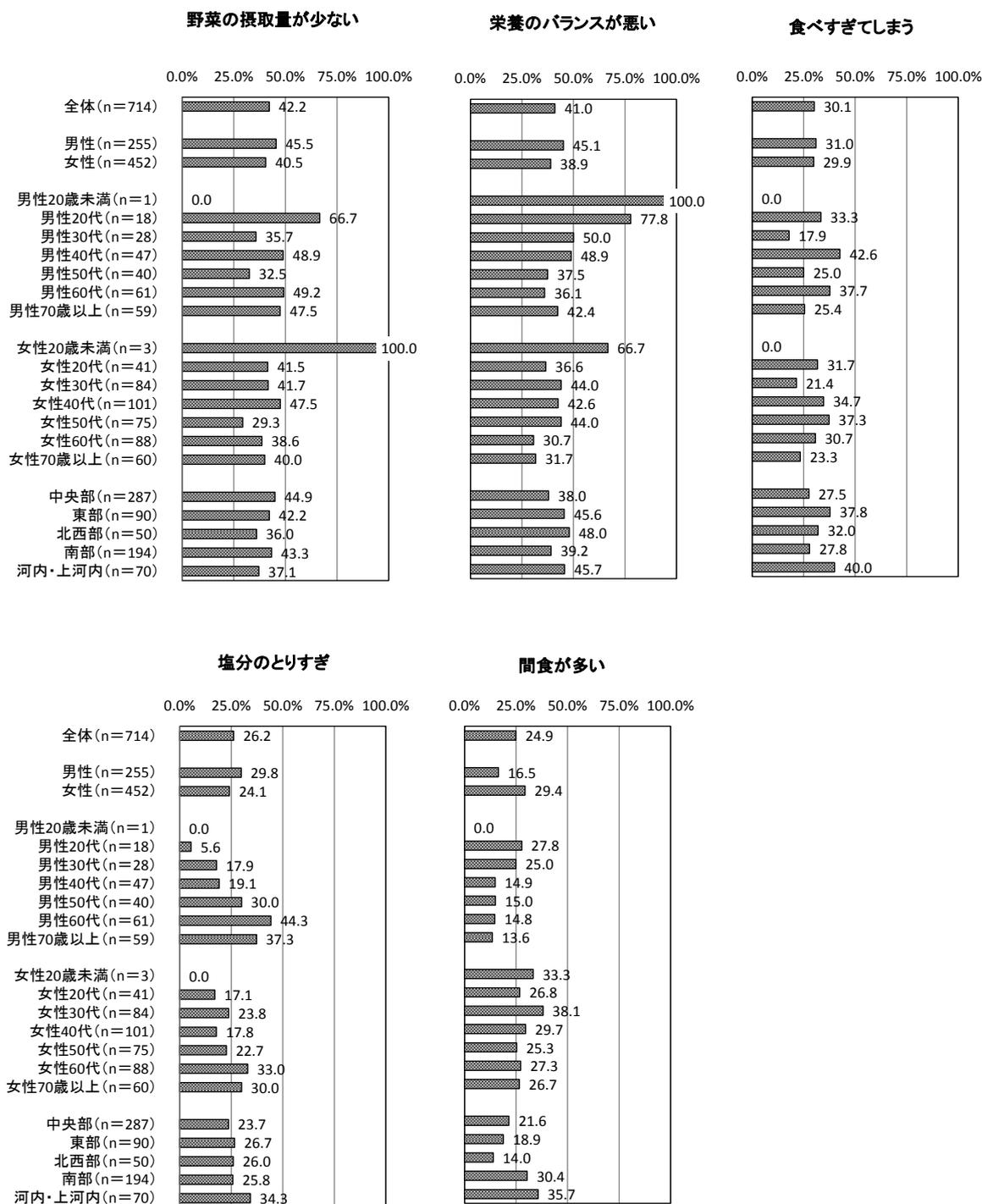
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも「野菜の摂取量が少ない」が最も多くなっている。女性では男性に比べ「間食が多い」が多くなっている。

性・年齢別においても「栄養のバランスが悪い」、「野菜の摂取量が少ない」が多くなっている。また、他の年代に比べ「60代」、「70歳以上」では、「塩分のとりすぎ」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「中央部」、「南部」で「野菜の摂取量が少ない」、「東部」、「北西部」、「河内・上河内」で「栄養のバランスが悪い」の割合が最も高くなっている。(図表 I-2-4)

図表 I-2-4



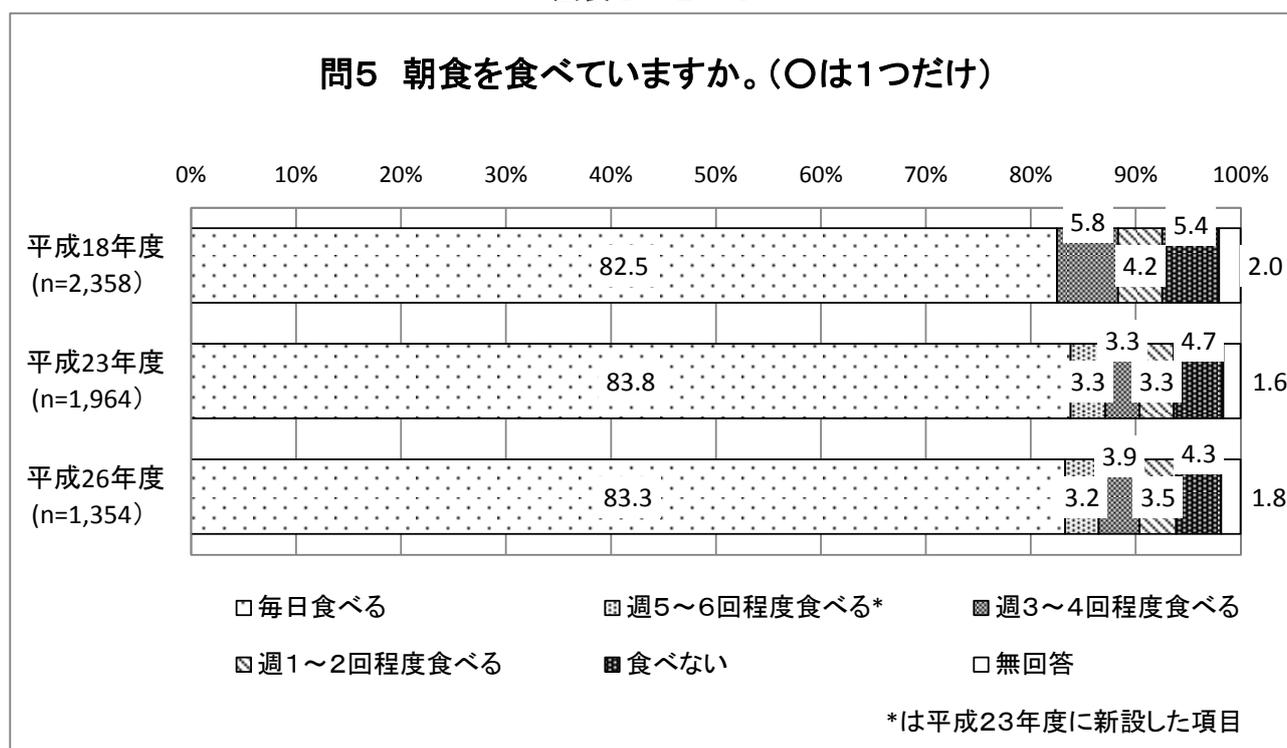
(5) 朝食摂取度

5 朝食を食べていますか。

◆「毎日食べる」が8割強

朝食の摂取状況は、「毎日食べる」(83.3%)が8割強と高い割合を占めるが、平成18年度調査から経年的に見て、大きな変化はない。(図表I-2-5)

図表 I - 2 - 5



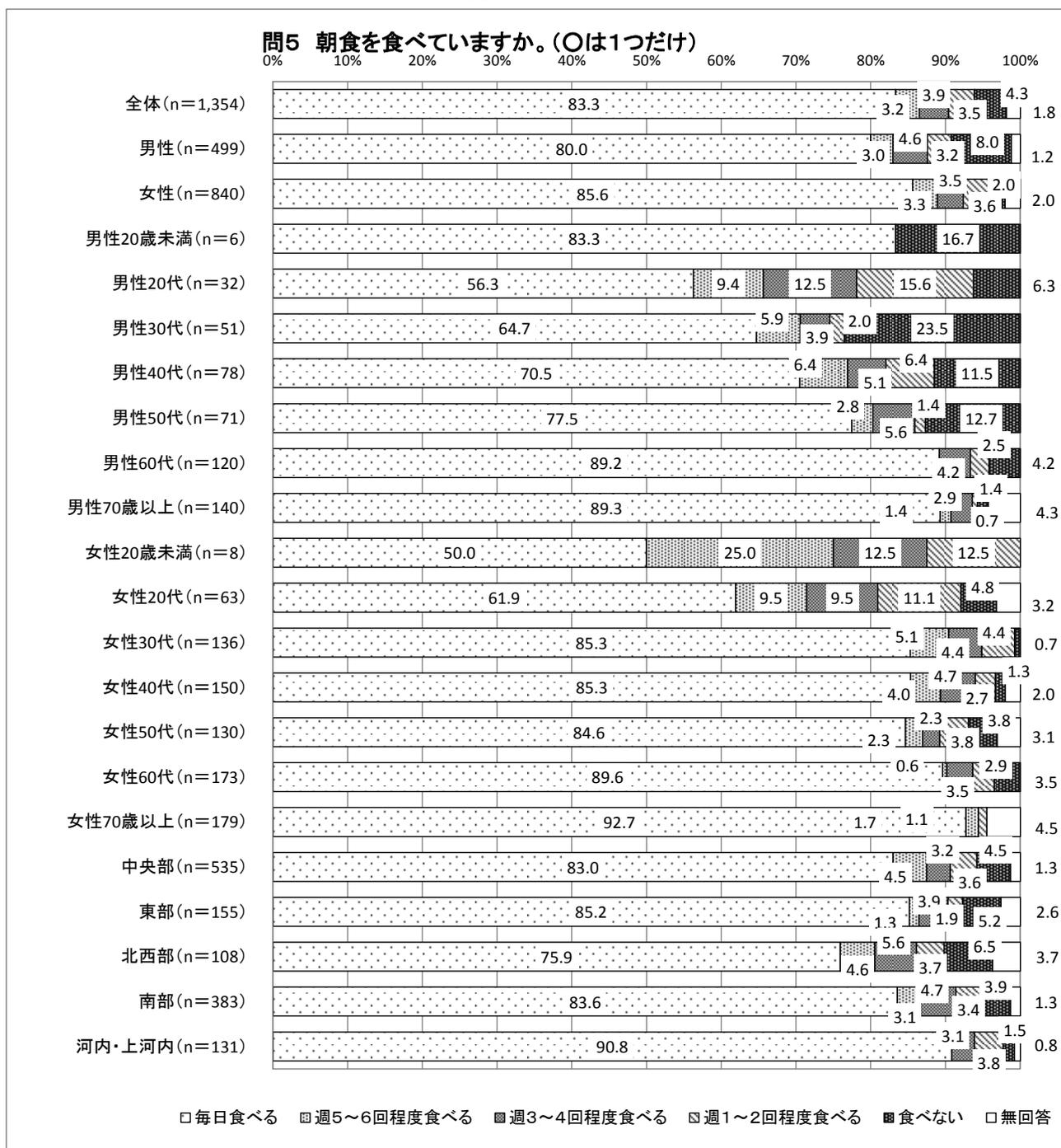
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「毎日食べる」が8割を超えている。

性・年齢別では、男女ともに、「20代」から年齢が上がる毎に「毎日食べる」の割合が高くなる傾向にあるが、「食べない」は、「男性30代」が最も多く23.5%となっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「毎日食べる」が90%以上となっている。(図表I-2-6)

図表 I - 2 - 6

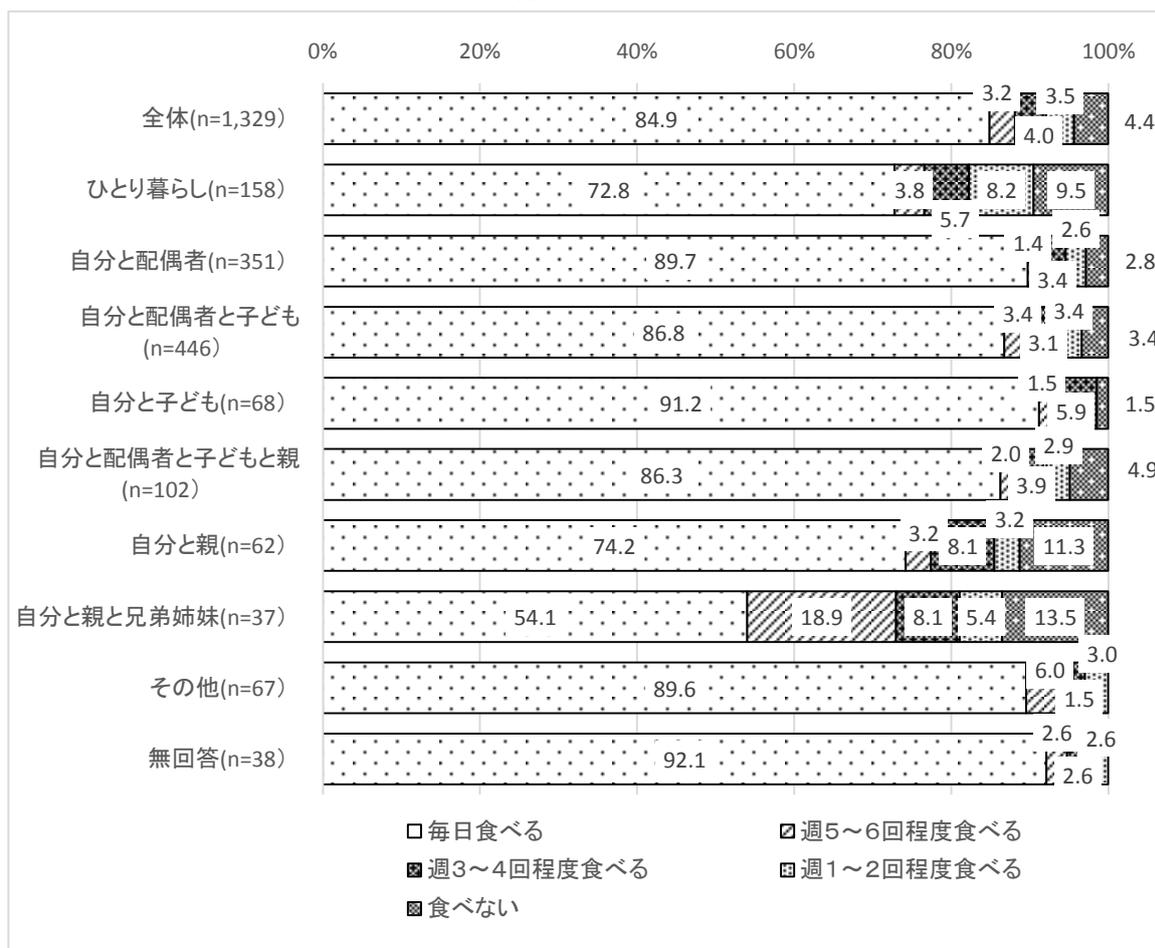


【朝食摂取度と家族構成の関連性】

◆「自分と親と兄弟姉妹」「ひとり暮らし」で、朝食を「毎日食べる」人が少ない傾向

朝食摂取度と家族構成の関連性を分析したところ、「毎日食べる」の割合が、「自分と親と兄弟姉妹」(54.1%)、「ひとり暮らし」(72.8%)、「自分と親」(74.2%)で、他の家族構成と比較して低い傾向であった。(図表 I-2-7)

図表 I-2-7

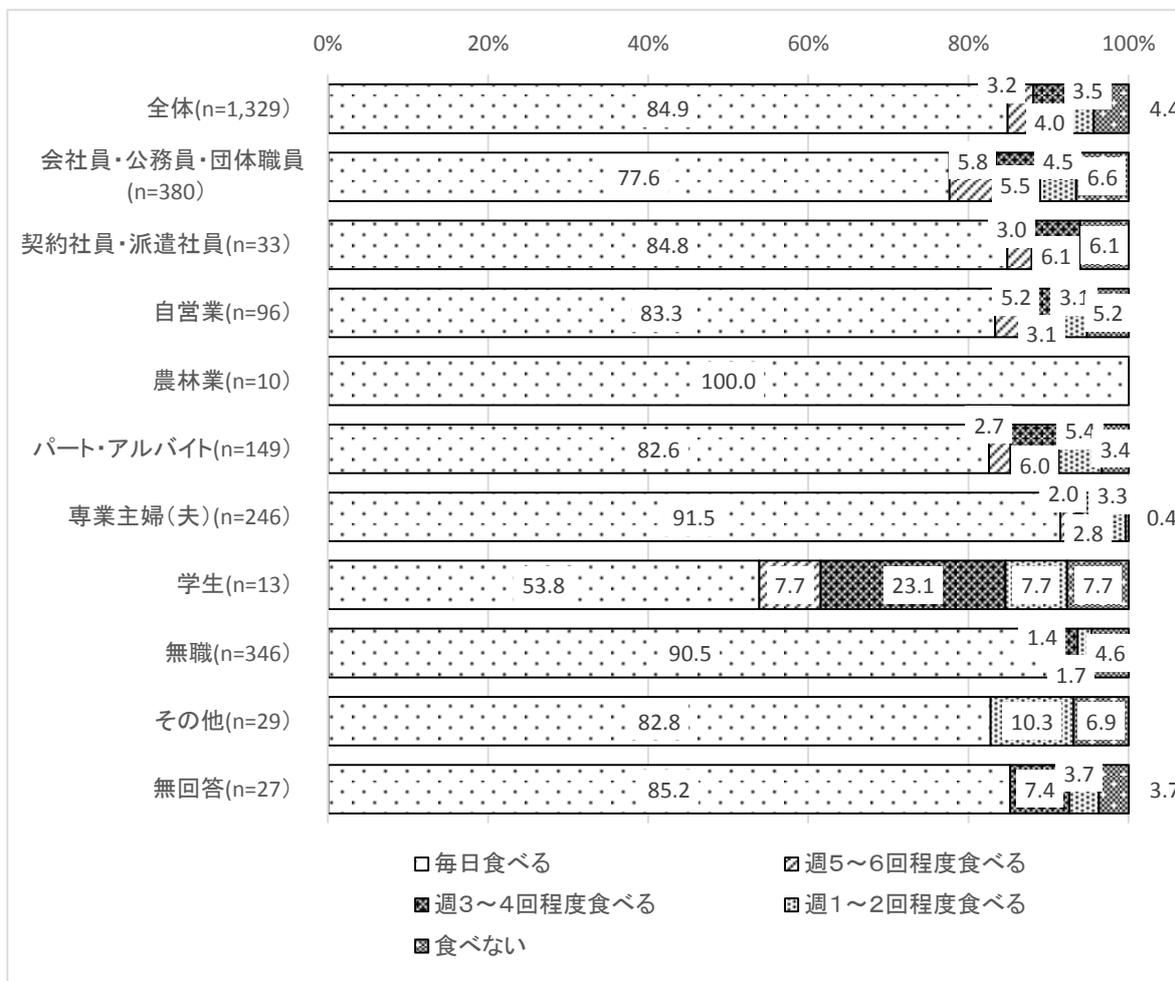


【朝食摂取度と職業の関連性】

◆「学生」や「会社員・公務員・団体職員」で、朝食を「毎日食べる」人が少ない傾向

朝食摂取度と職業の関連性を分析したところ、「毎日食べる」の割合が、「学生」(53.8%)、「会社員・公務員・団体職員」(77.6%)で他の職業と比較して低い傾向であった。(図表 I-2-8)

図表 I-2-8



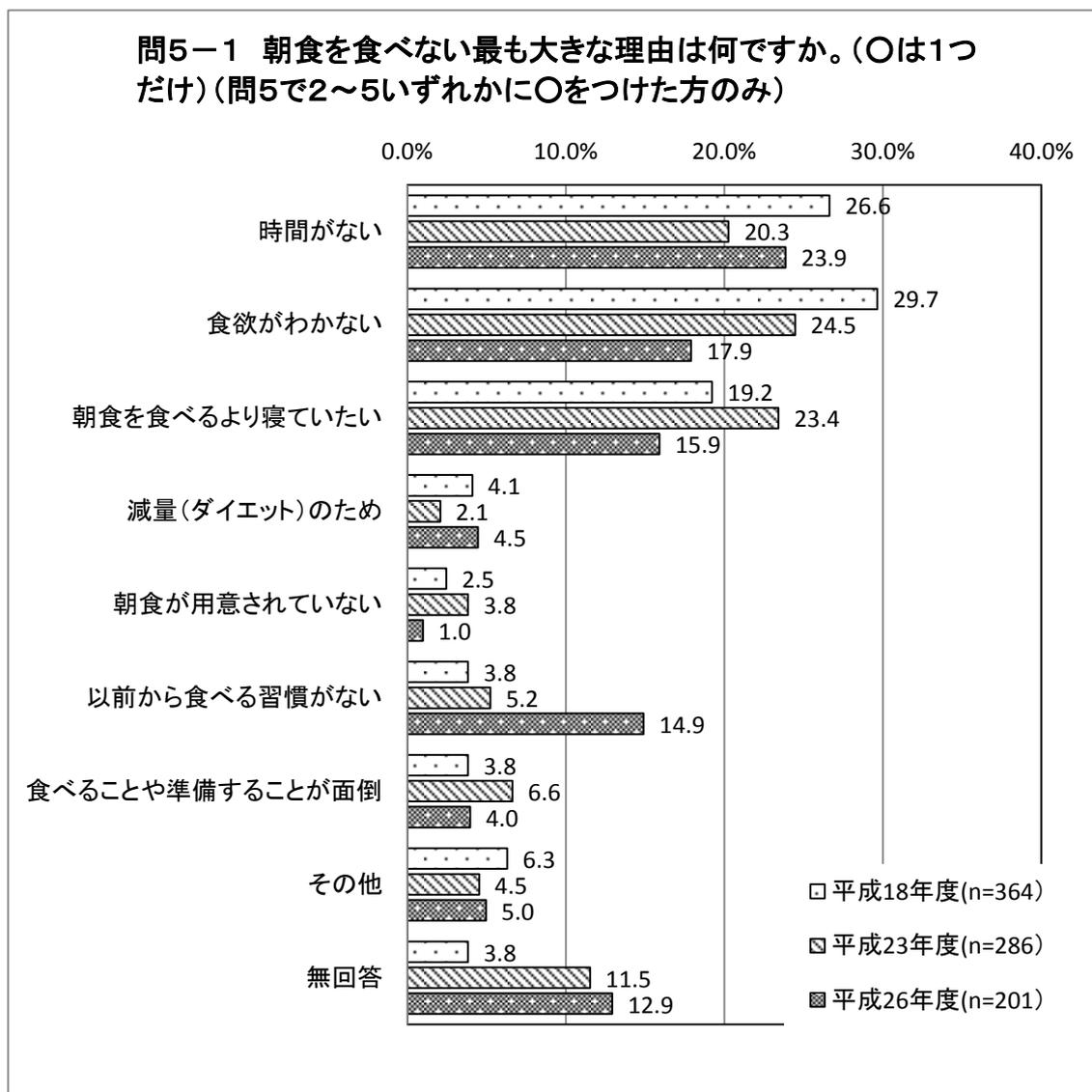
(5-1) 食べない理由

5-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。

◆「時間がない」が2割強で増加

前問で「毎日食べる」以外と答えた人に、朝食を食べない最も大きな理由を聞いたところ、「時間がない」(23.9%)が最も多くなっている。平成18年度調査からは減少傾向にあり、平成23年度調査では20.3%と6.3%減少していたが本調査では23.9%と微増した。また「以前から食べる習慣がない」は、平成23年度調査(5.2%)から本調査では14.9%と急増している。(図表I-2-9)

図表 I - 2 - 9



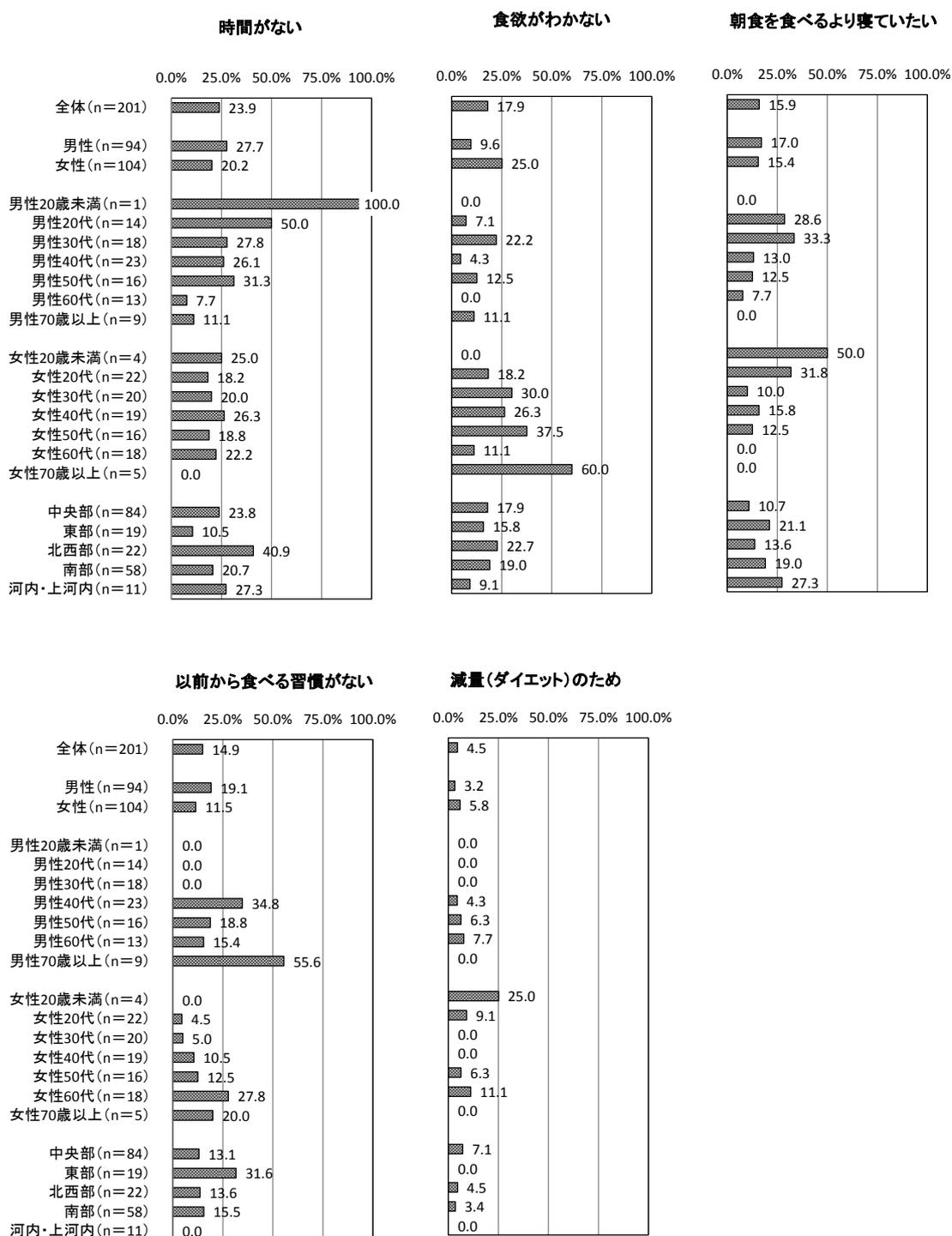
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性で「時間がない」(27.7%)、女性で「食欲がわからない」(25.0%)が最も多くなっている。

性・年齢別では、男性では「40代」「70歳以上」、女性では「60代」で「以前から食べる習慣がない」の割合も多くなっている。

居住地区別では、「北西部」の「時間がない」(40.9%)、「東部」の「以前から食べる習慣がない」(31.6%)が他地区に比べ高くなっている。(図表I-2-10)

図表 I - 2 - 10



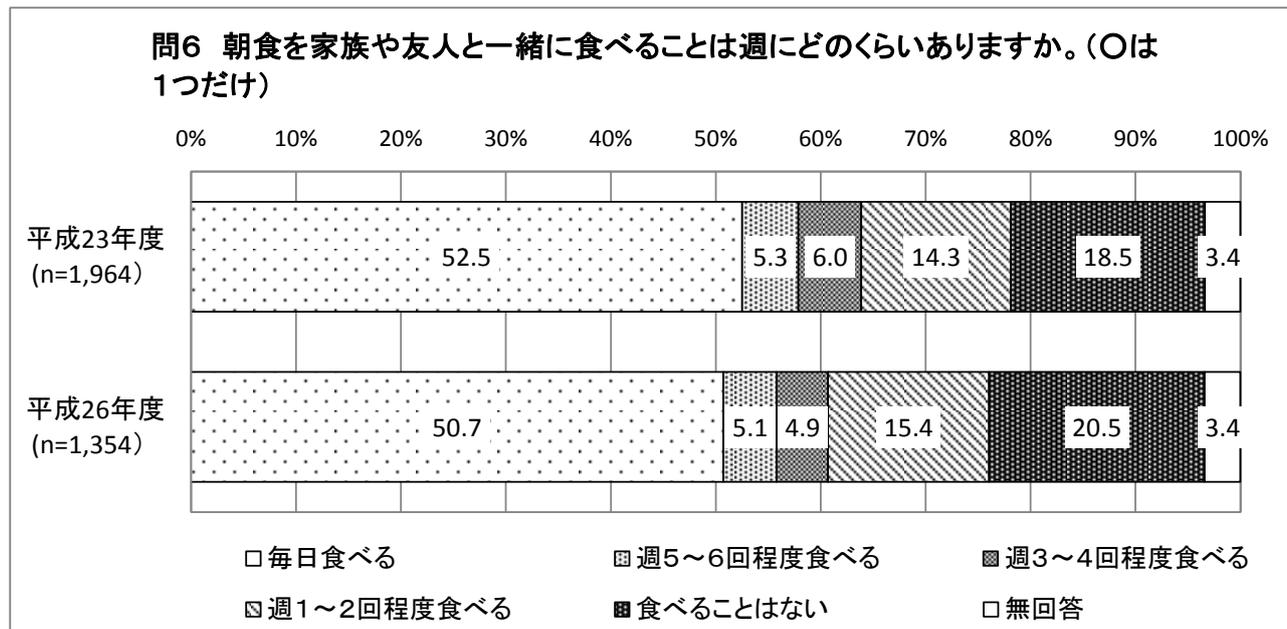
(6) 家族や友人との朝食（共食）

6 朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約5割

家族と一緒に朝食を食べる機会は、「毎日食べる」（50.7%）と最も多く、次いで「食べることはない」（20.5%）、「週に1～2回程度食べる」（15.4%）の順となっている。「毎日食べる」の割合が半数を超えており、平成23年度の水準を維持している。（図表I-2-11）

図表 I - 2 - 11



【性別／性・年齢別／地区別】

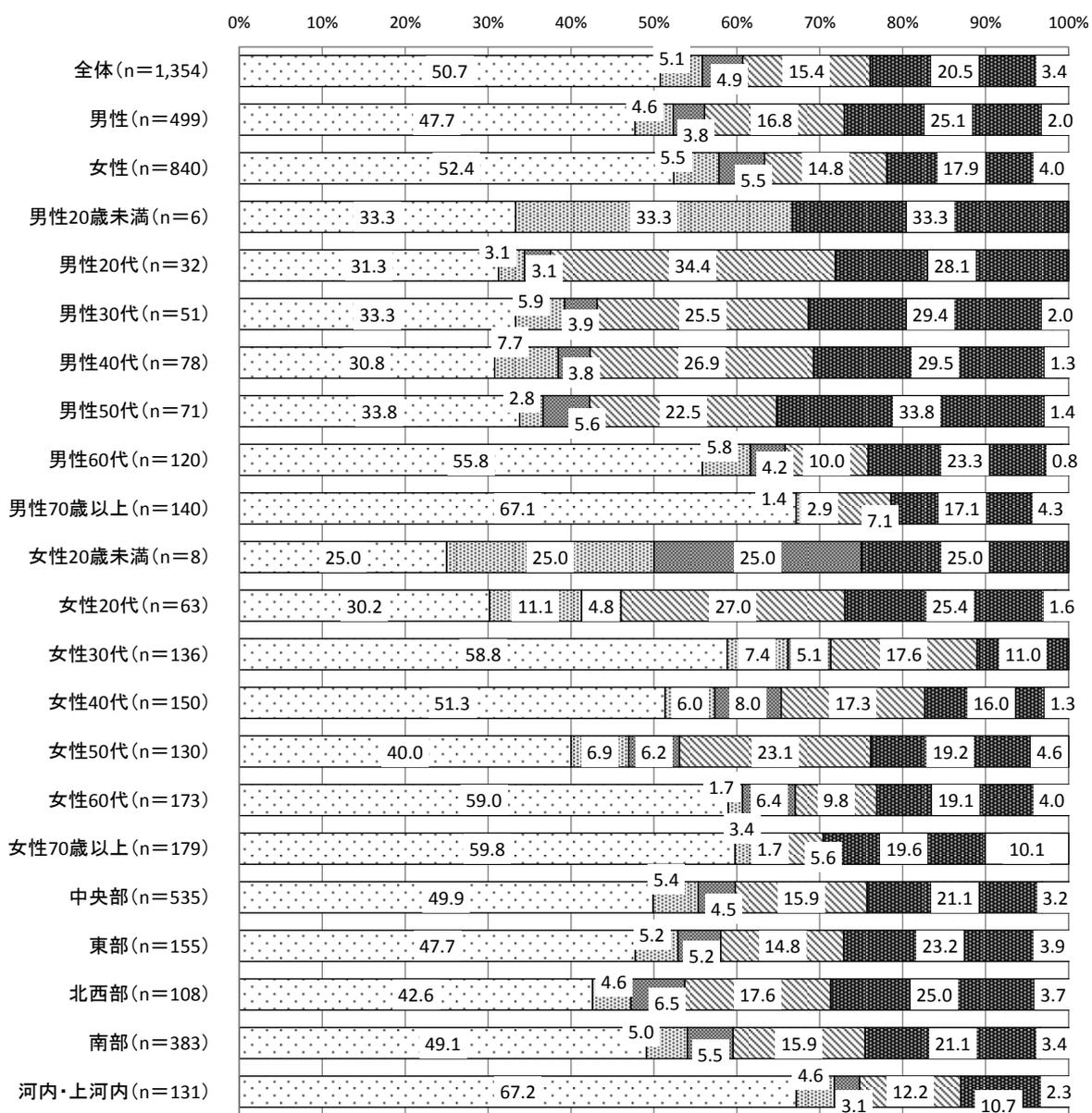
性別では、「毎日食べる」が女性 52.4%，男性 47.7%と、女性が約 5%高くなっている。

性・年齢別では、20代から60代において、「食べることはない」の割合が女性に比べ、男性の方が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」の「毎日食べる」(67.2%)の割合が、他地区に比べ高くなっている。(図表 I-2-12)

図表 I-2-12

問6 朝食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。(〇は1つだけ)



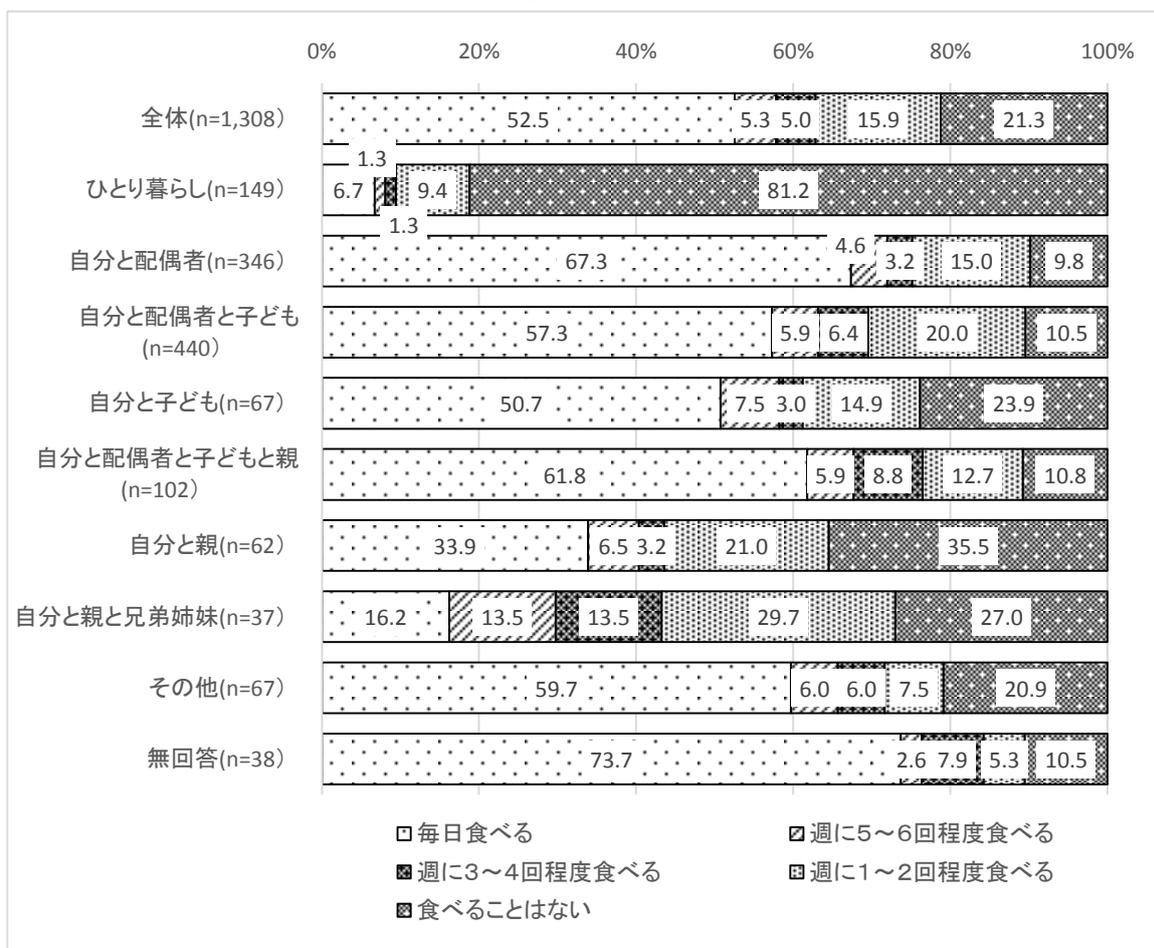
□毎日食べる □週5~6回程度食べる □週3~4回程度食べる □週1~2回程度食べる □食べることはない □無回答

【朝食の共食と家族構成の関連性】

◆「ひとり暮らし」のほか、「自分と親」「自分と親と兄弟姉妹」で未実施の割合が高い傾向

朝食の共食実施と家族構成の関連性を分析したところ、「食べることはない」の割合が、「ひとり暮らし」で81.2%と突出しているほか、「自分と親」(35.2%)、「自分と親と兄弟姉妹」(27.0%)でも、他の家族構成より高い傾向であった。(図表 I - 2 - 13)

図表 I - 2 - 13



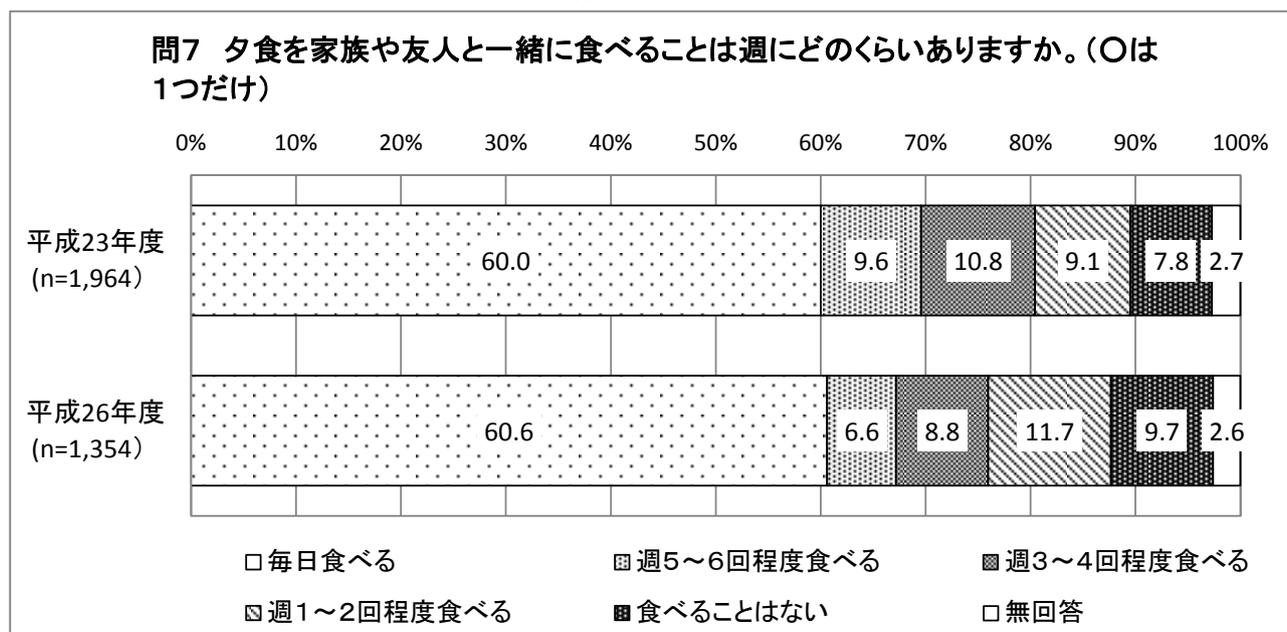
(7) 家族や友人との夕食（共食）

7 夕食を家族や友人と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約6割

家族と一緒に夕食を食べる機会は、「毎日食べる」（60.6%）が約6割を占め、平成23年度の水準を維持している。（図表I-2-14）

図表 I - 2 - 14



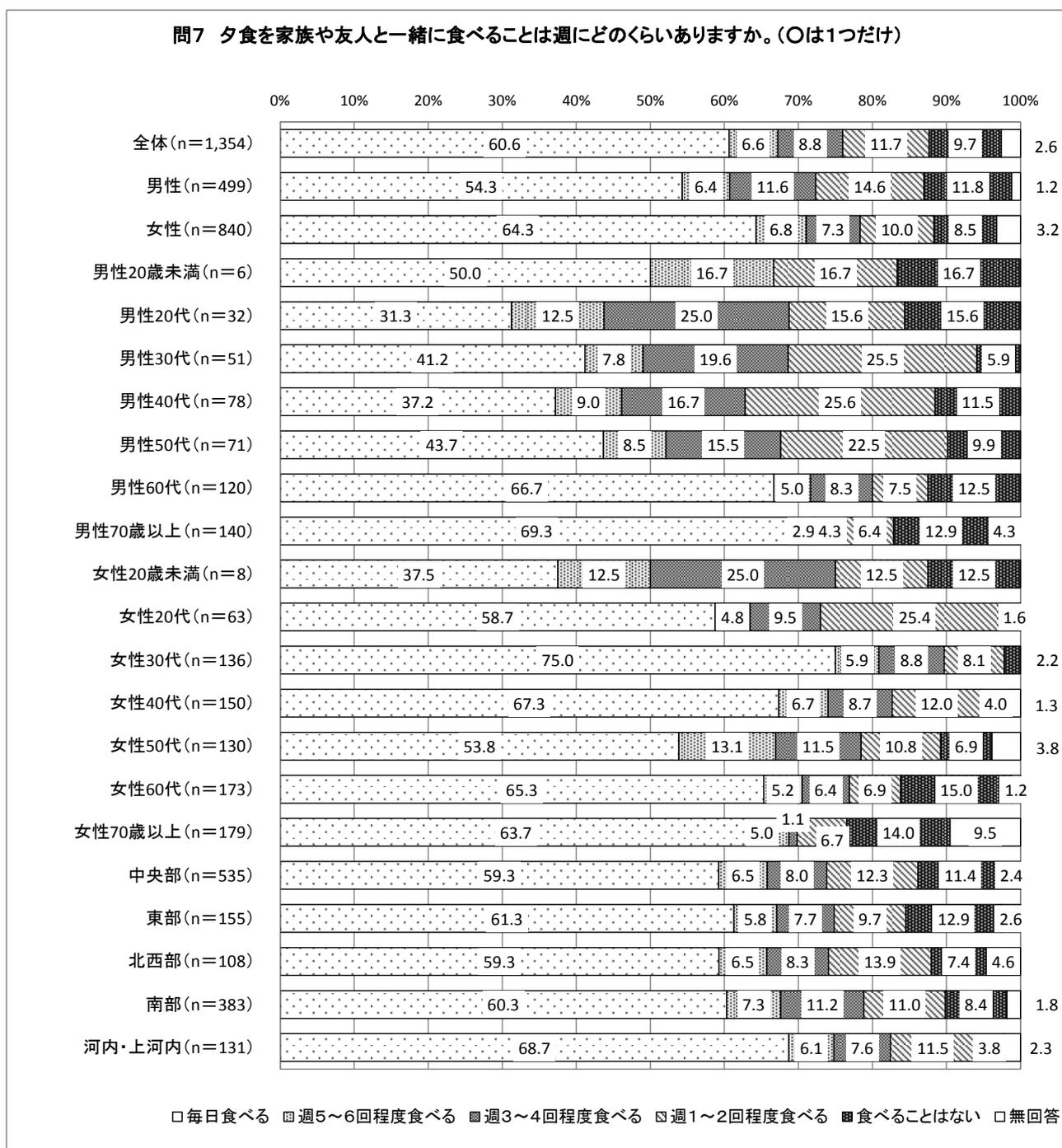
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性は「毎日食べる」(64.3%)が男性より約10%多くなっているが、男性も54.3%と、5割を超えている。

性・年齢別では、「毎日食べる」の割合が「女性30代」で75.0%と最も多くなっている。女性は「毎日食べる」の割合が高くなっている一方で、男性の20代から50代では、「毎日食べる」の割合が、他の年代に比べて低くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られないが、「河内・上河内」で「毎日食べる」(68.7%)の割合が、他地区に比べ高くなっている。(図表I-2-15)

図表 I - 2 - 15

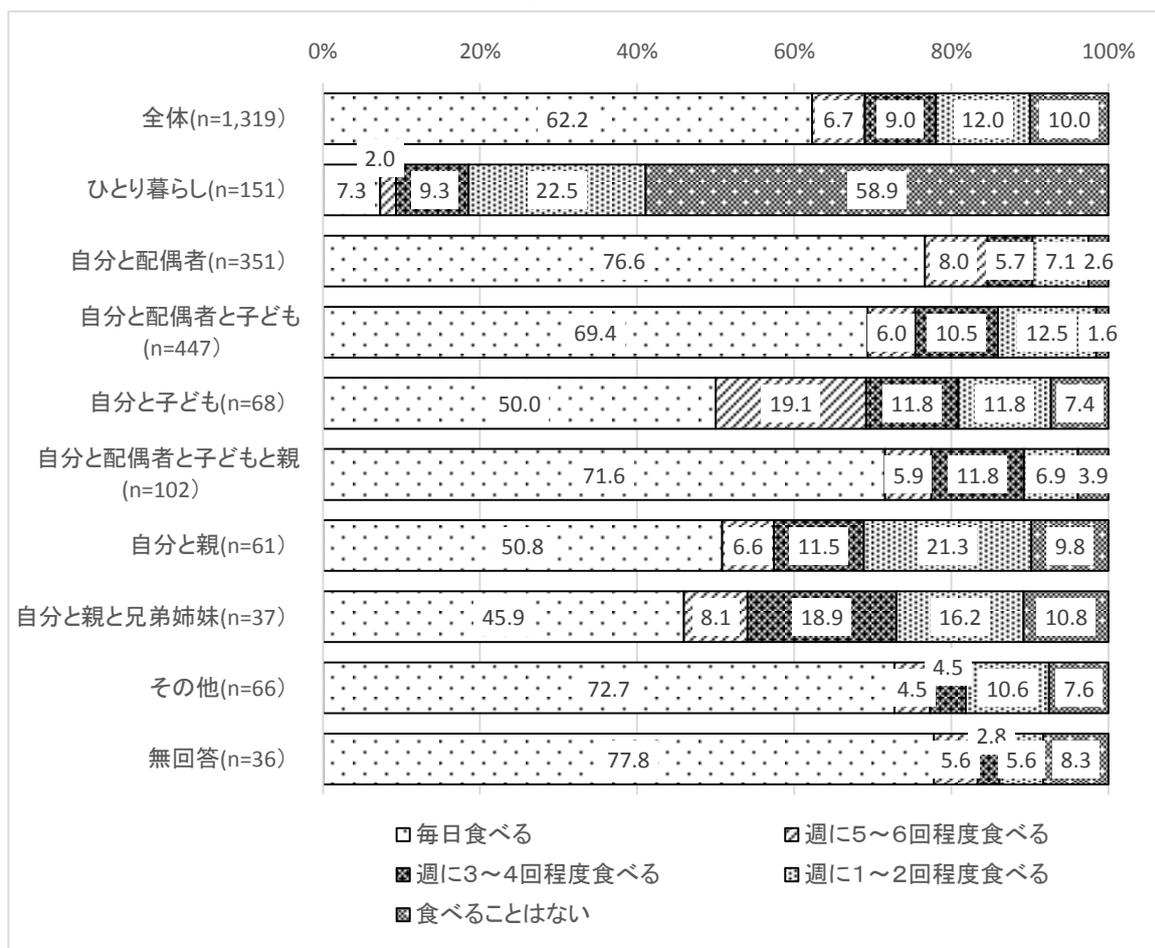


【夕食の共食と家族構成の関連性】

◆「ひとり暮らし」のほか、「自分と親」「自分と親と兄弟姉妹」で未実施の割合が高い傾向

夕食の共食実施と家族構成の関連性を分析したところ、朝食と同様に「食べることはない」の割合が、「ひとり暮らし」で58.9%と突出しているほか、「自分と親と兄弟姉妹」（10.8%）「自分と親」（9.8%）で、他の家族構成より高い傾向であった。（図表 I - 2 - 16）

図表 I - 2 - 16



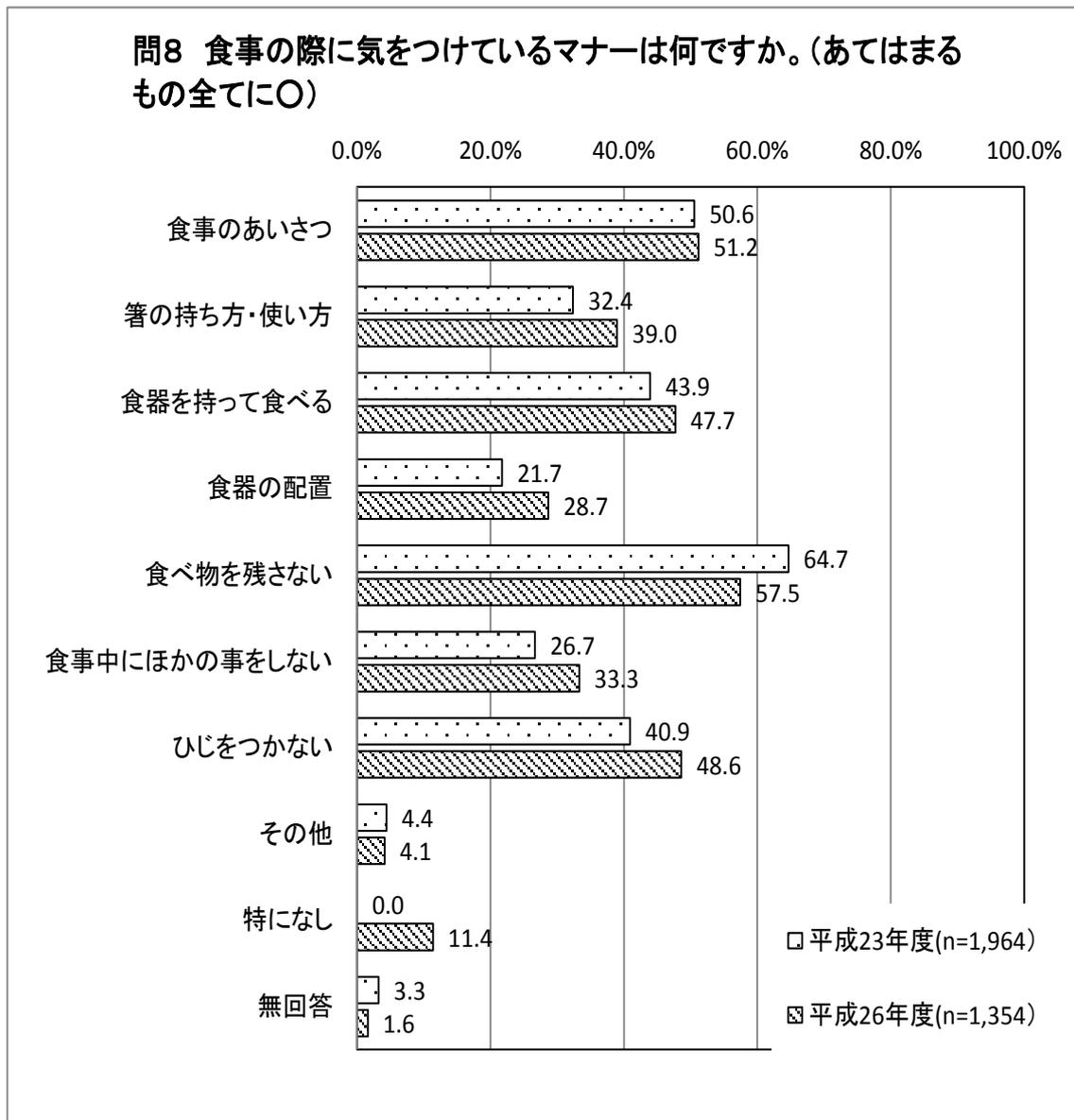
(8) 食事の際のマナー

8 食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食べ物を残さない」が約6割

食事の際に気をつけているマナーは、「食べ物を残さない」(57.5%)が約6割を占め、「食事のあいさつ」(51.2%)が5割を超えている。以下、「ひじをつかない」(48.6%),「食器を持って食べる」(47.7%)の順となっている。(図表I-2-17)

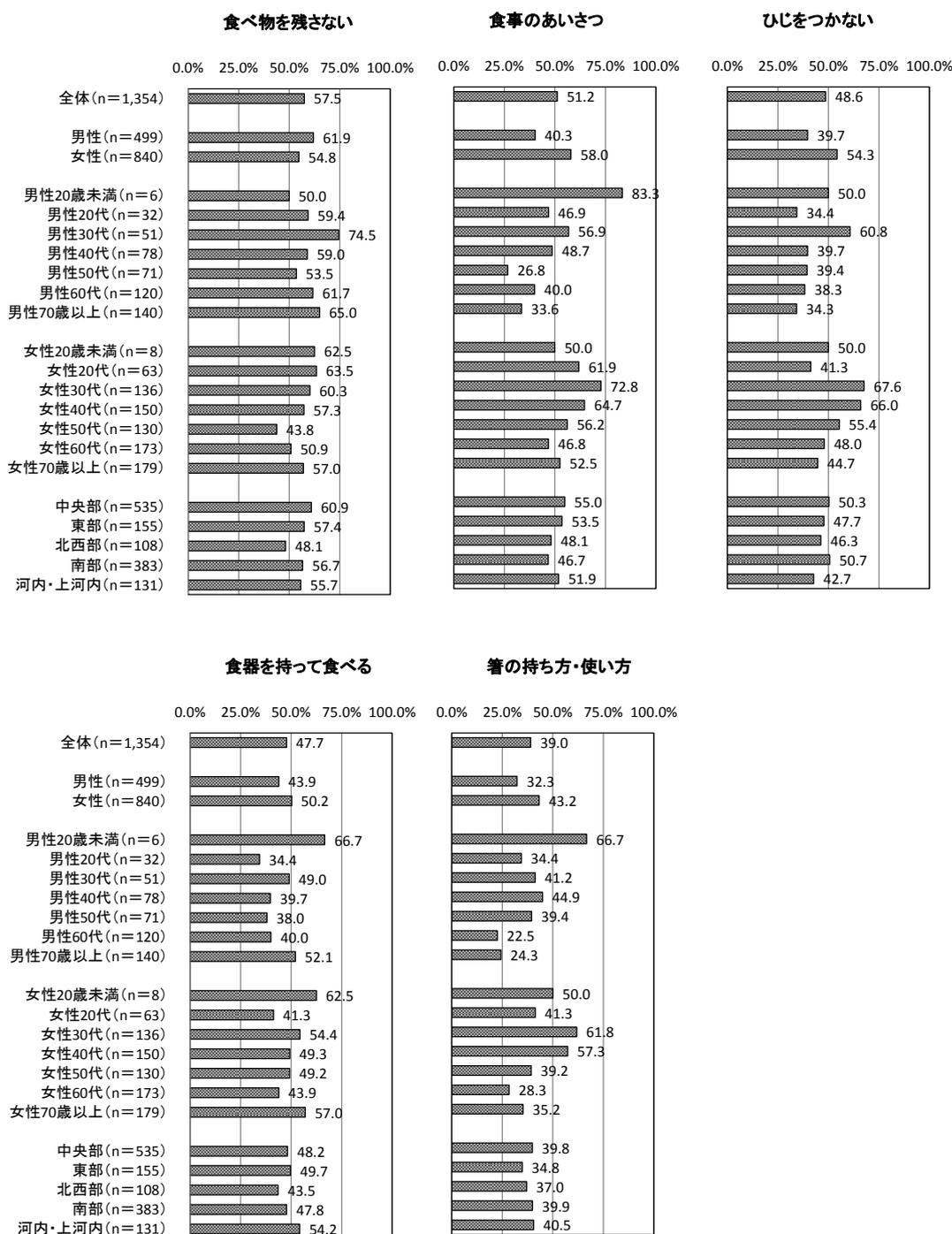
図表 I - 2 - 17



【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「食べ物を残さない」(61.9%)は男性の方が多く、「食事のあいさつ」(58.0%),「食器を持って食べる」(50.2%),「ひじをつかない」(54.3%)等は,女性の方が多くなっている。性・年齢別では,「食べ物を残さない」は,男性では「30代」(74.5%),女性では「20代」(63.5%)が最も高くなっている。また「女性30代」は,「食事のあいさつ」(72.8%),「ひじをつかない」(67.6%),「箸の持ち方・使い方」(61.8%)が最も高くなっている。居住地区別では,大きな差は見られない。(図表I-2-18)

図表 I - 2 - 18



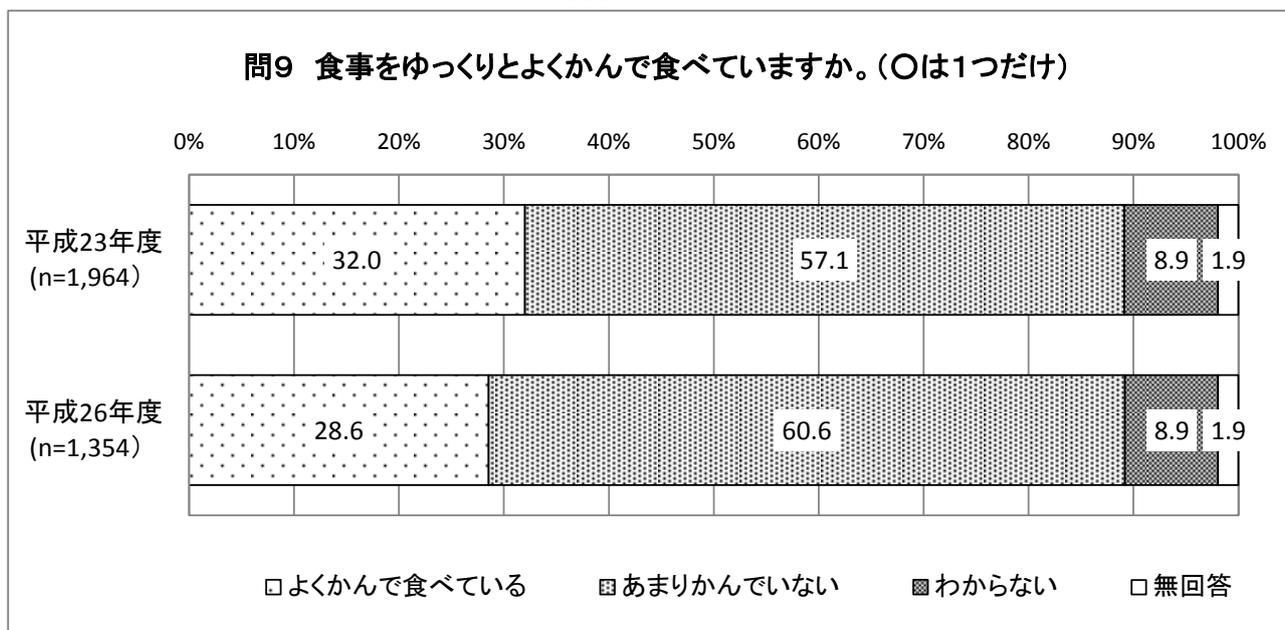
(9) 咀嚼

9 食事をゆっくりとよくかんで食べていますか。

◆「あまりかんでいない」が6割超

食事をゆっくりとよくかんで食べているか聞いたところ、「あまりかんでいない」(60.6%)が6割を超えている。平成23年度調査に比べると「よくかんで食べている」が減少している。(図表I-2-19)

図表 I - 2 - 19



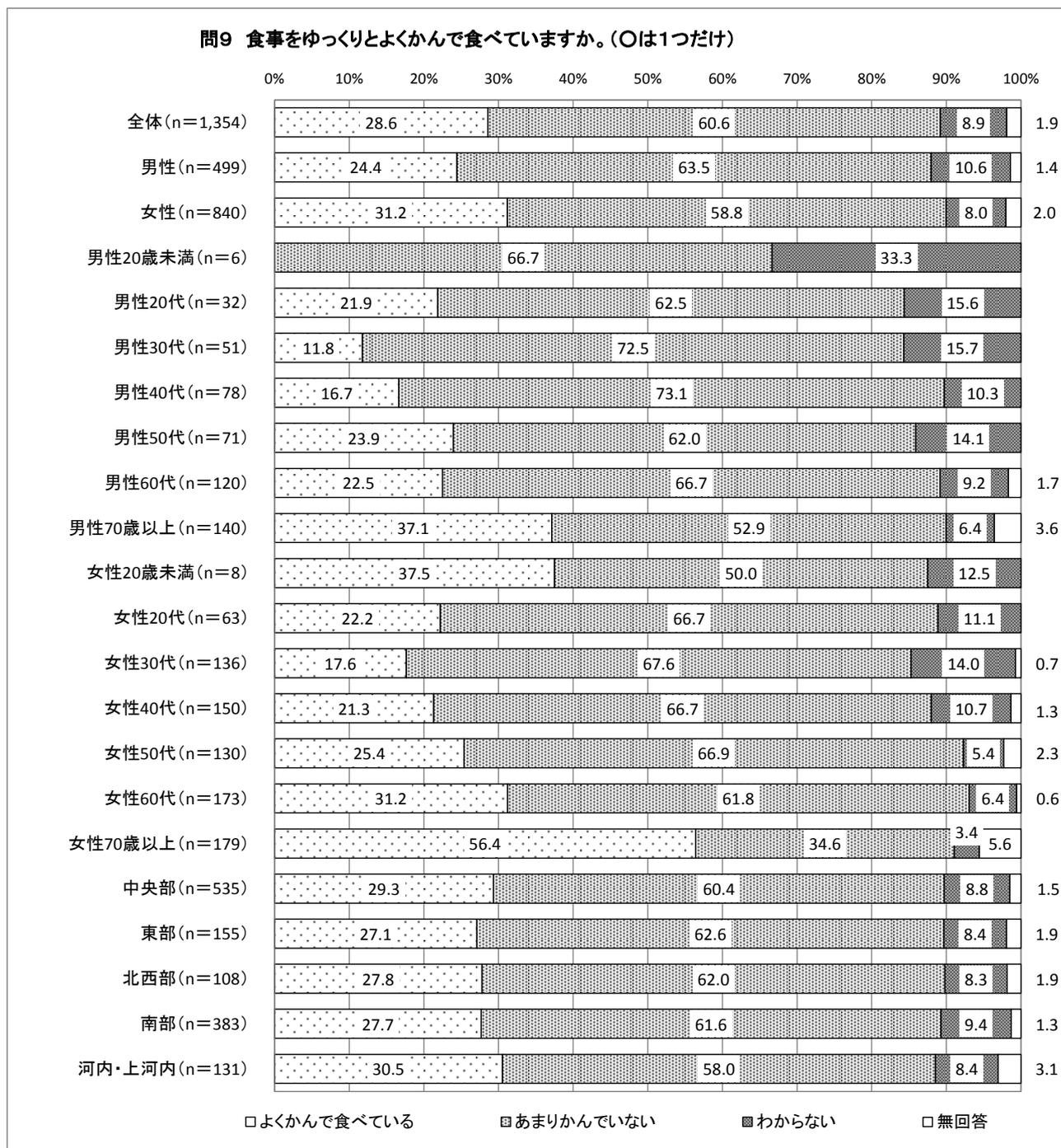
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「よくかんで食べている」で男性より女性の割合が多くなっている。

性・年齢別では、男女とも年齢が高くなる程、「よくかんで食べている」の割合が多くなっており、「女性70歳以上」が56.4%と最も高くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 20)

図表 I - 2 - 20

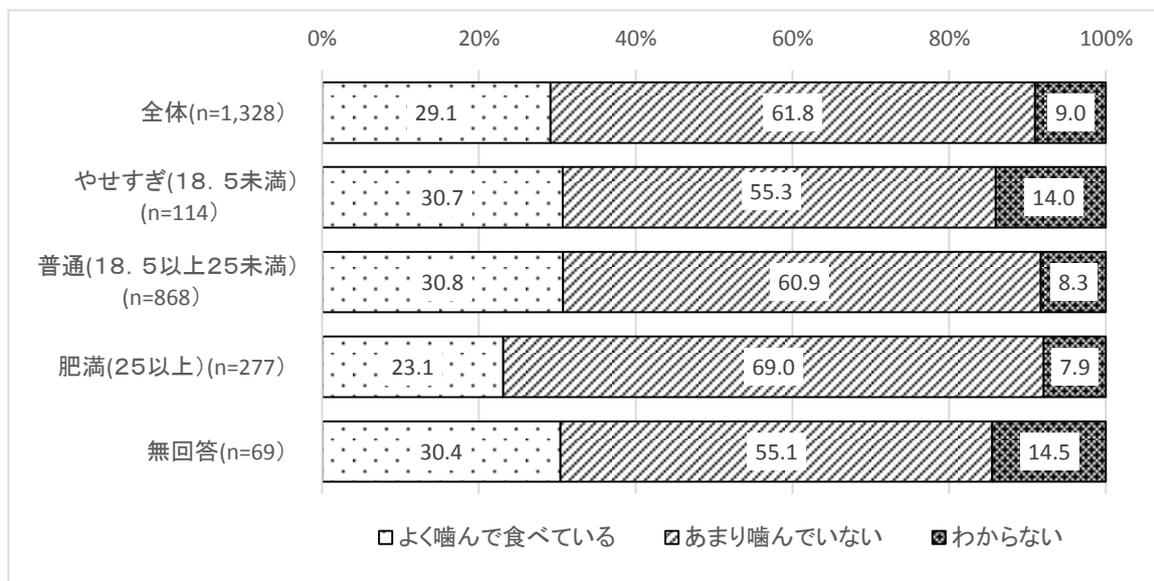


【咀嚼と体型の関連性】

◆肥満の方が、よくかんで食べている人が少ない傾向

咀嚼と体型の関連性を分析したところ、「よくかんで食べている」人の割合は、「肥満」で23.1%と、「標準」(30.8%)「やせすぎ」(30.7%)と比較して少ない傾向であった。(図表 I - 2 - 21)

図表 I - 2 - 21



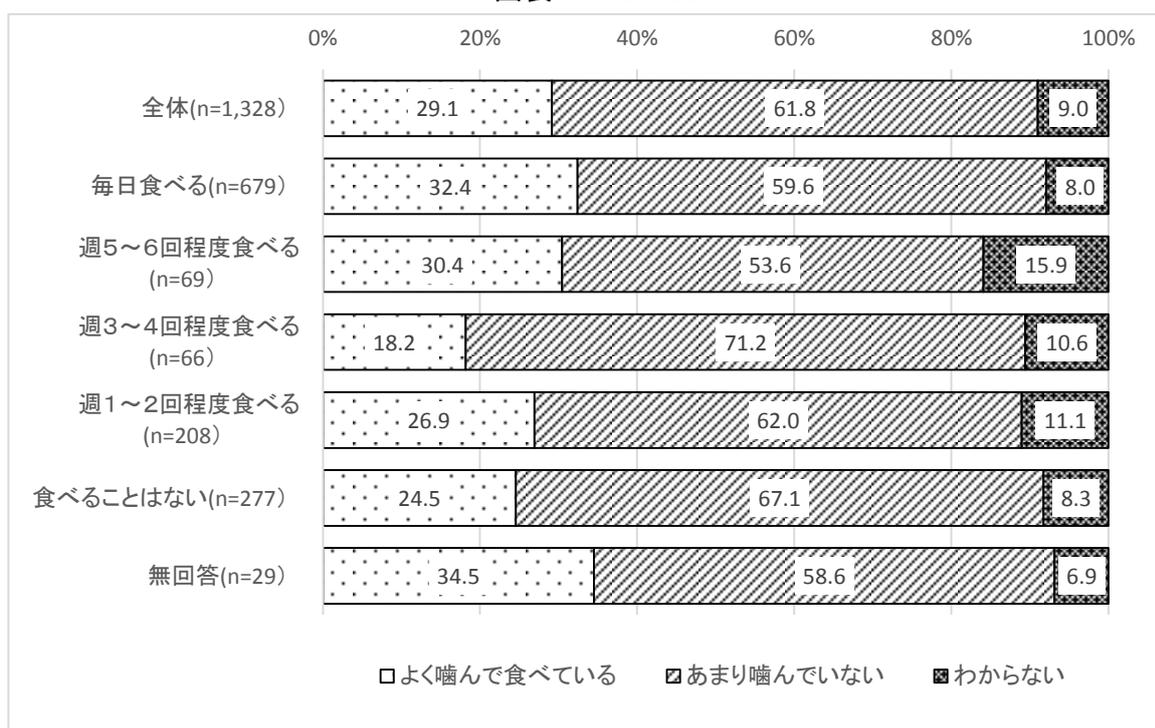
【咀嚼と共食の関連性】

◆共食を実施している人の方が、よくかんで食べている人の割合が多い傾向

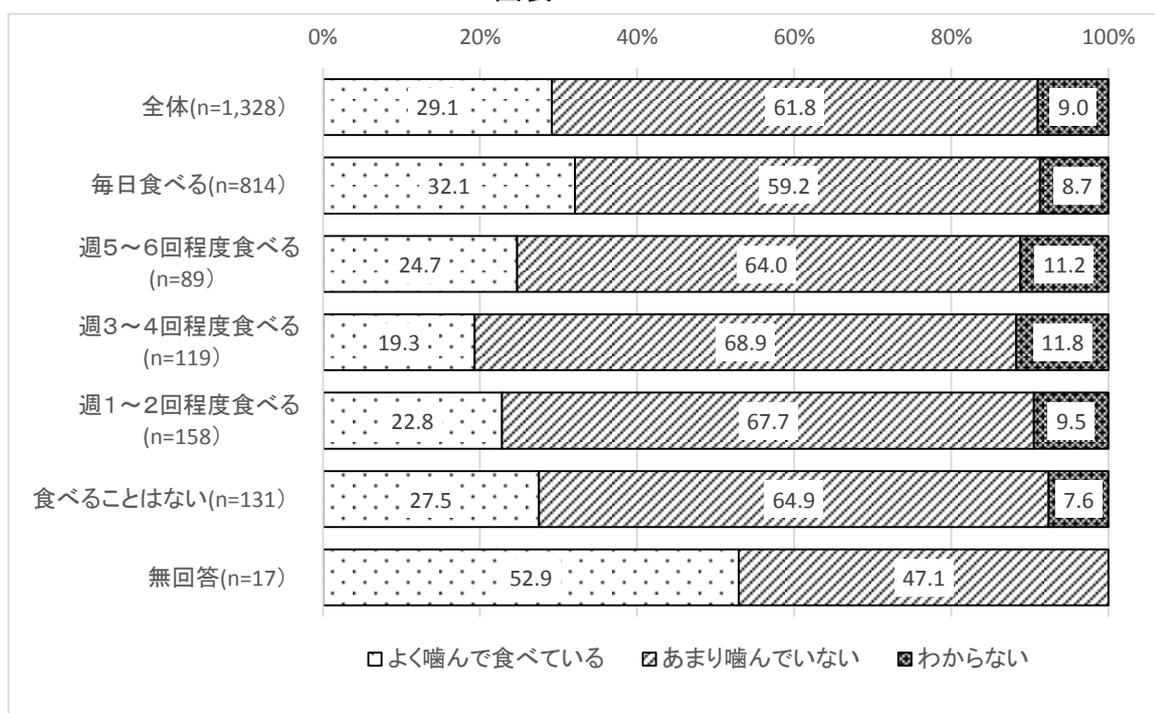
咀嚼と共食の関連性を分析したところ、「よくかんで食べている」人の割合が、朝食を家族と「毎日食べる」人では32.4%と、共食の実施回数が少ない人と比較して多い傾向であった。(図表I-2-22)

また、夕食の場合も同様に、「よくかんで食べている」人の割合が、夕食を家族と「毎日食べる」人では32.1%と、共食の実施回数が少ない人と比較して多い傾向であった。(図表I-2-23)

図表 I - 2 - 22



図表 I - 2 - 23



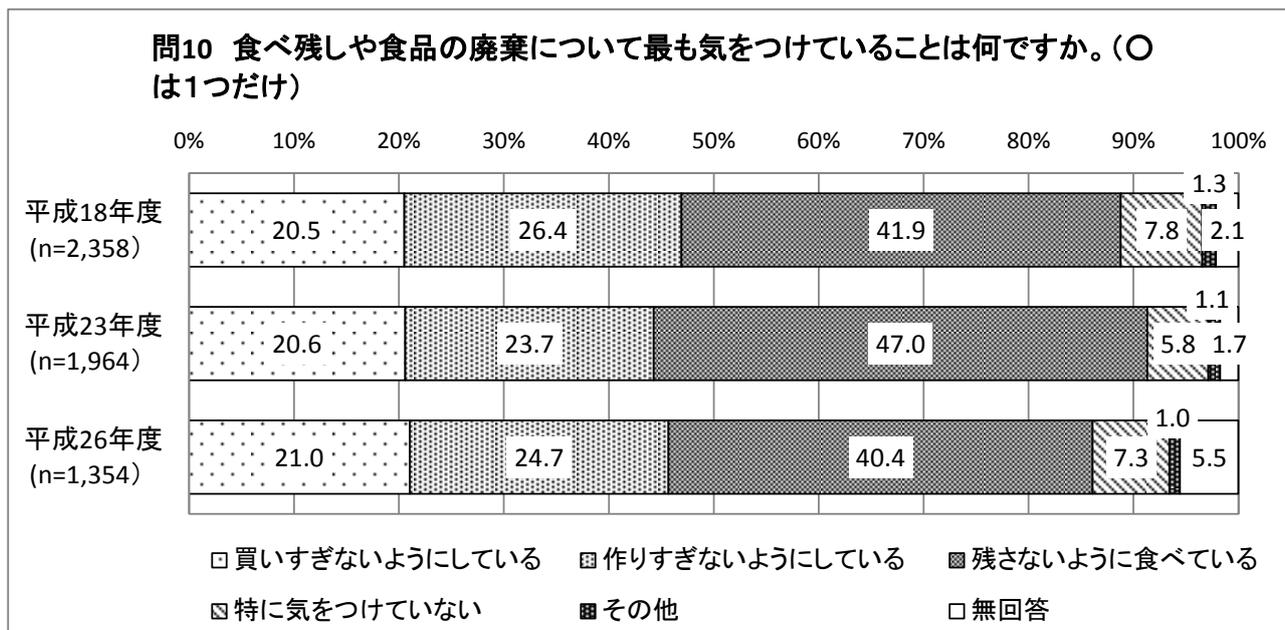
(10) 食べ残しや食品の廃棄への関心

10 食べ残しや食品の廃棄に関して最も気をつけていることは何ですか。

◆「残さないように食べている」が4割

食べ残しや廃棄に関して、「残さないように食べている」が、平成18年度調査では41.9%、平成23年度調査では47.0%まで増加していたが、本調査では40.4%と減少した。(図表I-2-24)

図表 I - 2 - 24



【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「残さないように食べている」の割合が「女性」(32.0%)に比べ「男性」(54.7%)の方が高くなっている。また「特に気をつけていない」の割合も「女性」(5.1%)に比べ、「男性」(10.6%)の方が高くなっている。

性・年齢別では、「男性」は全年代で「残さないように食べている」の割合が最も多く、「女性」では「20歳未満」～「40代」では「残さないように食べている」,「50代」では「買い過ぎないようにしている」,「60代」～「70歳以上」では「作りすぎないようにしている」が最も多くなっている。

居住地区別では、特に大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 25)

図表 I - 2 - 25



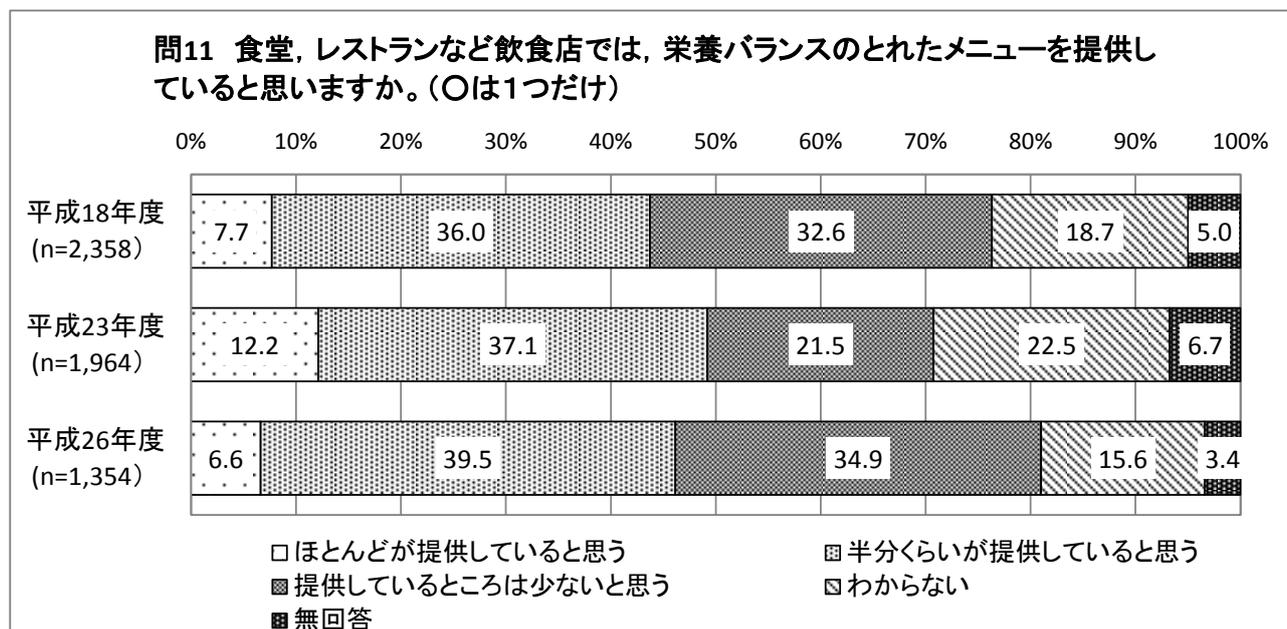
(11) 食堂, レストラン等が提供する食事の栄養バランス

11 食堂, レストランなど飲食店では, 栄養バランスのとれたメニューを提供していると思いますか。

◆「提供しているところは少ないと思う」が増加

外食の場合, 栄養バランスのとれたメニューを「ほとんどが提供していると思う」が平成18年度調査の7.7%から, 平成23年度調査では12.2%に増加したが, 本調査では6.6%まで減少した。また, 「提供しているところは少ないと思う」が32.6%から21.5%と大幅に減少していたが, 34.9%まで増加している。(図表I-2-26)

図表 I - 2 - 26

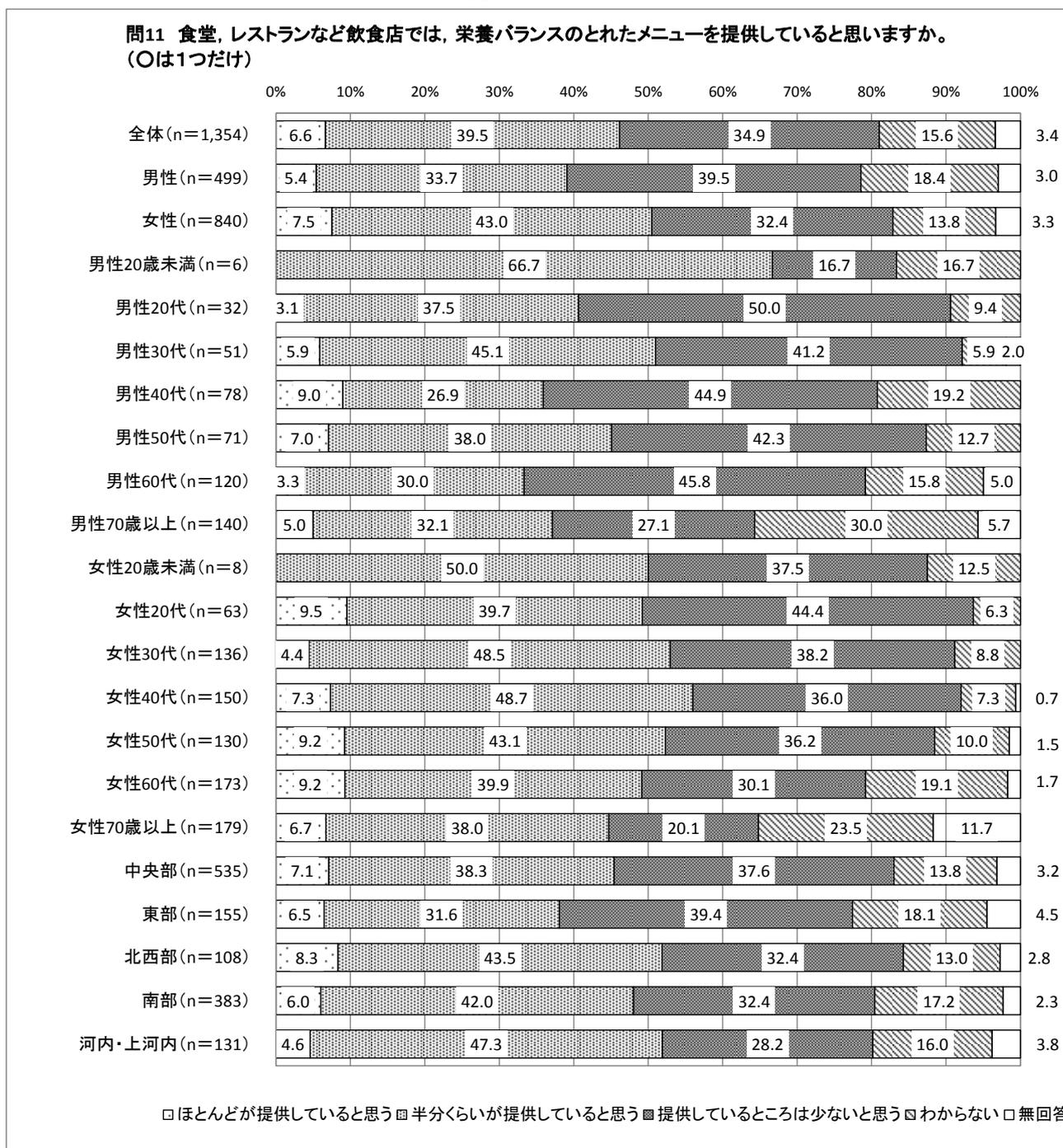


【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「女性」は「男性」よりも「半分くらいが提供していると思う」が高くなっている。
 性・年齢別では、女性ではほとんどの年代で「半分くらいが提供していると思う」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「東部」では「提供しているところは少ないと思う」の回答が最も多く、その他の地区では「半分くらいが提供していると思う」の割合が高くなっている。(図表 I-2-27)

図表 I-2-27



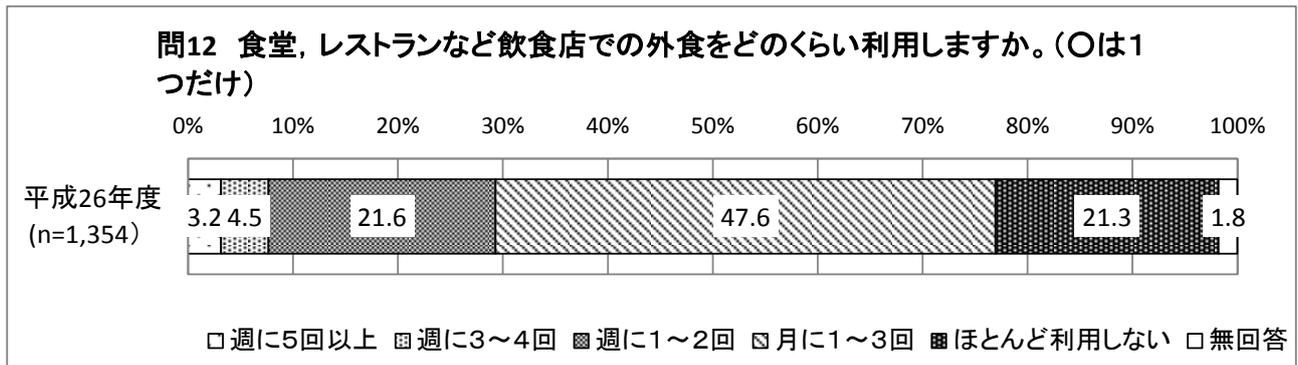
(12) 外食の利用頻度

12 食堂, レストランなど飲食店での外食をどのくらい利用しますか。

◆「月に1～3回」が約半数

外食の利用度について、「月に1～3回」が47.6%と約半数を占める。次いで「週に1～2回」(21.6%), 「ほとんど利用しない」(21.3%) となっている。(図表I-2-28)

図表 I - 2 - 28

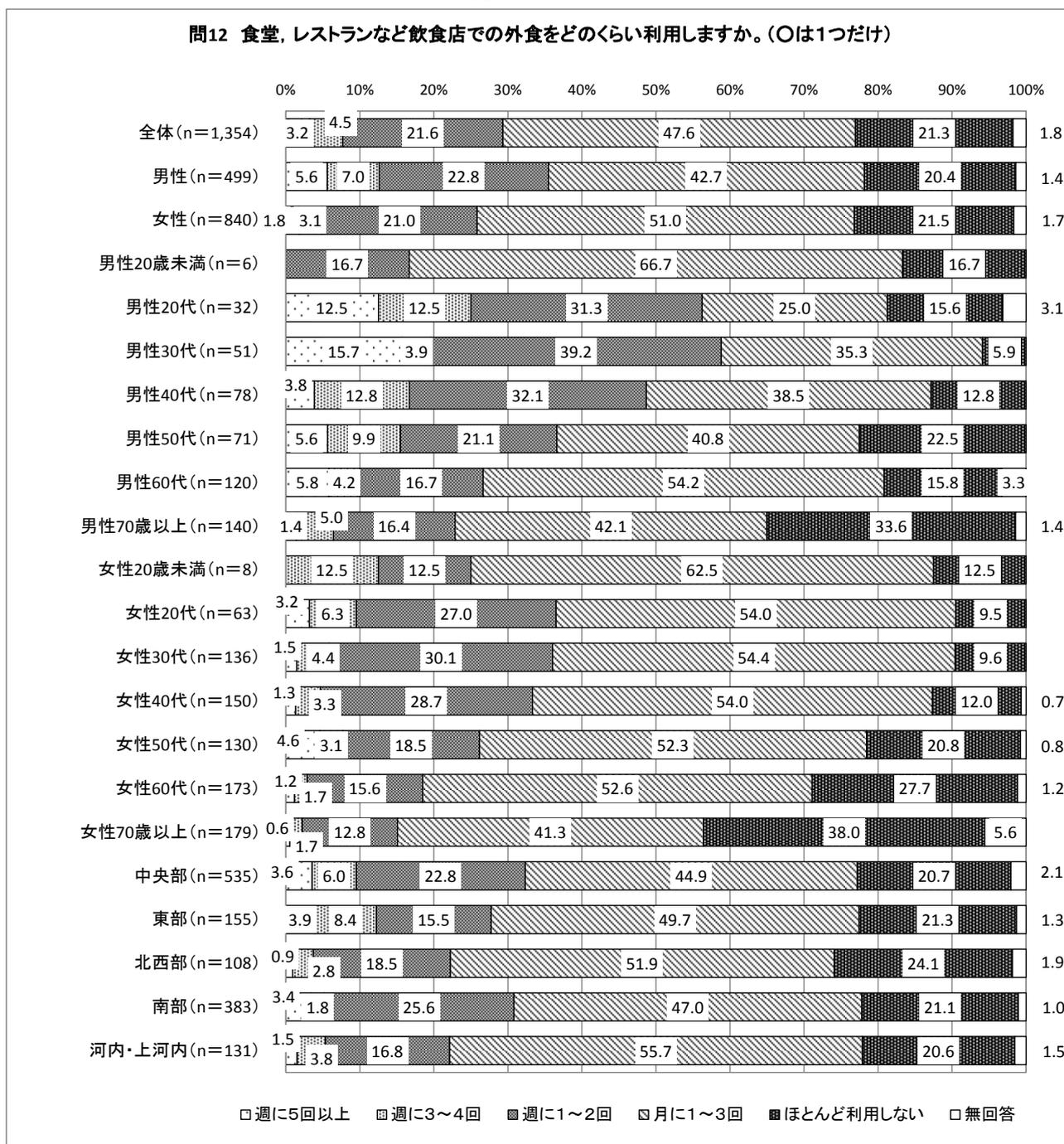


【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「週に5回以上」は「女性」(1.8%)より「男性」(5.6%)が約4%高くなっている。
 性・年齢別では、男女ともに年齢が低い程、外食の割合が多い傾向にあり、男性の「20代」「30代」では「週1回以上利用する」(「週に5回以上利用する」「週に3~4回以上利用する」「週に1~2回」の合計)の割合が約5割を超えている。

居住地区別では、全地区で「月に1~3回」の割合が高くなっている。(図表I-2-29)

図表 I - 2 - 29

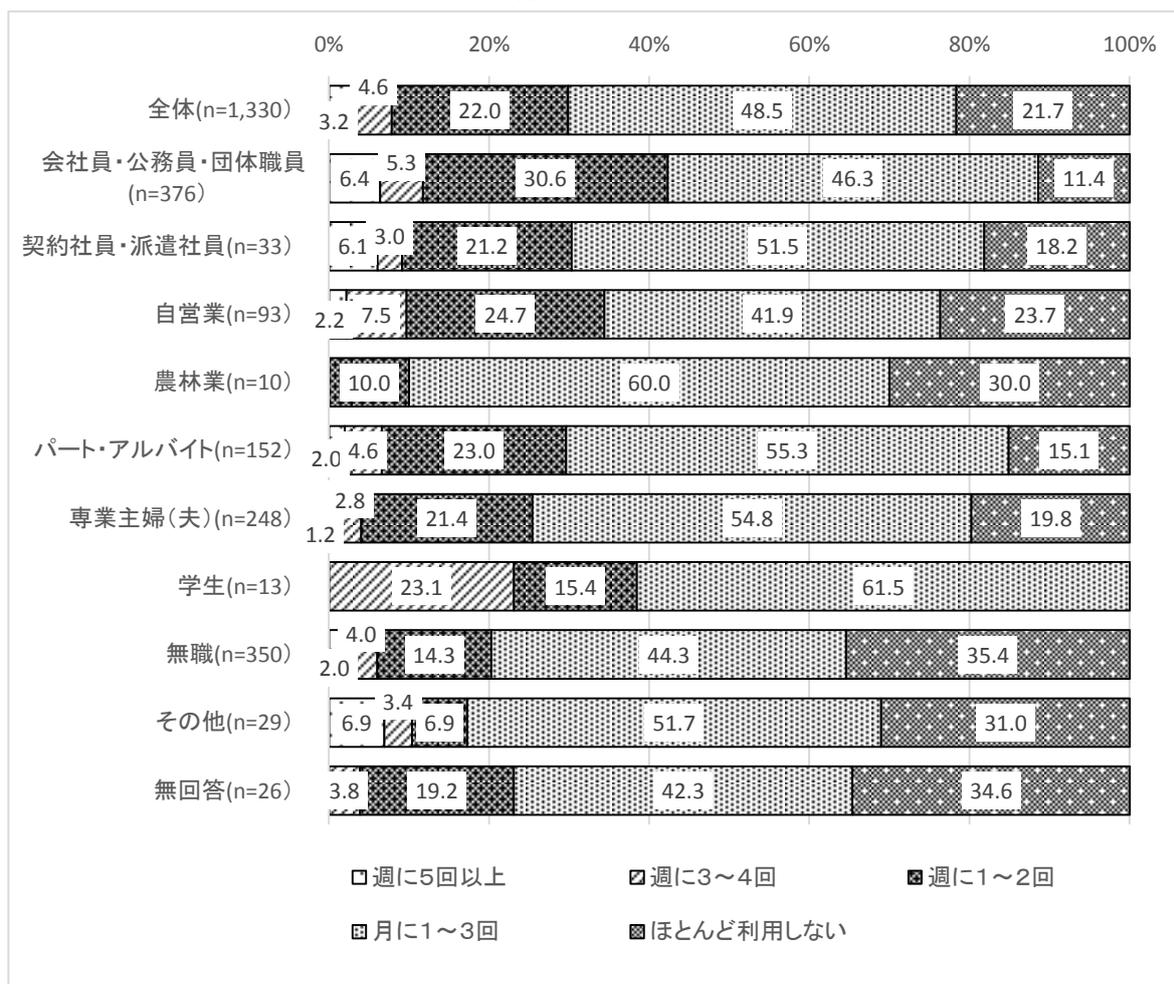


【外食の利用頻度と職業の関連性】

◆「会社員・公務員・団体職員」で利用頻度が高い傾向

外食の利用頻度と職業の関連性を分析したところ、週1回以上（「週5回以上」「週3～4回」「週1～2回」の合計）の割合が、「会社員・公務員・団体職員」では42.3%と、他の職業と比較して高い傾向であった。（図表I-2-30）

図表 I - 2 - 30



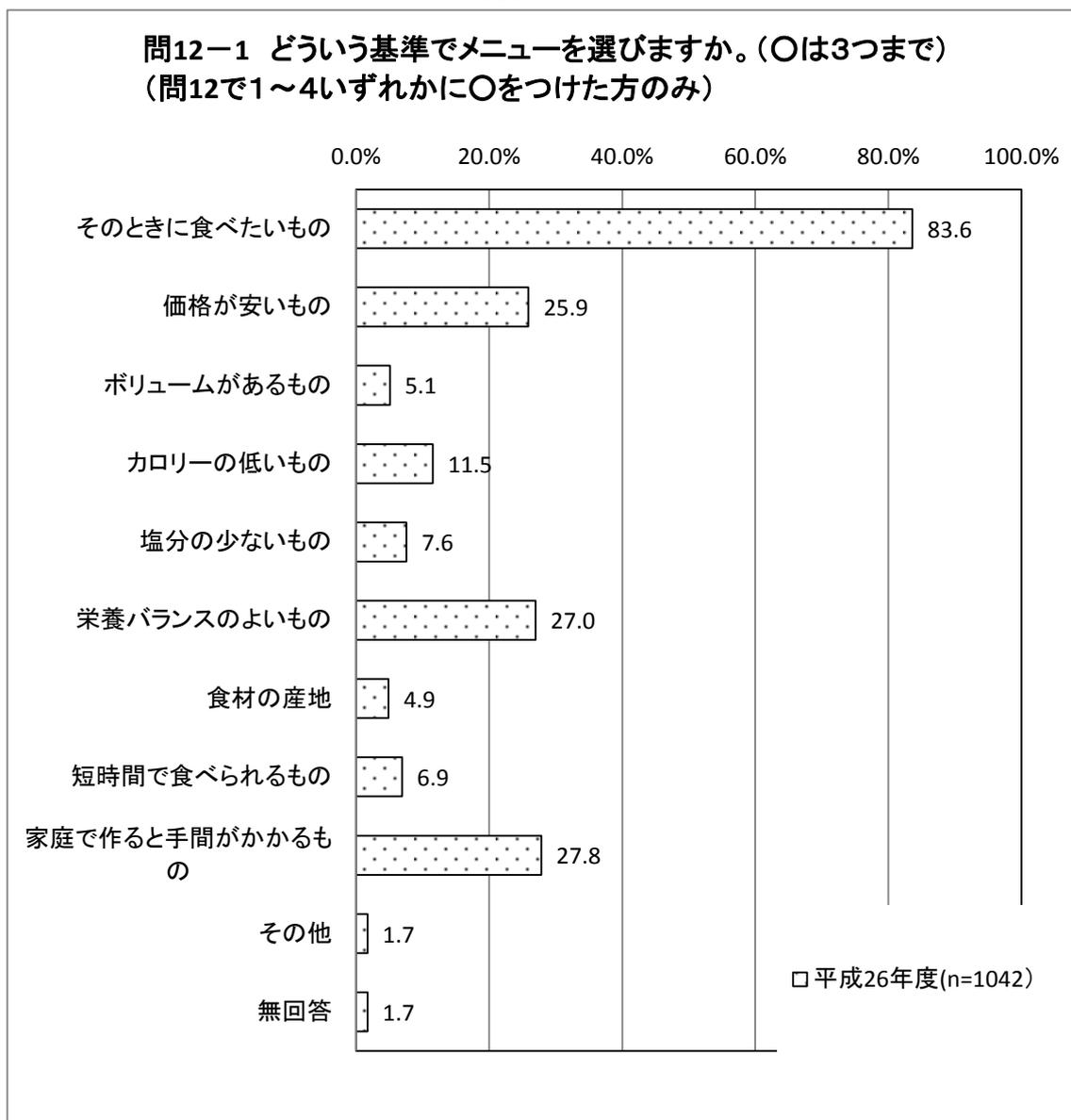
(12-1) 外食でのメニューの選び方

12-1 どのような基準でメニューを選びますか。

◆「そのときに食べたいもの」が約8割

前問で「月に1回以上飲食店を利用している」と回答した人にメニューを選ぶ基準を聞いたところ、「そのときに食べたいもの」が83.6%と最も多く、次いで「家庭で作ると手間がかかるもの」(27.8%)、「栄養バランスのよいもの」(27.0%)となっている。(図表I-2-31)

図表 I - 2 - 31



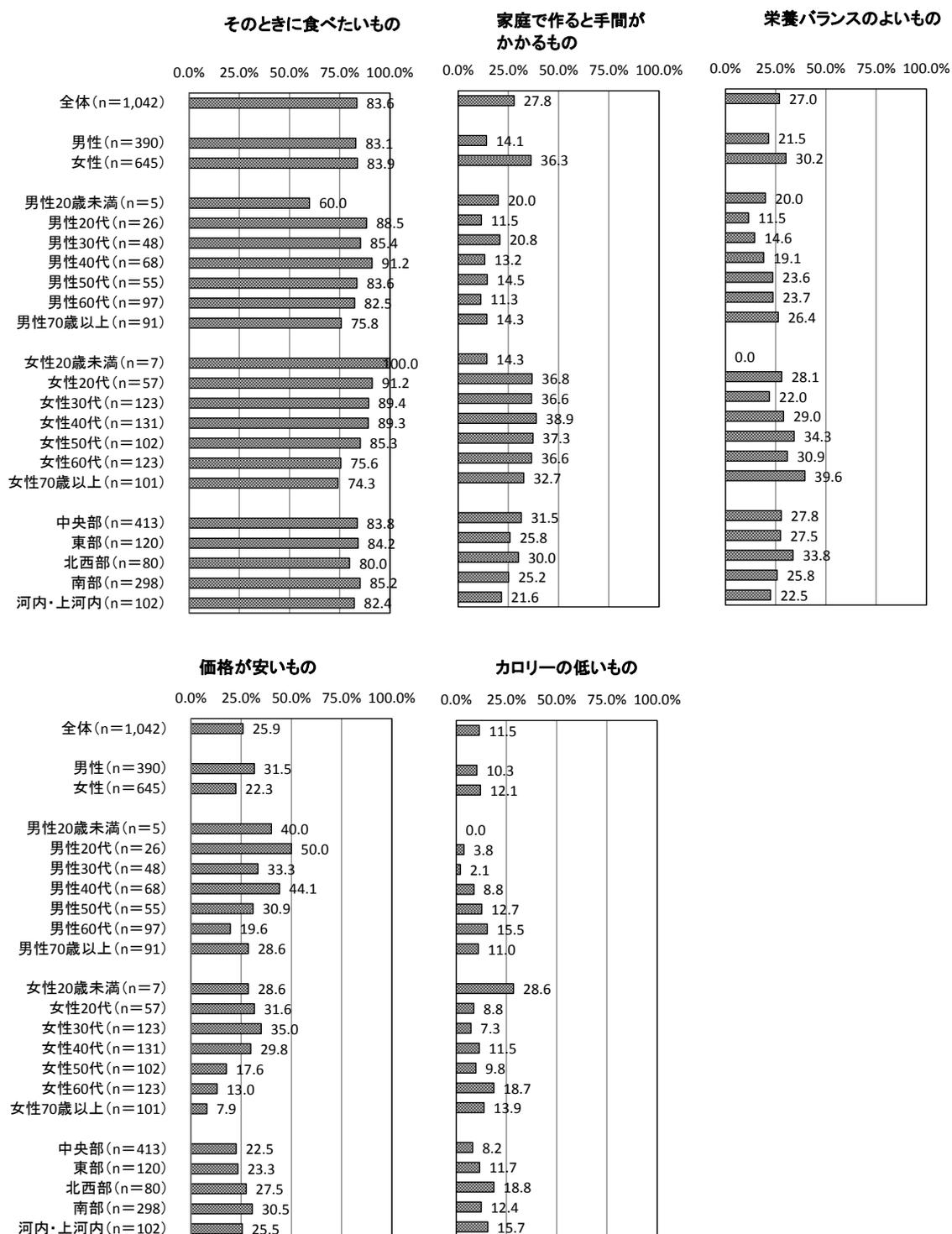
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「そのときに食べたいもの」が8割占め、次いで男性では「価格が安いもの」、女性では「家庭で作ると手間がかかるもの」、「栄養バランスのよいもの」となっている。

性・年齢別では、年齢が高くなるほど、「栄養バランスのよいもの」の割合が高くなる傾向にある。また、年齢が低いほど「価格の安いもの」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 32)

図表 I - 2 - 32



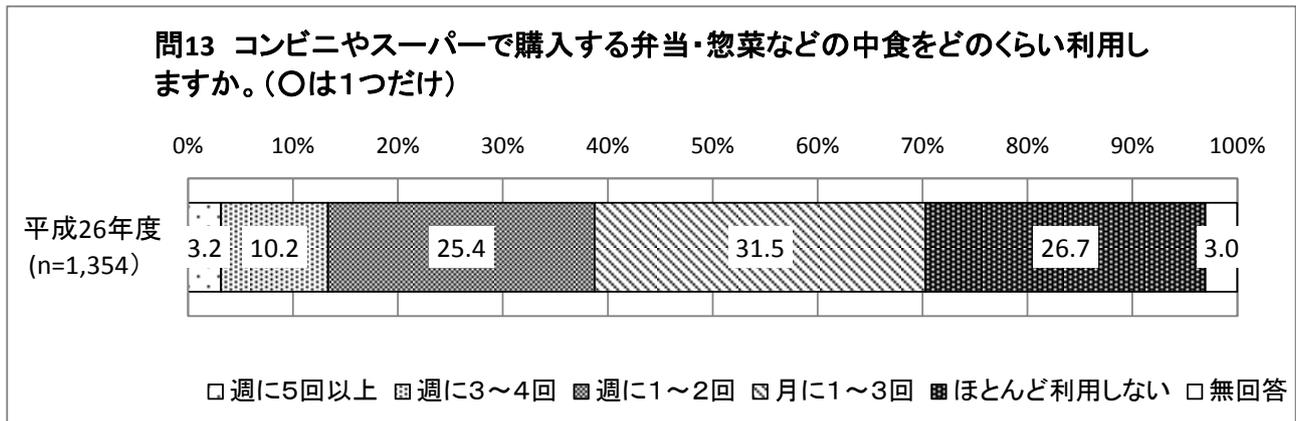
(13) 中食の利用頻度

13 コンビニやスーパーで購入する弁当・惣菜などの中食をどのくらい利用しますか。

◆「月に1～3回」が約3割

中食の利用では、「月に1～3回」(31.5%)が最も多く、次いで「ほとんど利用しない」(26.7%), 「週に1～2回」(25.4%)となっている。(図表I-2-33)

図表 I - 2 - 33



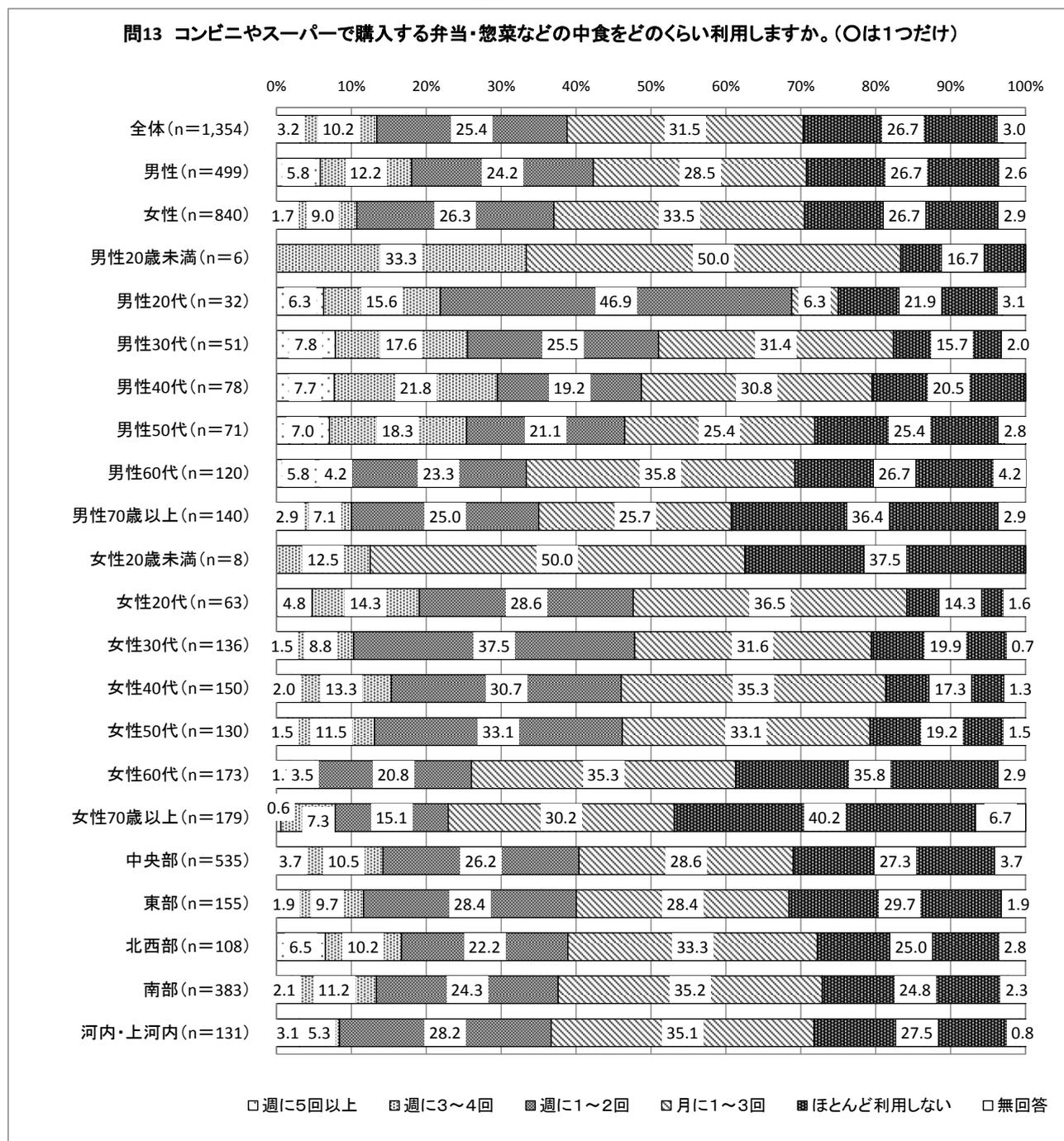
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「月に1～3回」が最も多くなっている。

性・年齢別では、男女ともに20代から50代の利用頻度が高く、約5割が「週1回以上利用」（「週に5回以上利用する」「週に3～4回以上利用する」「週に1～2回」の合計）している。特に「男性20代」では「週1回以上利用」が約7割を占めている。

居住地区別では、「北西部」で「週に5回以上」の割合が他地区に比べて高くなっている。（図表I-2-34）

図表 I - 2 - 34

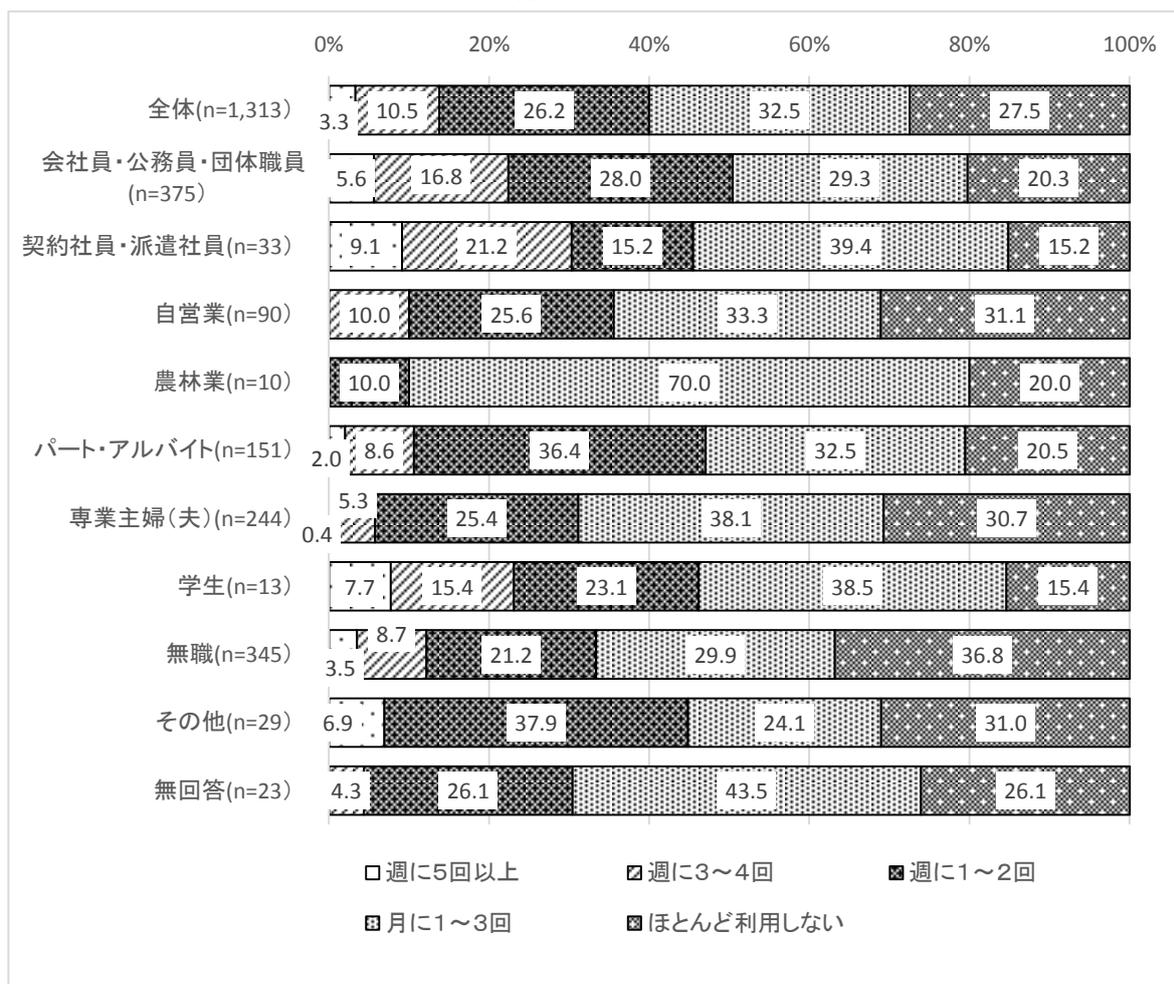


【中食の利用頻度と職業の関連性】

◆「会社員・公務員・団体職員」で利用頻度が高い傾向

中食の利用頻度と職業の関連性を分析したところ、週1回以上（「週5回以上」「週3～4回」「週1～2回」の合計）の割合が、「会社員・公務員・団体職員」では50.4%と、他の職業と比較して高い傾向であった。（図表I-2-35）

図表 I - 2 - 35



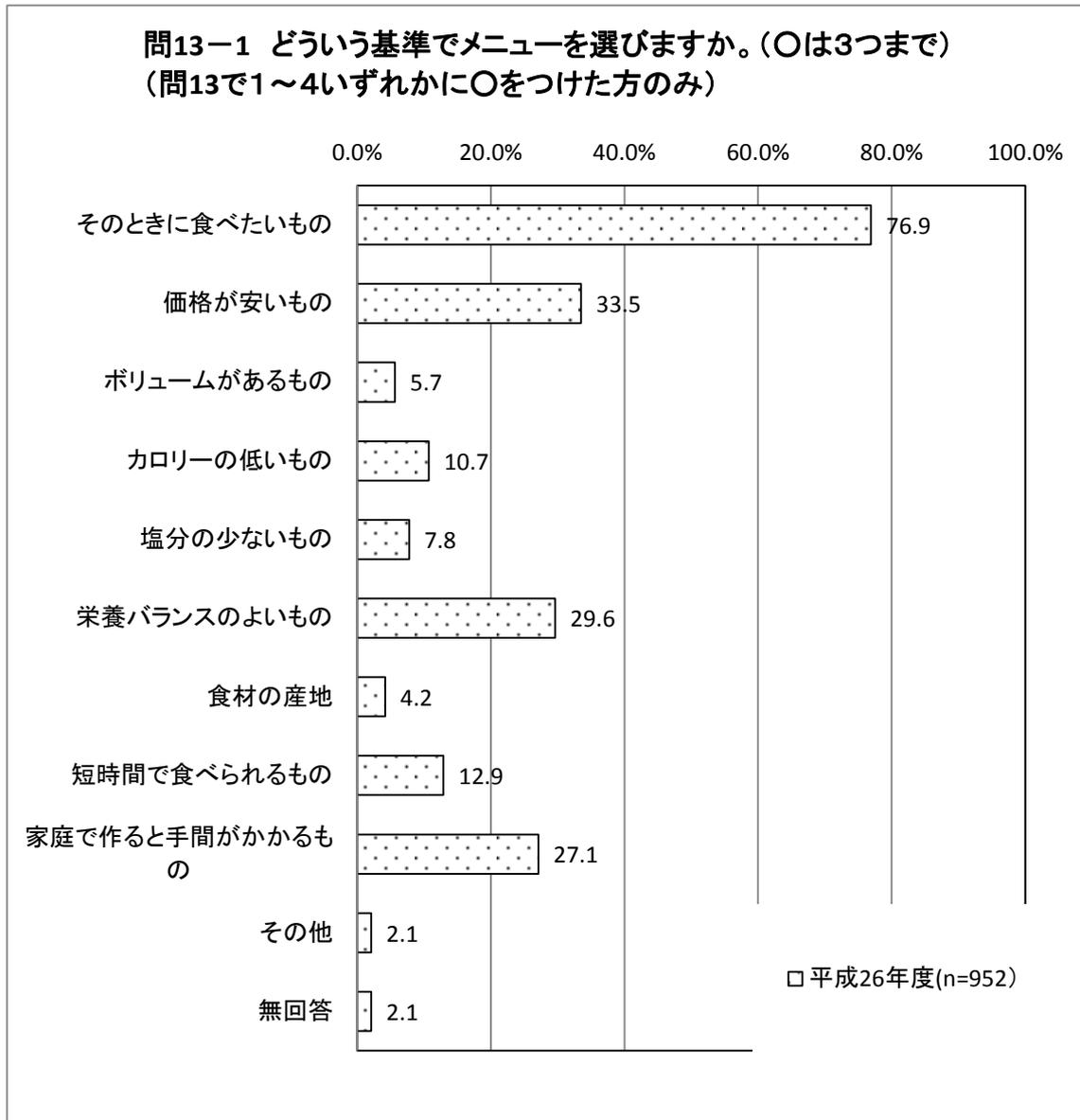
(13-1) 中食でのメニューの選び方

13-1 どういう基準でメニューを選びますか。

◆「そのときに食べたいもの」が約8割

前問で「月に1回以上中食を利用する」と回答した人にメニューを選ぶ基準を聞いたところ「その時に食べたいもの」が76.9%と最も多く、次いで「価格が安いもの」(33.5%)、「栄養バランスのよいもの」(29.6%)、「家庭で作ると手間がかかるもの」(27.1%)となっている。(図表I-2-36)

図表 I - 2 - 36



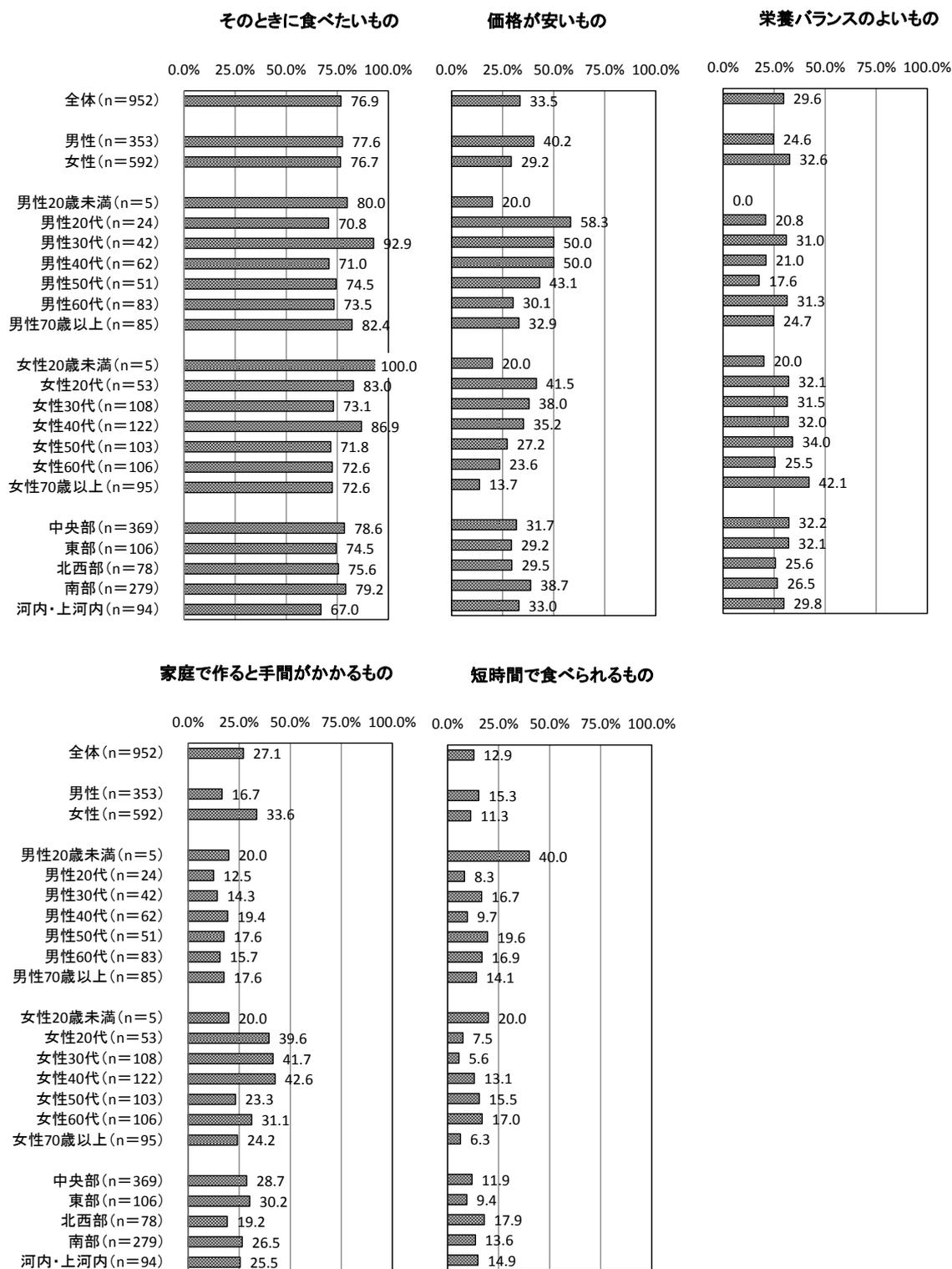
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「そのときに食べたいもの」が約8割占め、次いで男性では「価格が安いもの」、女性では「家庭で作ると手間がかかるもの」、栄養バランスのよいもの」となっている。

性・年齢別では、年齢が低いほど、「価格が安いもの」の割合が多くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I - 2 - 37)

図表 I - 2 - 37



(14) 飲食業者に対する希望

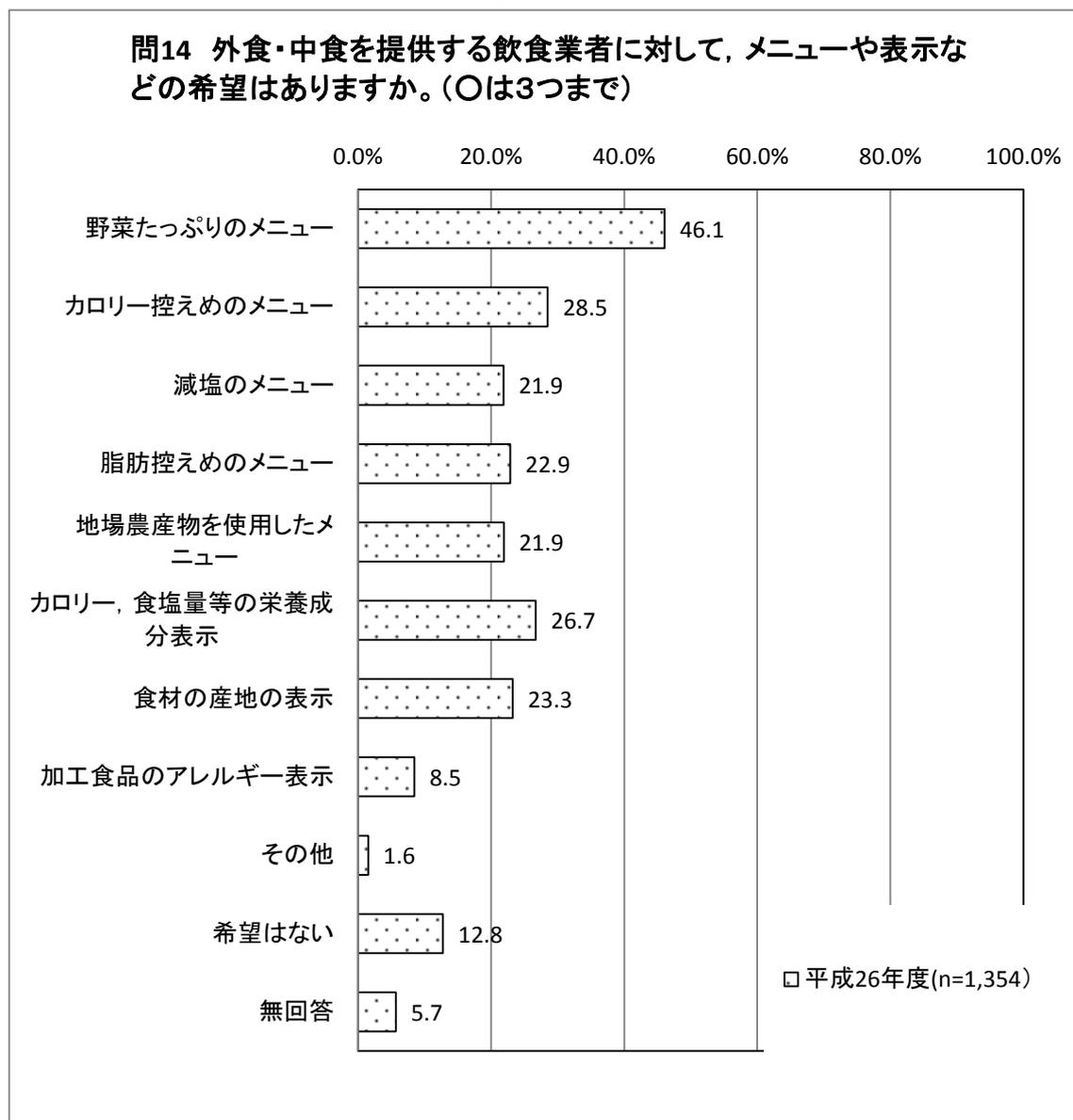
14 外食・中食を提供する飲食業者に対して、メニューや表示などの希望はありますか。

◆「野菜たっぷりのメニュー」が4割強

メニューや表示の希望では、「野菜たっぷりのメニュー」(46.1%)が最も多く、次いで「カロリー控えめのメニュー」(28.5%)、「カロリー、食塩量等の栄養成分表示」(26.7%)となっている。

(図表 I-2-38)

図表 I-2-38



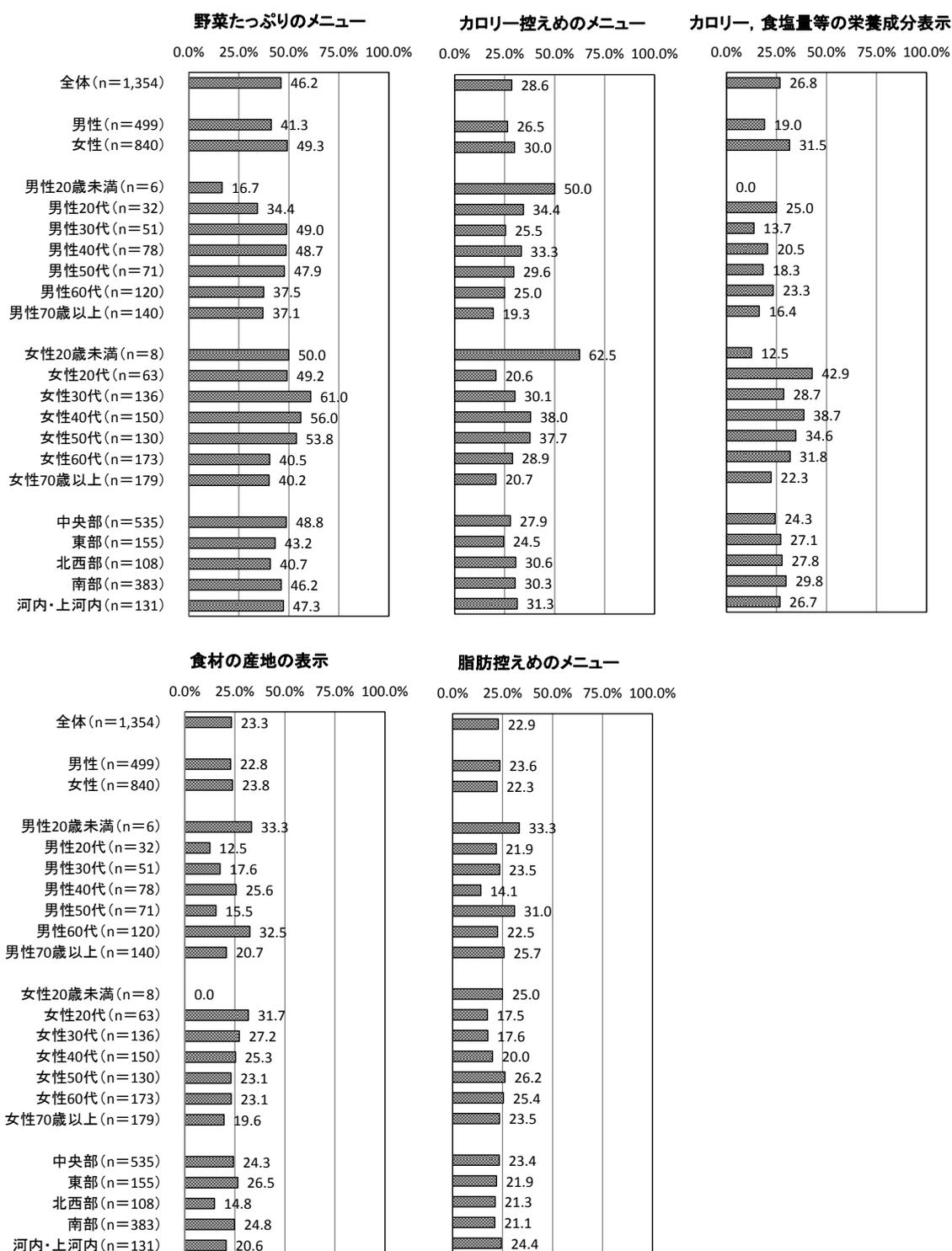
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「カロリー、食塩量等の栄養成分表示」は男性より、女性の割合が高くなっている。

性・年齢別では、「女性30代」で「野菜たっぷりのメニュー」(61.0%)が6割を占め、男性30代から50代でも「野菜たっぷりのメニュー」が約半数を占めている。

居住地区別では、「北西部」の「食材の産地表示」が他地区に比べて低くなっている。(図表 I-2-39)

図表 I-2-39



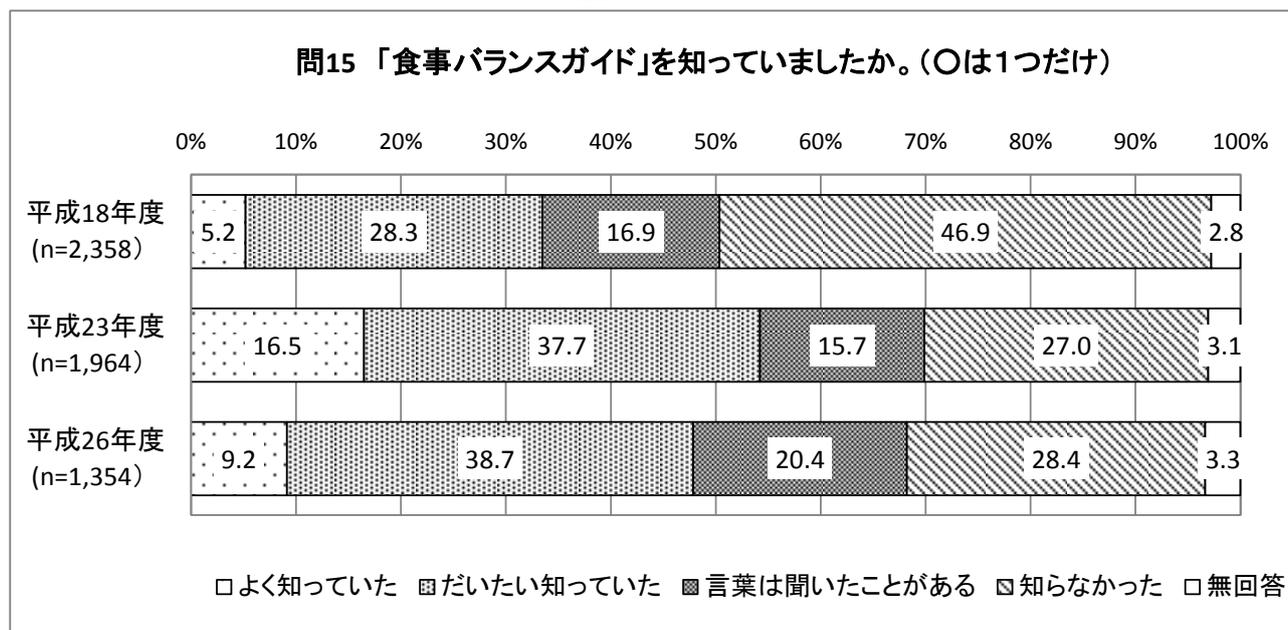
(15) 食事バランスガイドの認知度

15 「食事バランスガイド」を知っていましたか。

◆「知っていた」が約5割

「食事バランスガイド」をどの程度知っているか聞いたところ、「よく知っていた」の割合は、平成23年度調査で5.2%から16.5%へ増加したものの、本調査では9.2%に減少した。一方、「言葉は聞いたことがある」の割合は増加傾向にある。(図表I-2-40)

図表 I - 2 - 40

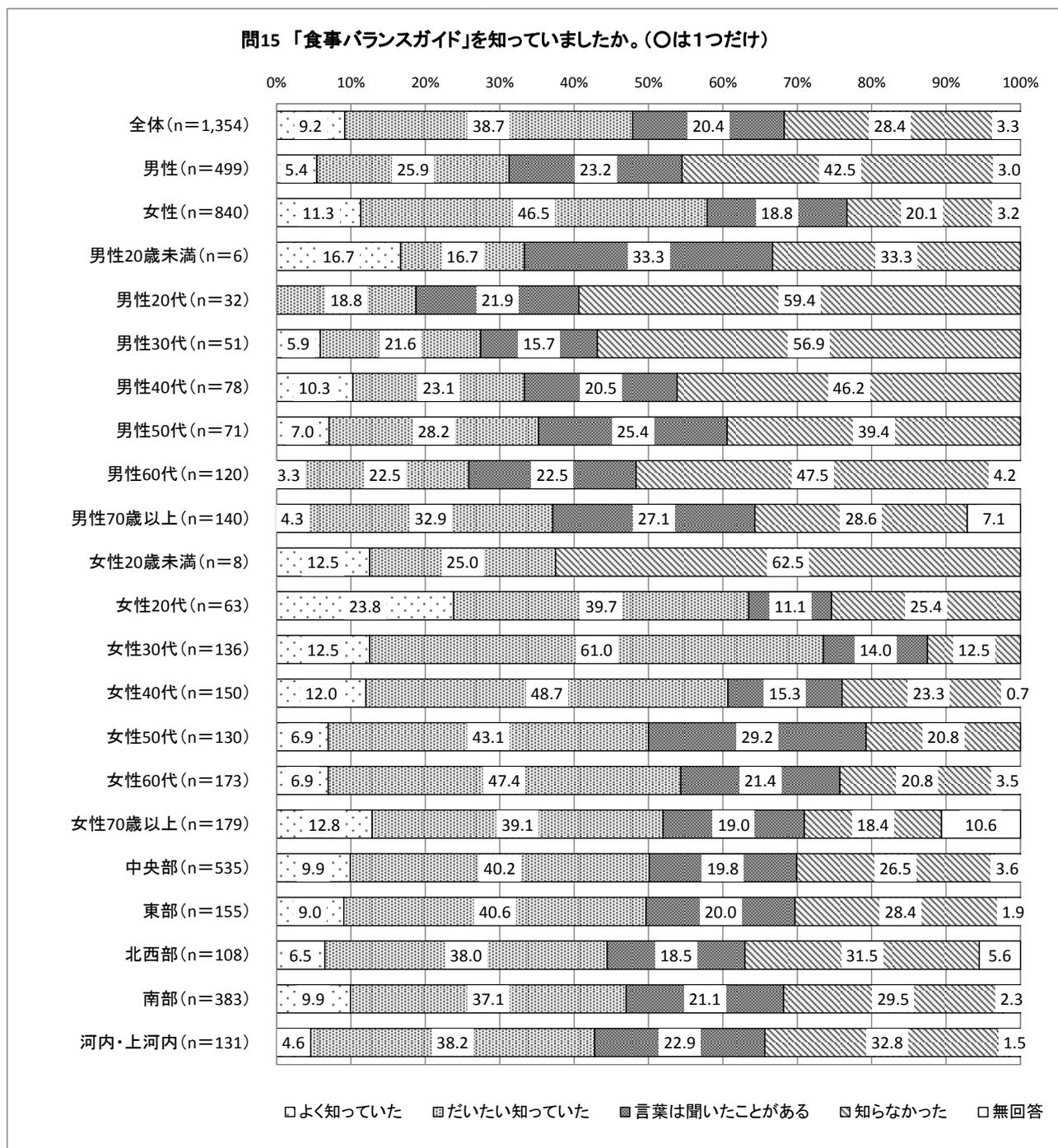


【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性では「知らなかった」、女性では「だいたい知っていた」が最も多くなっている。性・年齢別では、「男性20歳代」～「男性60代」では「知らなかった」、「男性70歳以上」では「だいたい知っていた」の割合が多く、「女性20代」～「女性70歳以上」で「だいたい知っていた」の割合が多くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「よく知っていた」の割合が他地区に比べ低くなっている。
(図表 I - 2 - 41)

図表 I - 2 - 41

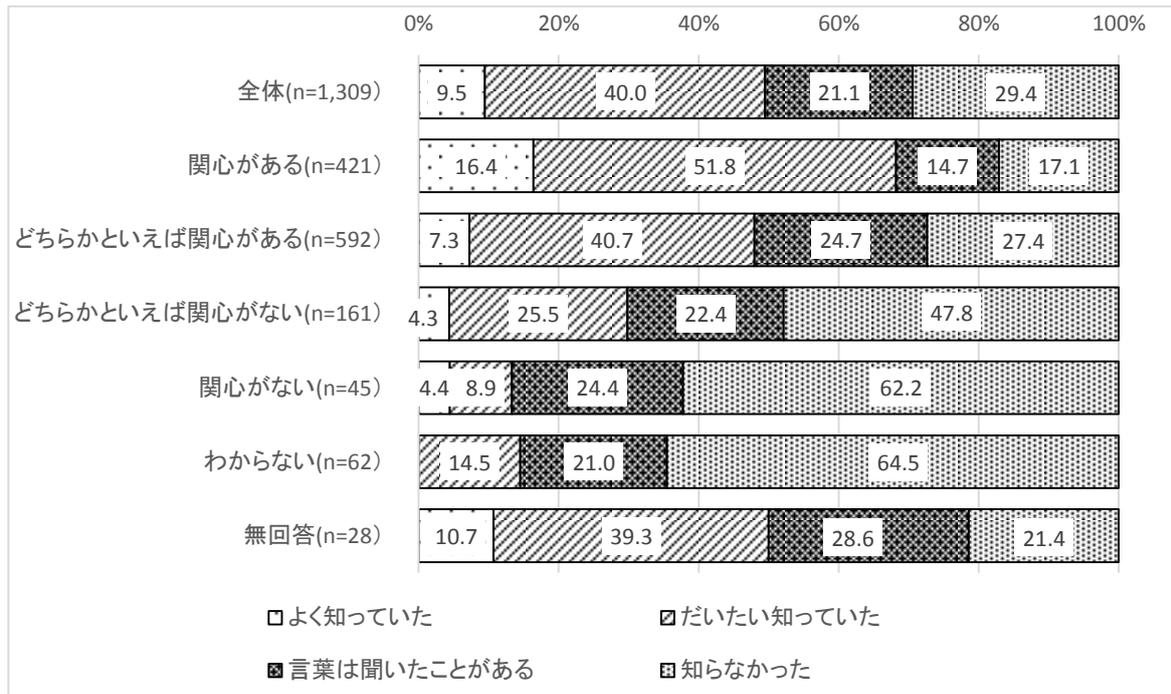


【食事バランスガイド認知度と食育関心度の関連性】

◆食育に関心がある人の方が、食事バランスガイドの認知度が高い傾向

食事バランスガイド認知度と食育関心度の関連性を分析したところ、食事バランスガイドを「知っていた」（「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計）人は、食育に「関心がある」人で68.2%と、関心度が低い人と比べて認知度が高い傾向であった。（図表 I - 2 - 42）

図表 I - 2 - 42

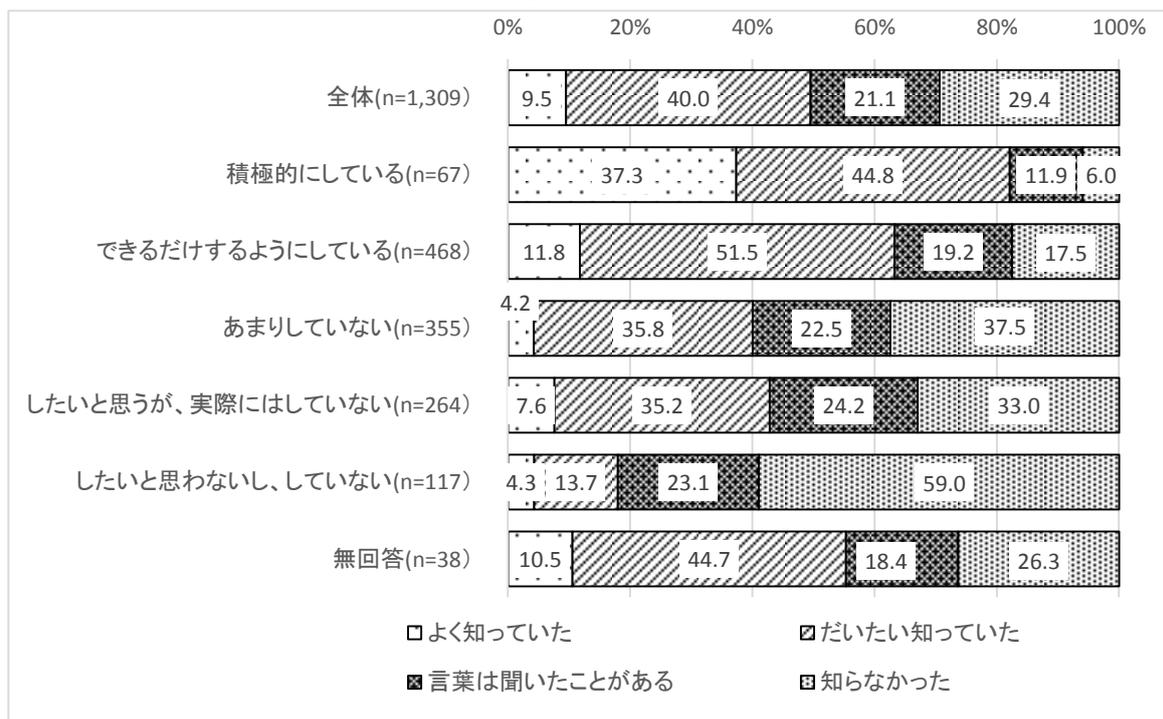


【食事バランスガイド認知度と食育実践度の関連性】

◆食育を実践している人の方が、食事バランスガイドの認知度が高い傾向

食事バランスガイド認知度と食育実践度の関連性を分析したところ、食事バランスガイドを「知っていた」（「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計）人は、食育の取組を「積極的にしている」（82.1%）「できるだけするようにしている」（63.3%）と、実践度が低い人と比べて認知度が高い傾向であった。（図表 I - 2 - 43）

図表 I - 2 - 43



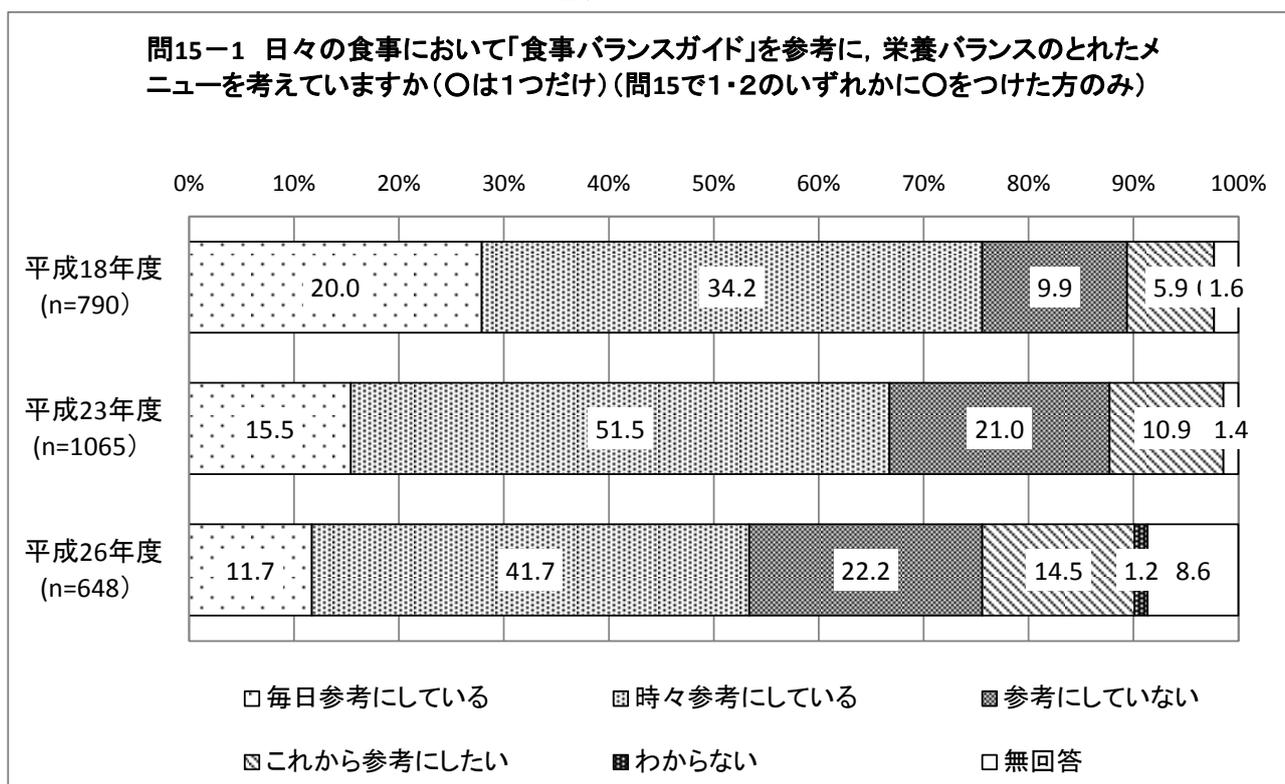
(15-1) 食事バランスガイドの利用度

15-1 日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。

◆「参考にしている」が減少

前問で「よく知っていた」「だいたい知っていた」と回答した人に食事バランスガイドの利用度を聞いたところ、「時々参考にしている」が41.7%と、平成23年度調査から減少している。(図表I-2-44)

図表 I - 2 - 44



【性別／性・年齢別／地区別】

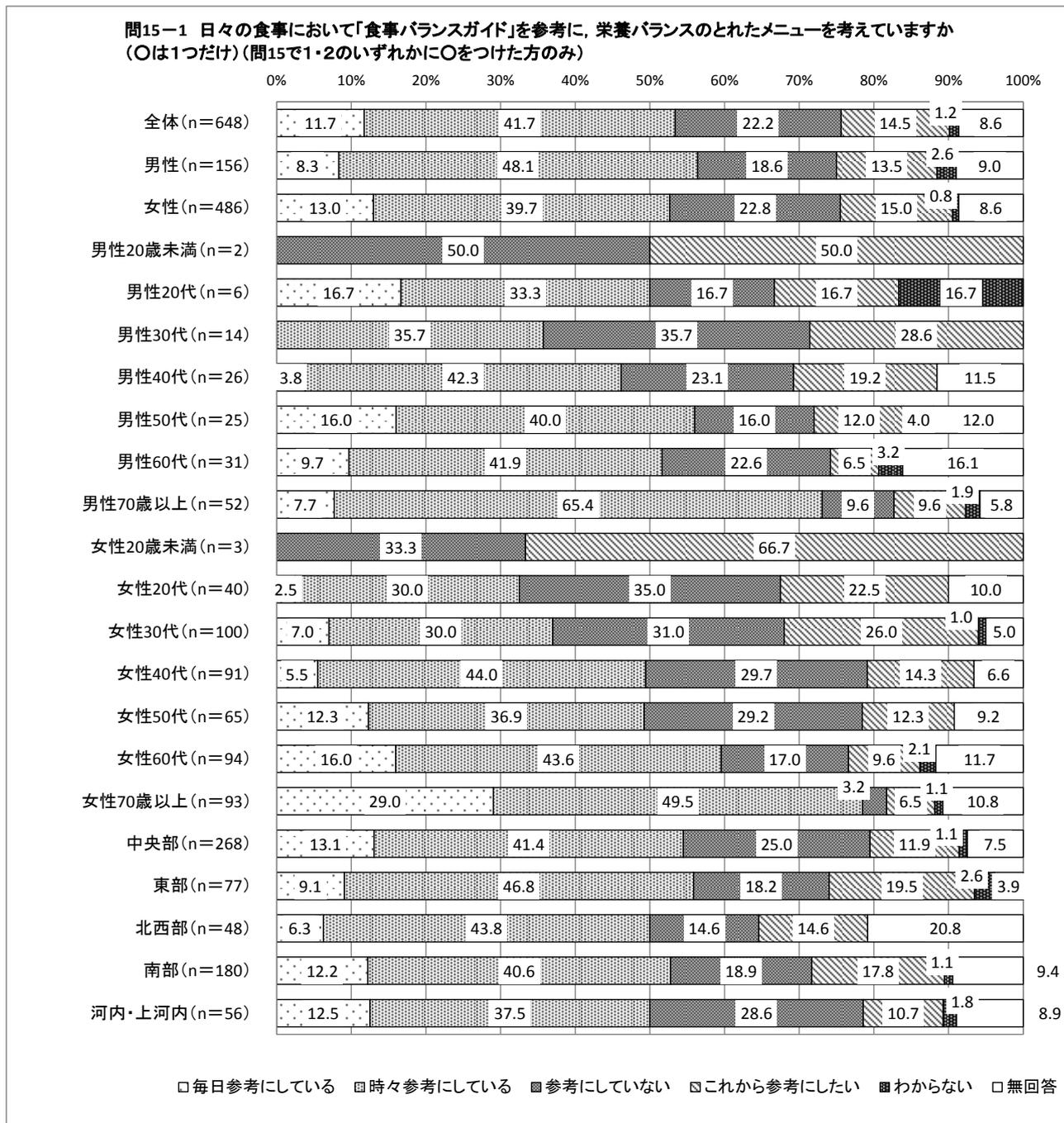
性別では、「参考にしている」（「毎日参考にしている」と「時々参考にしている」の合計）割合が、「男性」（56.4%）は「女性」（52.7%）より約4%高くなっている。

性・年齢別では、男女ともに年齢が低い程、「参考にしていない」、「これから参考にしたい」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、「河内・上河内」で「参考にしていない」の割合が他地区より高くなっている。

（図表 I - 2 - 45）

図表 I - 2 - 45



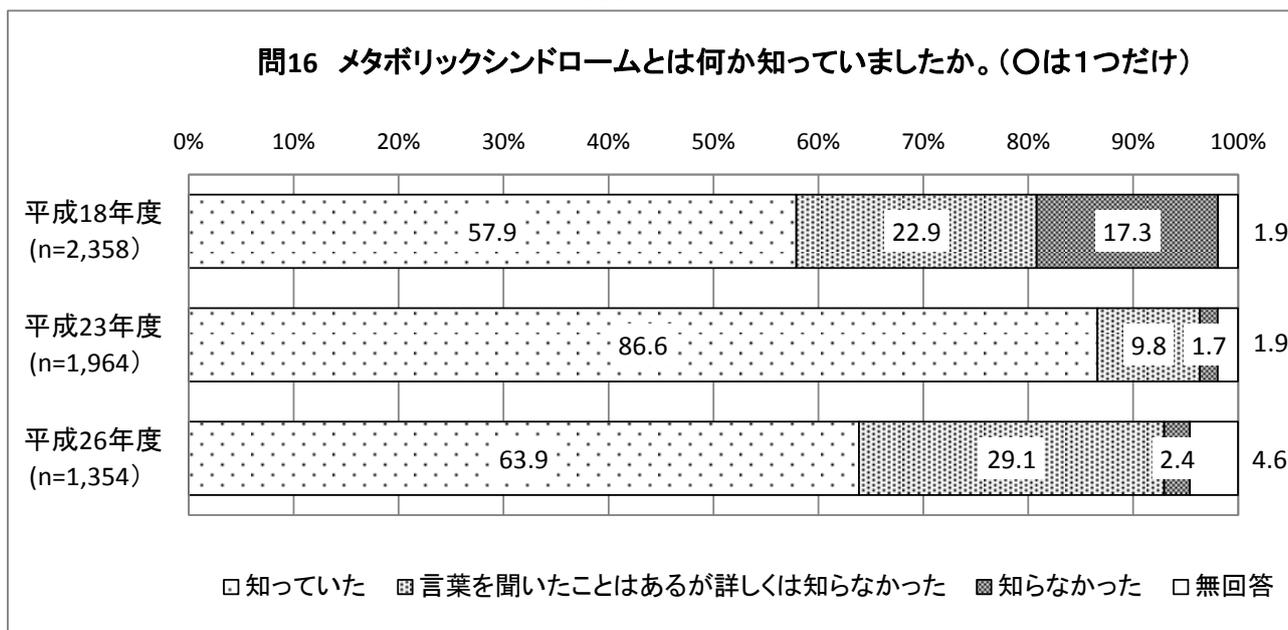
(16) メタボリックシンドロームの認知度

16 メタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が6割超

「知っていた」と回答した人が63.9%と半数以上を占める。また、「知っていた」と「言葉は聞いたことがあるが詳しくは知らなかった」の合計では、本調査(93.0%)は平成23年度調査(96.4%)に比べ微減となった。(図表I-3-1)

図表 I - 3 - 1



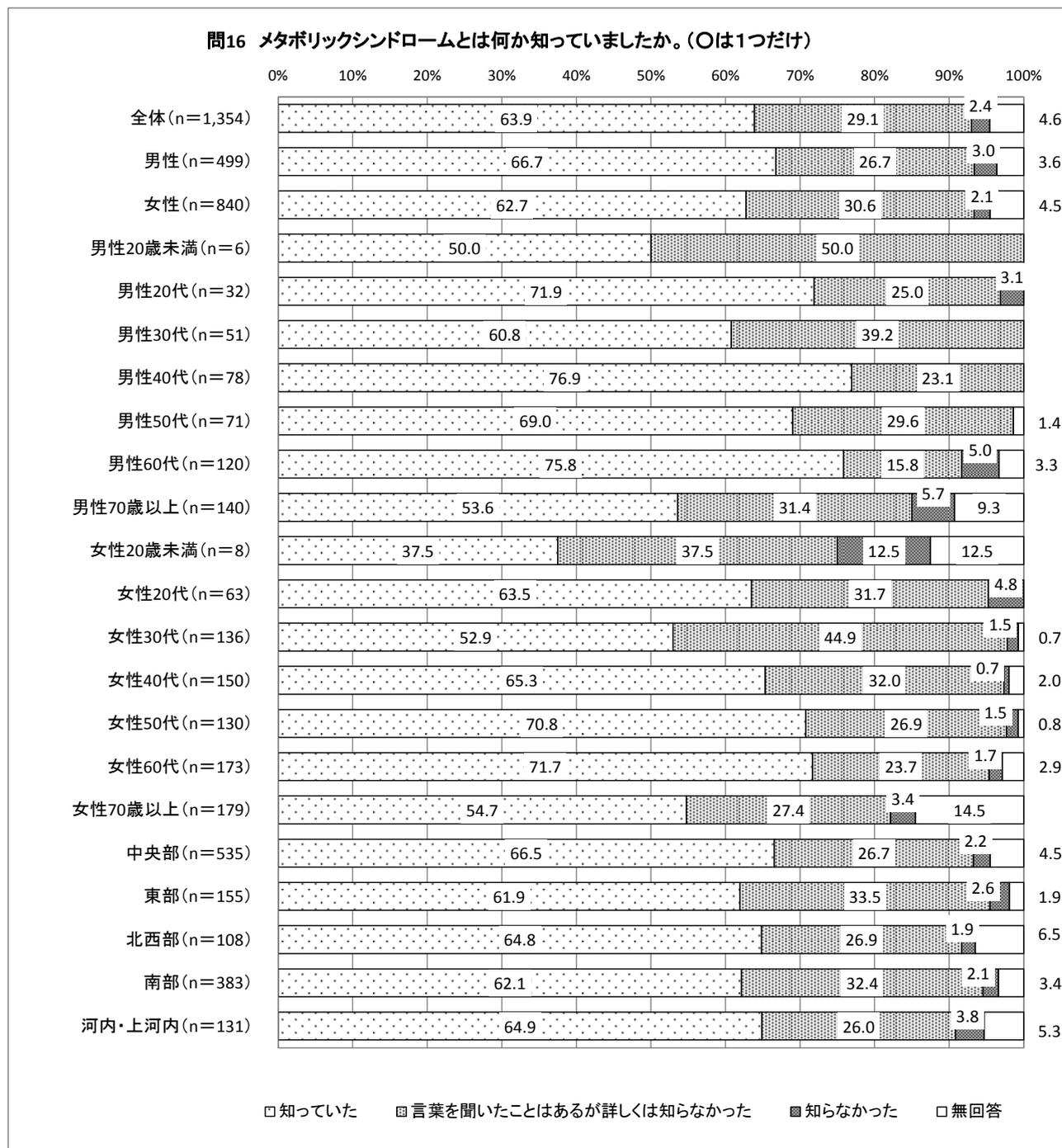
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも差はなく「知っていた」が6割を超えている。

性・年齢別では、男女・全年代で「知っていた」が最も多くなっているが、「男性60代」、「男性70歳以上」、「女性70歳以上」で「知らなかった」の割合が他年代に比べ高くなっている。

居住地区別では、大きな差は見られない。(図表 I-3-2)

図表 I-3-2



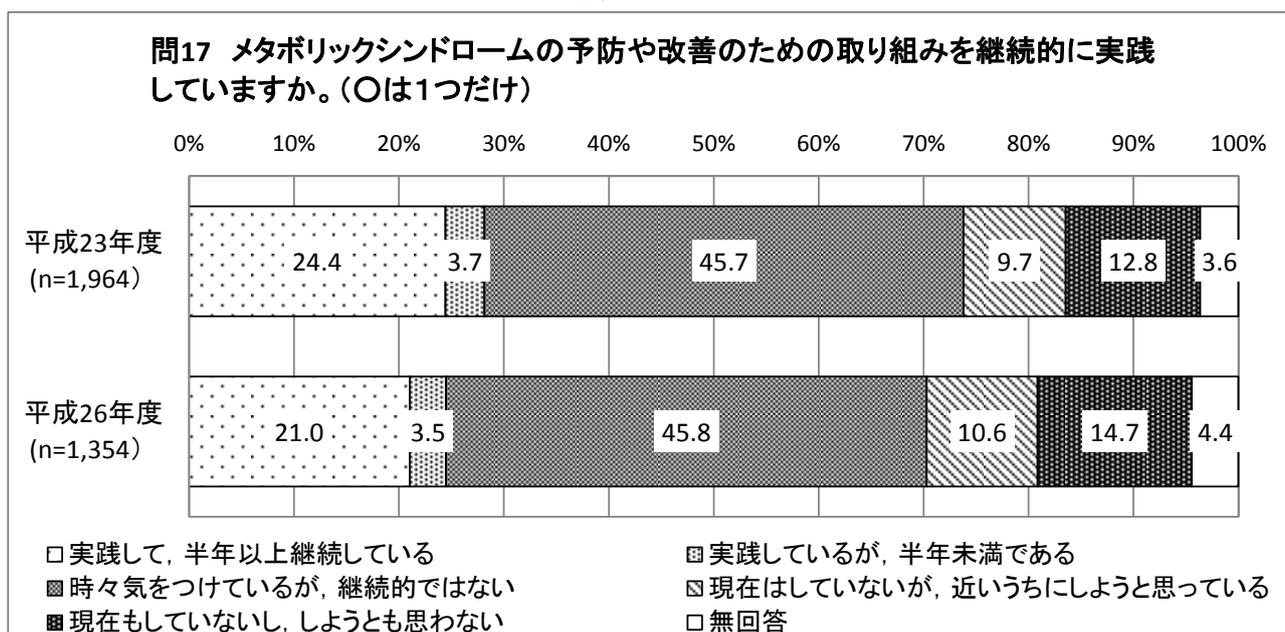
(17) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践

17 メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践していますか。

◆「時々気をつけているが、継続的ではない」が約半数

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組について、「実践して、半年以上継続している」(21.0%)、「実践しているが、半年未満である」(3.5%)を合わせると24.5%であり、平成23年度調査(28.1%)と比較して減少している。また、「時々気をつけているが、継続的ではない」は、45.8%と約半数となっている。(図表I-3-3)

図表 I - 3 - 3



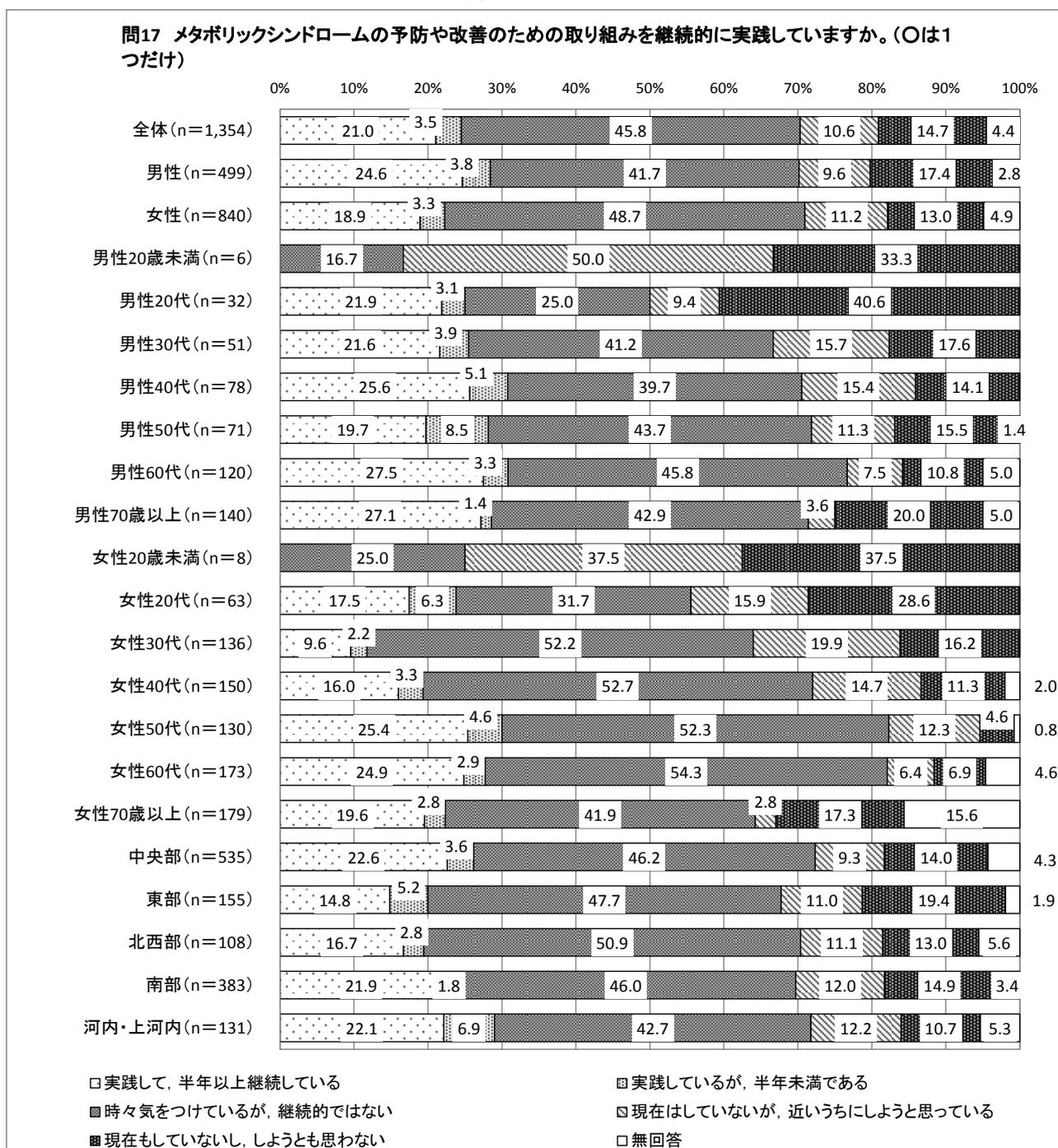
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「時々気をつけているが、継続的ではない」が最も高く、特に「女性」は48.7%と、5割近くに上っている。また、「現在もしていないし、しようとも思わない」の割合では、「女性」(13.0%)より「男性」(17.4%)が、約4%高くなっている。

性・年齢別は、「男性20代」で、「現在もしていないし、しようとも思わない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、全地区で「時々気をつけているが、継続的ではない」が最も高くなっており、中でも「北西部」では50.9%と、5割を超えている。(図表I-3-4)

図表 I - 3 - 4

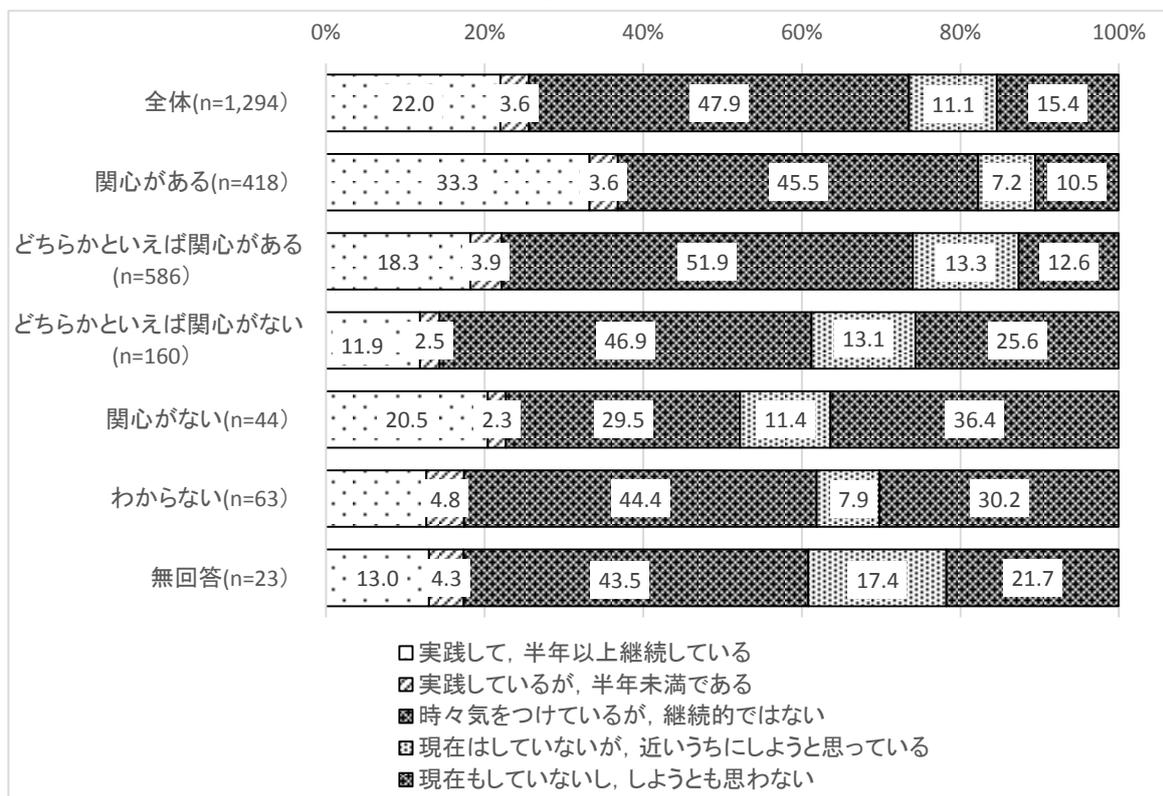


【メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育関心度の関連性】

- ◆ 食育関心度が高い人の方が、メタボリックシンドローム予防・改善の取組を継続的に実践している人の割合が多い傾向

メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育の関心度の関連性を分析したところ、取組を「実践して半年以上継続している」人は、食育に「関心がある」で33.3%と、関心度が低い人と比較して高い傾向にあった。(図表 I-3-5)

図表 I-3-5

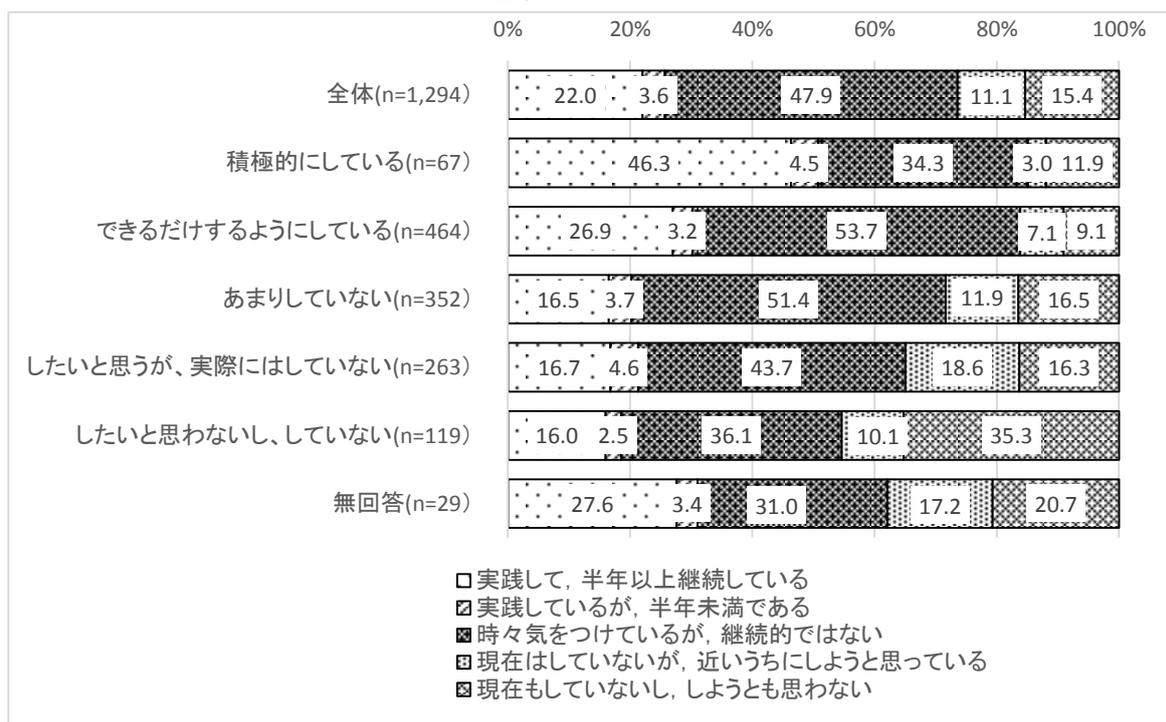


【メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育実践度の関連性】

- ◆ 食育実践度が高い人の方が、メタボリックシンドローム予防・改善の取組を継続的に実践している人の割合が多い傾向

メタボリックシンドローム予防・改善の取組と食育の実践度の関連性を分析したところ、取組を「実践して半年以上継続している」人は、食育の取組を「積極的にしている」(46.3%)「できるだけするようにしている」(26.9%)と、実践度が低い人と比較して高い傾向にあった。(図表 I-3-6)

図表 I-3-6

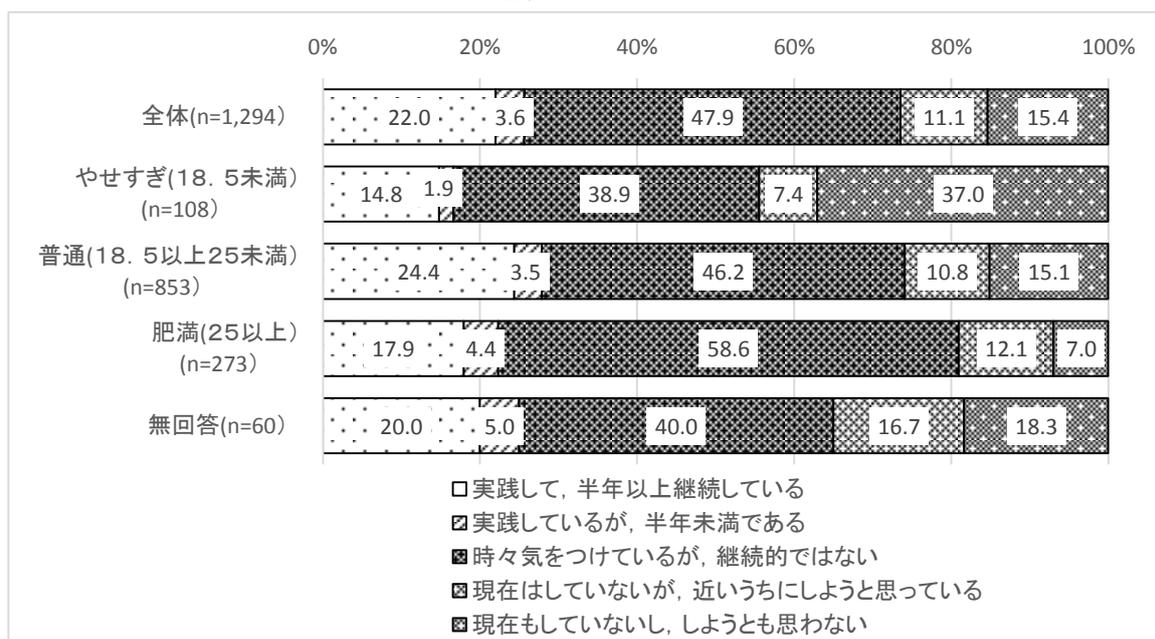


【メタボリックシンドローム予防・改善の取組と体型の関連性】

- ◆ 肥満の方が、メタボリックシンドローム予防・改善の取組を継続的に実践している人の割合が少ない傾向

メタボリックシンドローム予防・改善の取組と体型の関連性を分析したところ、取組を「実践して半年以上継続している」人は、「肥満」(17.9%)と、「普通」(24.4%)と比較して低い傾向にあった。また、「時々気をつけているが、継続的ではない」人では、「肥満」(58.6%)と「普通」(46.2%)と比較して高い傾向にあった。(図表 I-3-7)

図表 I-3-7



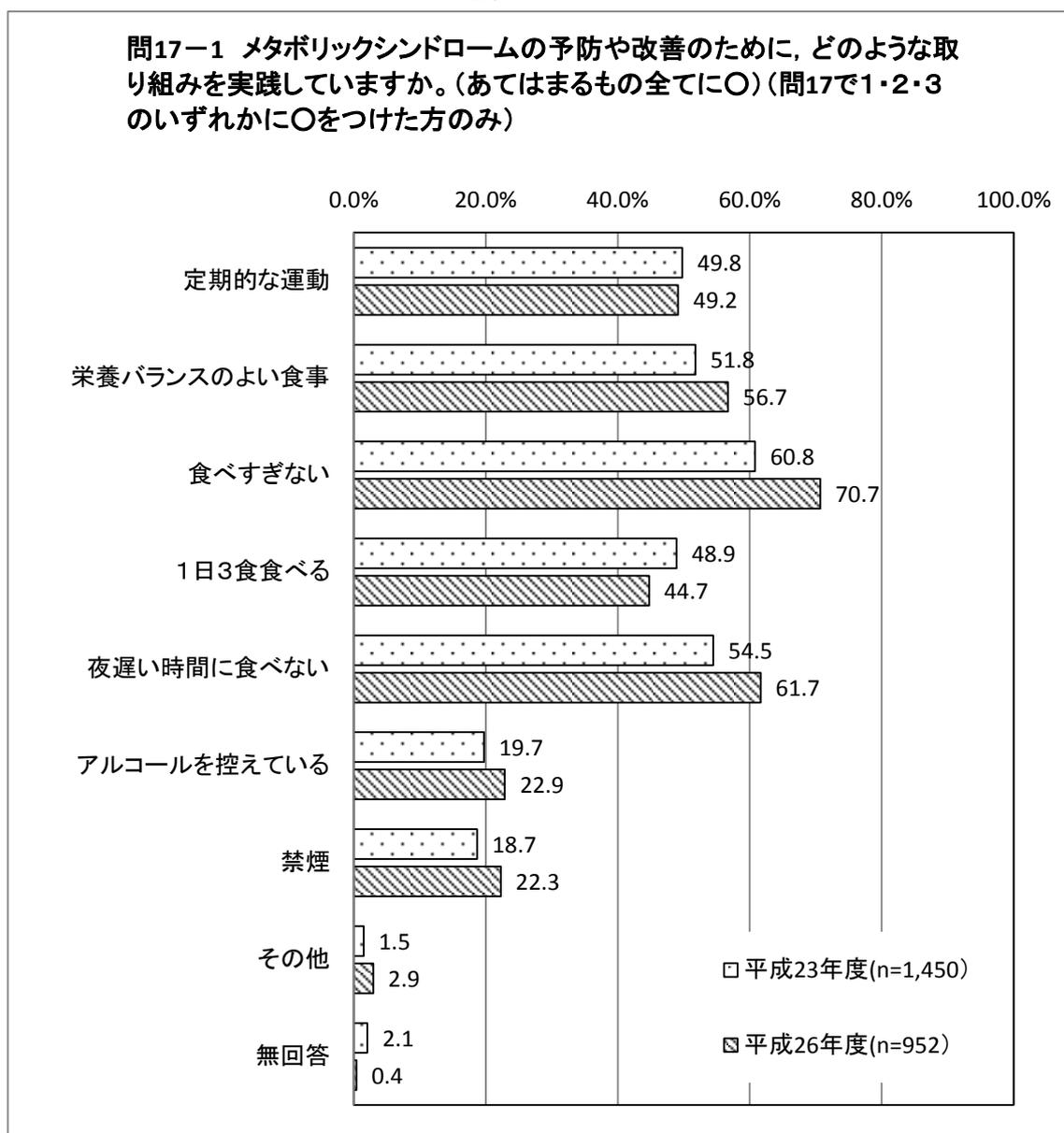
(17-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組

17-1 メタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組を実践していますか。

◆「食べすぎない」が7割超

メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組について聞いたところ、「食べすぎない」(70.7%)が7割を超え、次いで「夜遅い時間に食べない」(61.7%),「栄養バランスのよい食事」(56.7%)の順となっている。(図表I-3-8)

図表 I-3-8



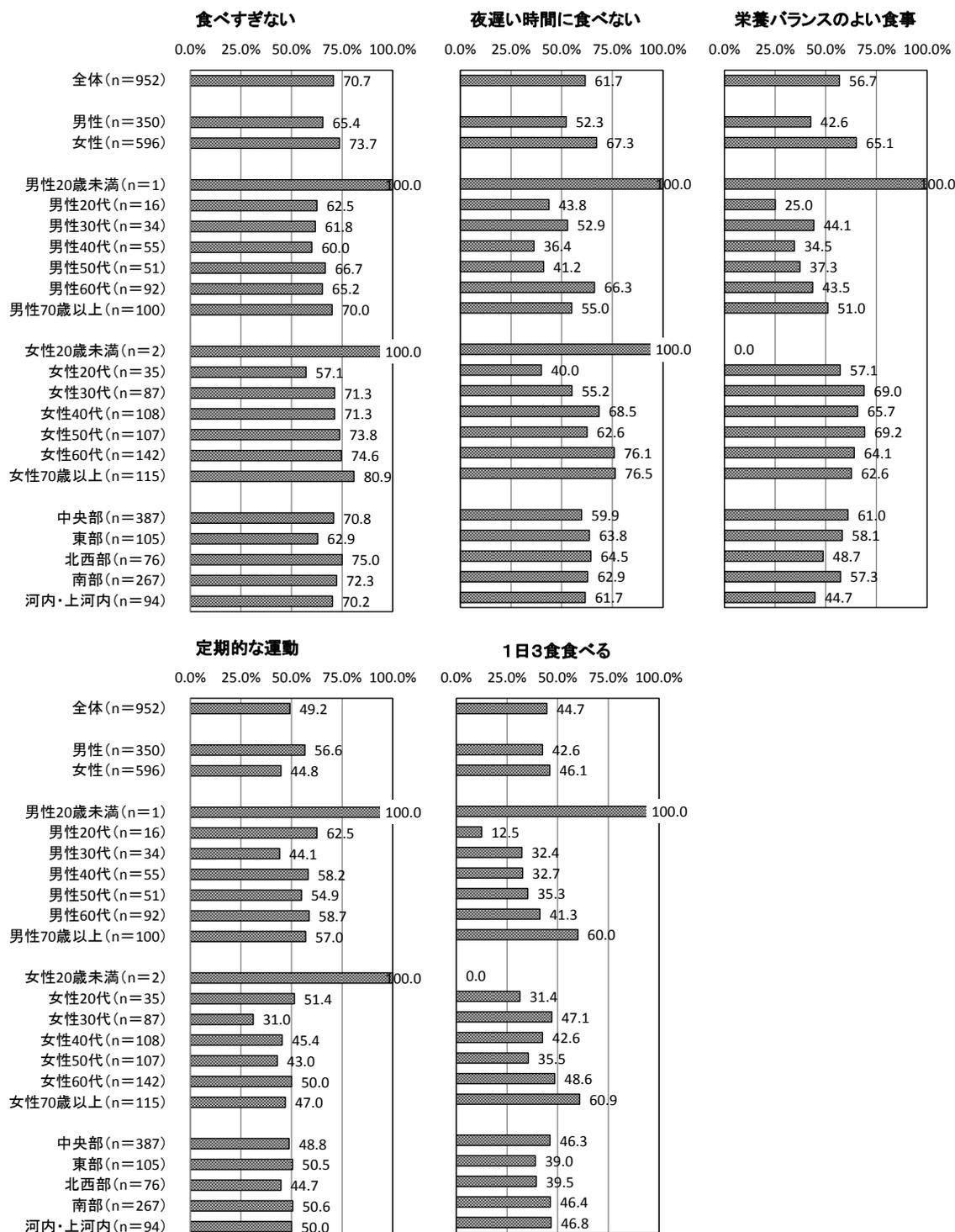
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「食べすぎない」が最も多く、男性では65.4%、女性では73.7%と高い割合となっている。

性・年齢別では、性別・全年代において「食べすぎない」が最も多くなっている。そのなかでも、「女性70歳以上」(80.9%)が最も多い。

居住地区別では、全地区において「食べすぎない」が最も多くなっている。(図表I-3-9)

図表 I - 3 - 9



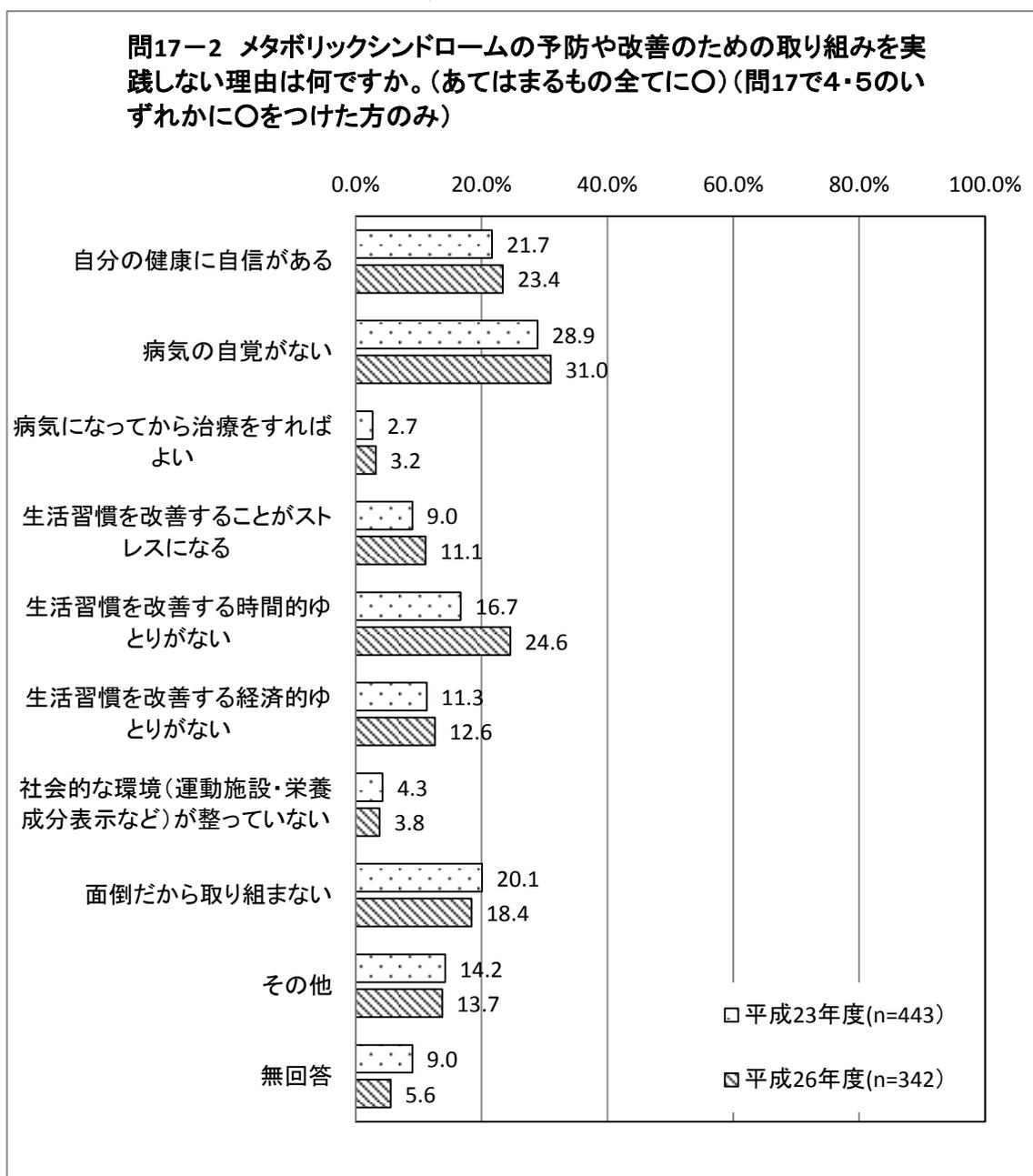
(17-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由

17-2 メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は何ですか。

◆「病気の自覚がない」が約3割

予防や改善のための取組を実践しない理由は、「病気の自覚がない」(31.0%)が最も多く、次いで、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」(24.6%)、「自分の健康に自信がある」(23.4%)の順となっている。また、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」の割合が、平成23年度調査に比べ、約8%の増加となった。(図表I-3-10)

図表 I - 3 - 10



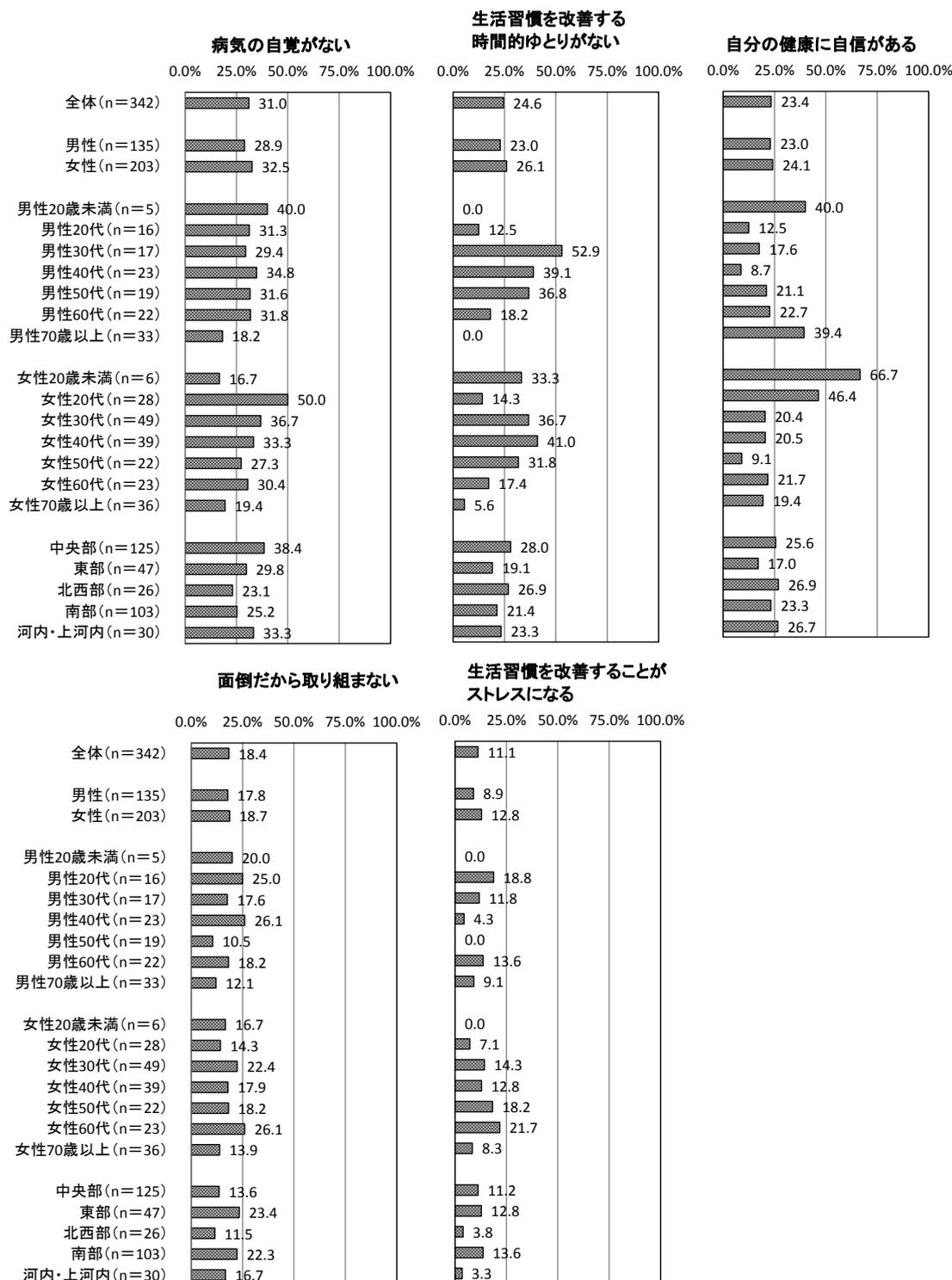
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性の「病気の自覚がない」(32.5%)が男性より約4%高くなっている。

性・年齢別では、男女とも「30代」～「50代」で、「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」の割合が最も多くなっている。

居住地区別では、「北西部」以外で「病気の自覚がない」が最も多くなっているが、「北西部」では「生活習慣を改善する時間的ゆとりがない」、「自分の健康に自信がある」が高くなっている。(図表I-3-11)

図表 I - 3 - 11



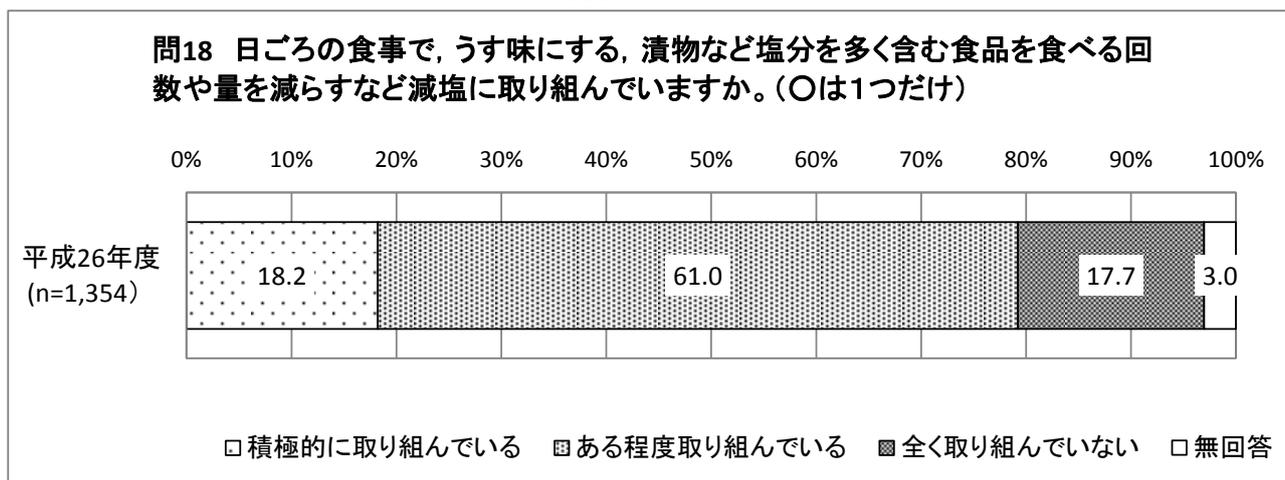
(18) 減塩の取組

18 日ごろの食事で、うす味にする、漬物など塩分を多く含む食品を食べる回数や量を減らすなど減塩に取り組んでいますか。

◆「ある程度取り組んでいる」が約6割

減塩の取組は、「ある程度取り組んでいる」(61.0%)が最も多く、次いで、「積極的に取り組んでいる」(18.2%)、「全く取り組んでいない」(17.7%)の順となっている。(図表I-3-12)

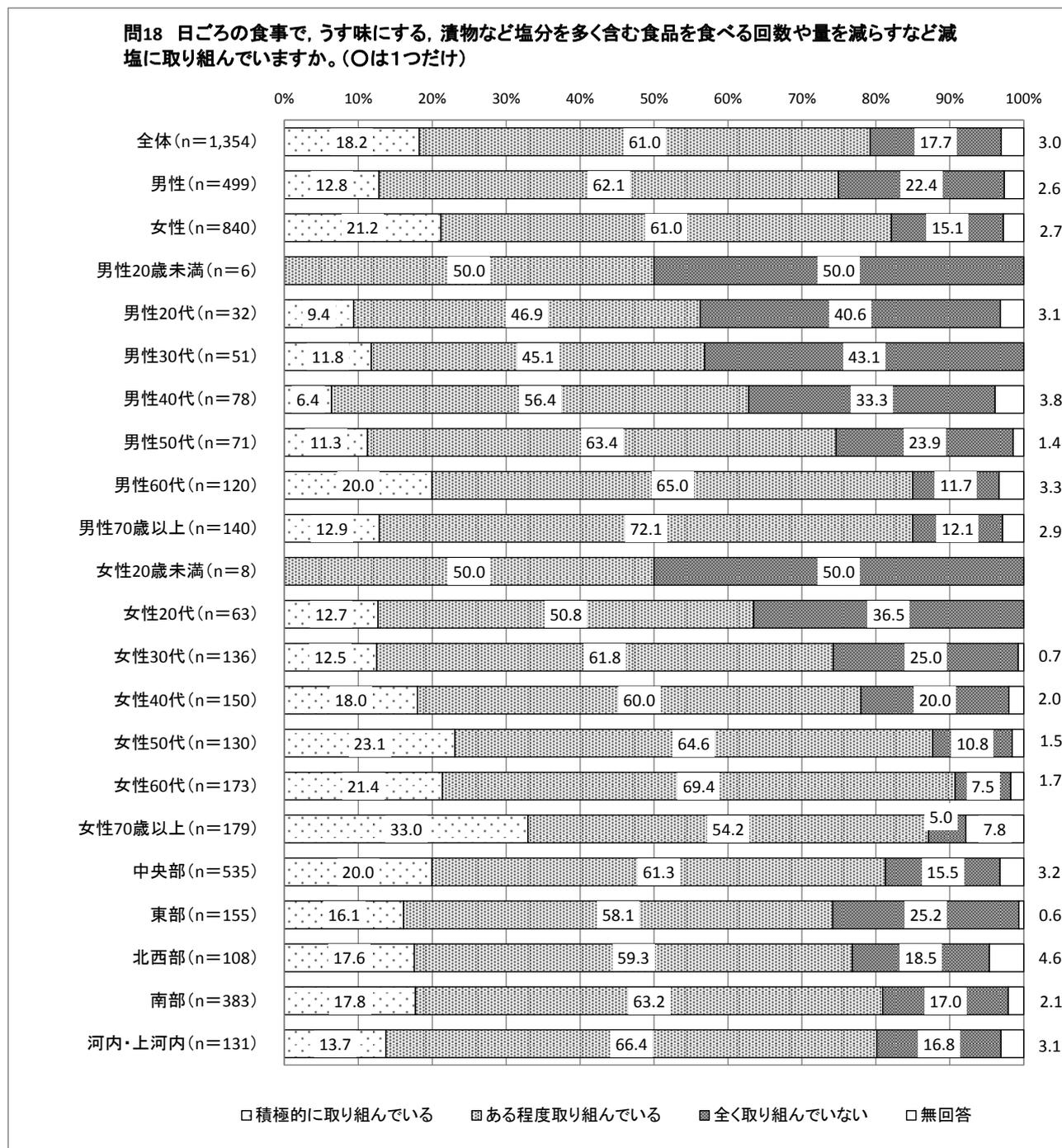
図表 I - 3 - 12



【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性の「積極的に取り組んでいる」(21.2%)が男性より約8%高くなっている。
 性・年齢別では、男女ともに若い人ほど「全く取り組んでいない」の割合が多い傾向にある。
 居住地区別では、「東部」で「全く取り組んでいない」が2割と、他地区に比べ高くなっている。(図表 I-3-13)

図表 I-3-13



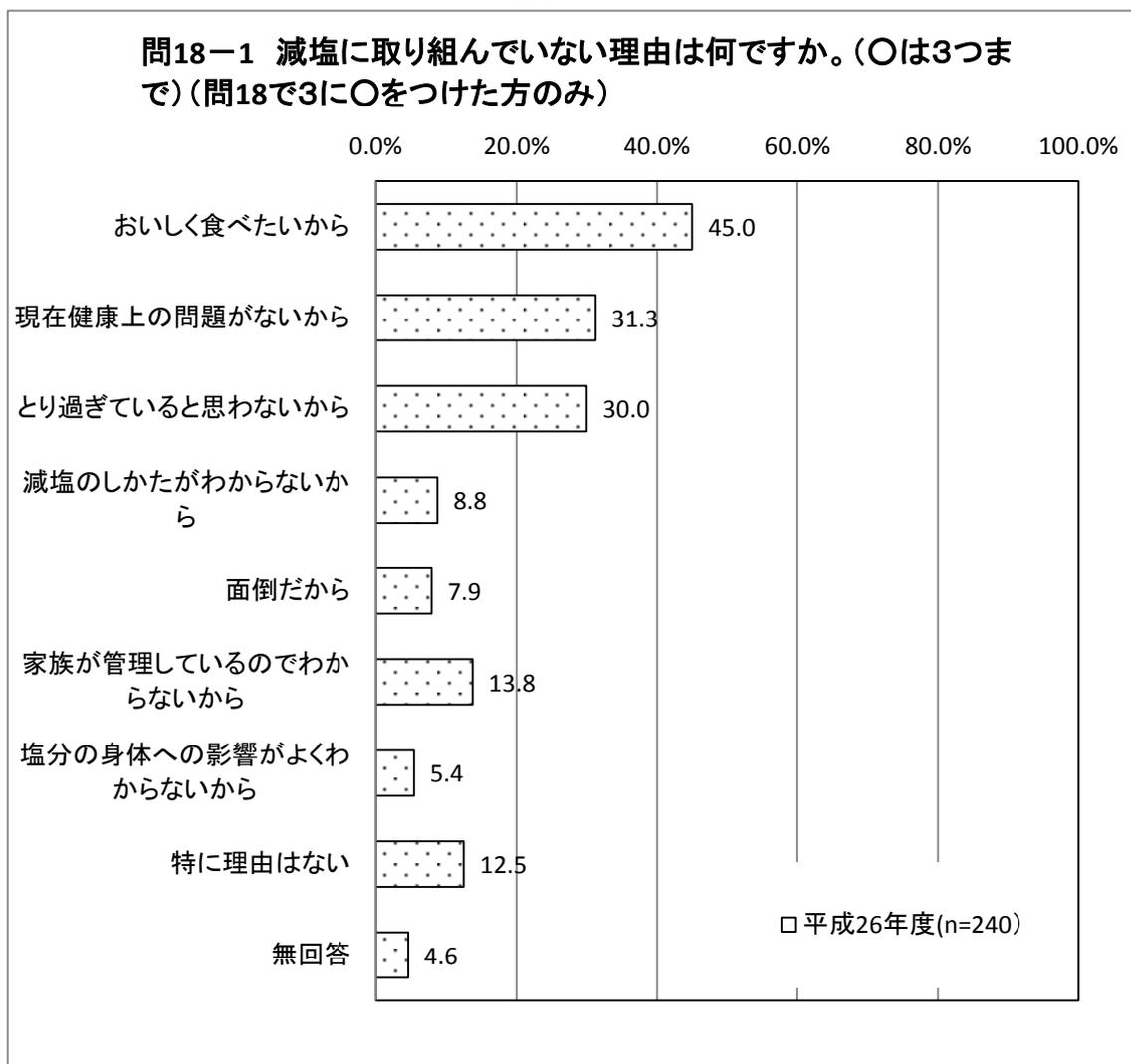
(18-1) 減塩の取組を実施しない理由

18-1 減塩に取り組んでいない理由は何ですか。

◆「おいしく食べたいから」が4割超

前問で「全く取り組んでいない」と回答した人に減塩の取組を実践しない理由を聞いたところ、「おいしく食べたいから」(45.0%)が最も多く、次いで、「現在健康上の問題がないから」(31.3%)、「とり過ぎていると思わないから」(30.0%)の順となっている。(図表I-3-14)

図表 I - 3 - 14



【性別／性・年齢別／地区別】

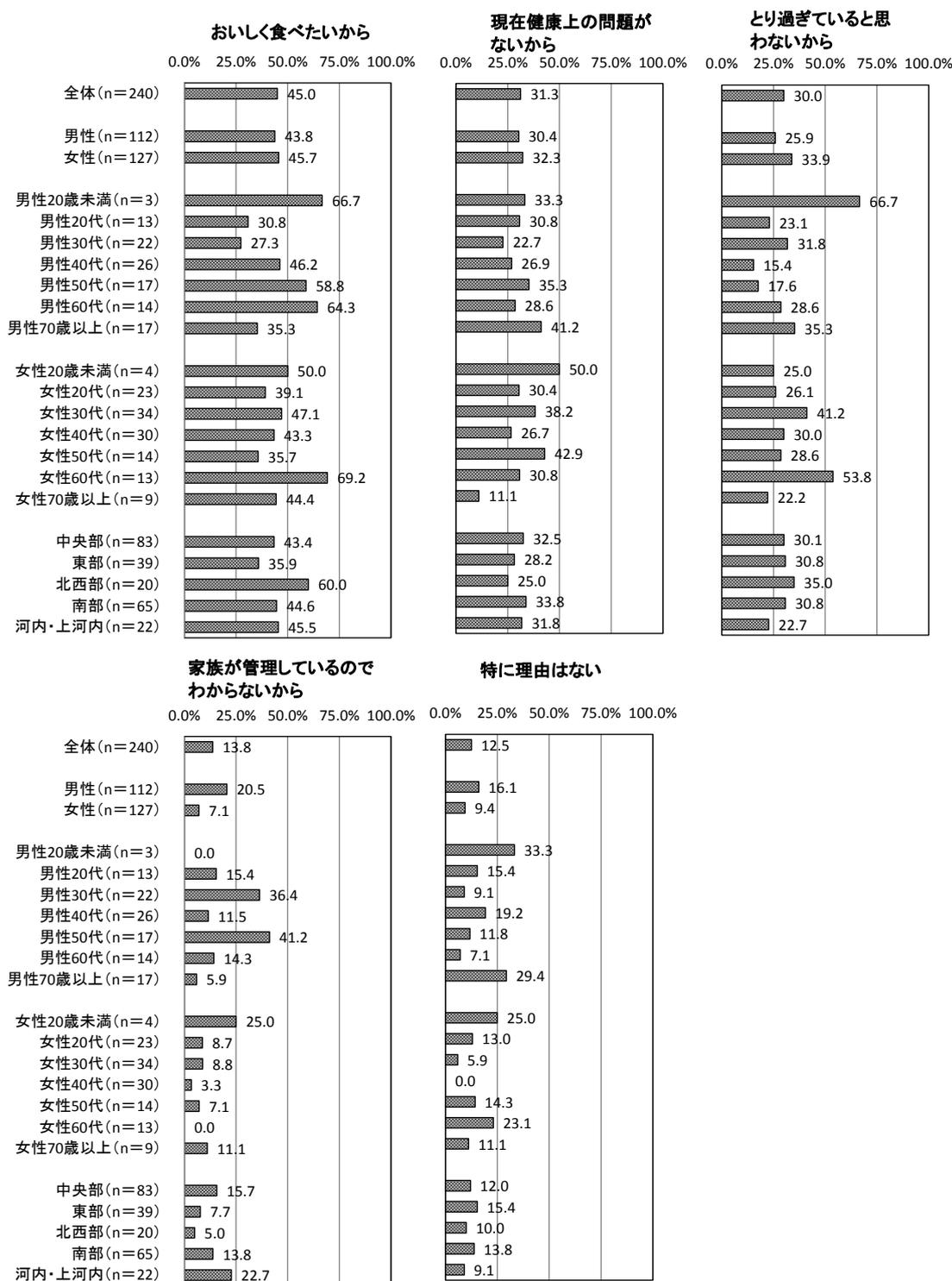
性別では、男女ともに「おいしく食べたいから」が最も多くなっている。男性の「家族が管理しているのわからない」の割合が女性より約13%も多くなっている。また、女性の「とり過ぎていると思わないから」の割合が男性より約8%多くなっている。

性・年齢別では、「男性50代」の「家族が管理しているのわからない」(41.2%)が目立っている。

居住地区別では、「東部」と「北西部」で「おいしく食べたいから」の割合で約24%の差がある。

(図表 I - 3 - 15)

図表 I - 3 - 15



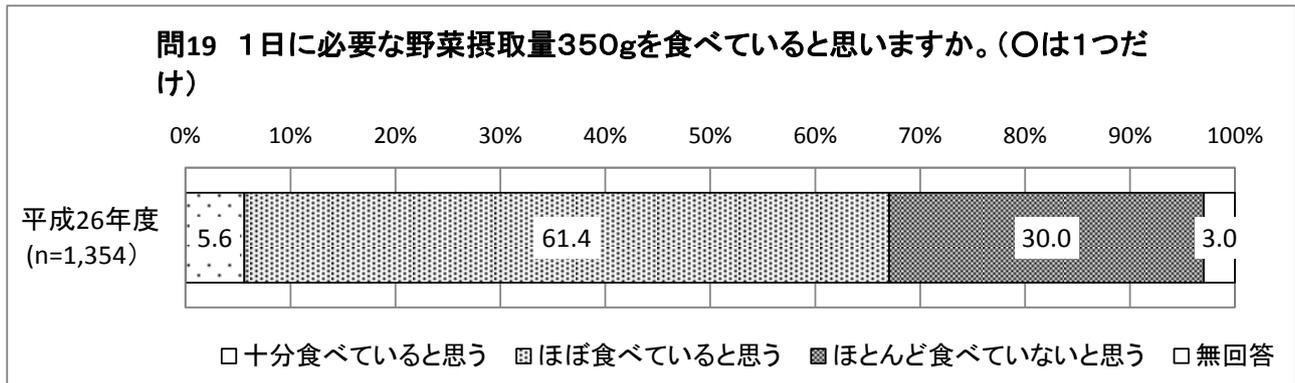
(19) 1日に必要な野菜摂取量

19 1日に必要な野菜摂取量 350g を食べていると思いますか。

◆「ほぼ食べていると思う」が約6割

野菜の摂取量については「ほぼ食べていると思う」(61.4%)が最も多く、次いで、「ほとんど食べていないと思う」(30.0%)、「十分食べていると思う」(5.6%)の順となっている。(図表I-3-16)

図表 I - 3 - 16



【性別／性・年齢別／地区別】

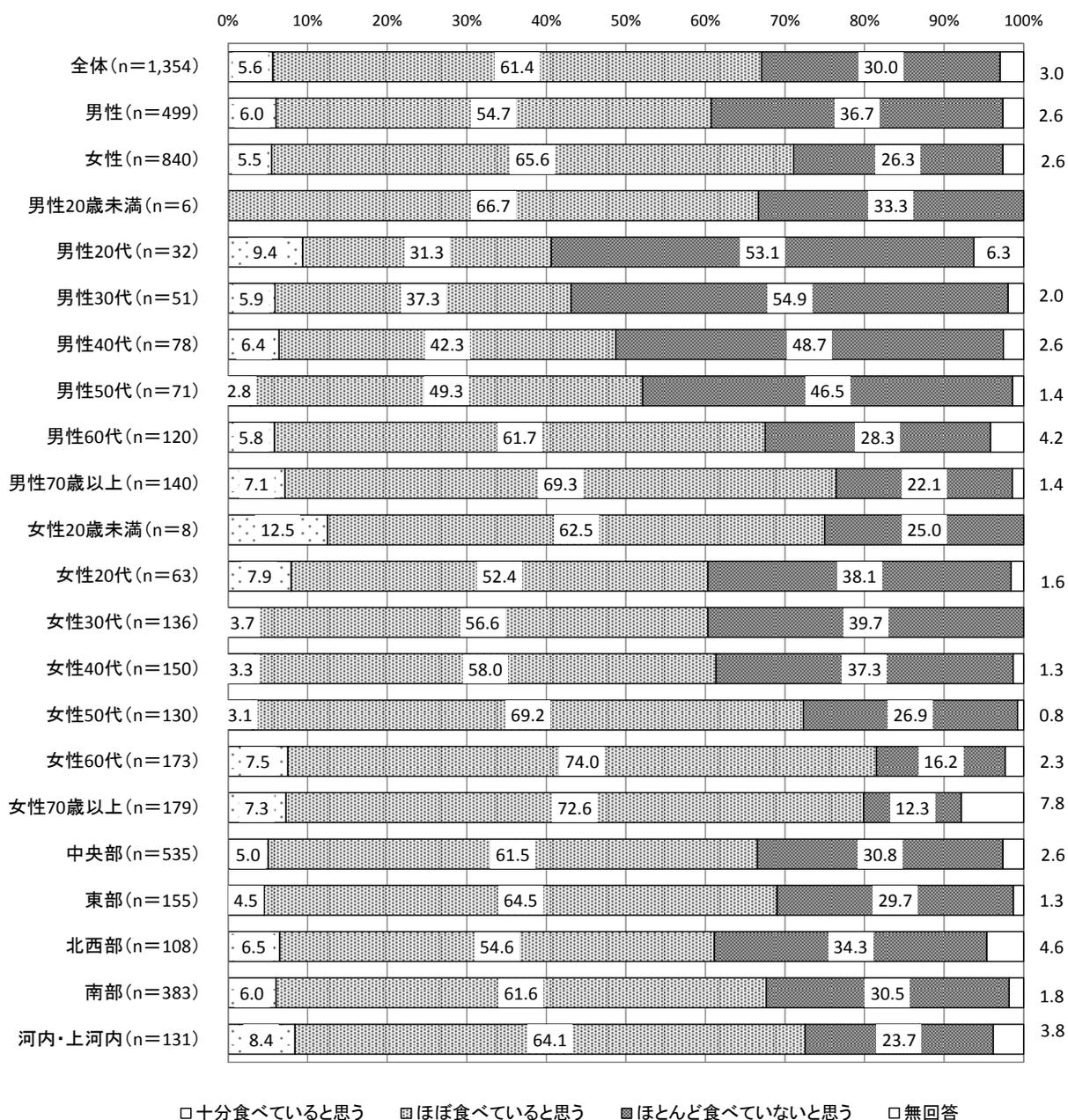
性別では、女性の「ほぼ食べていると思う」(65.6%)が男性より約11%高くなっている。

性・年齢別では、「男性20代」～「男性50代」で「ほとんど食べていないと思う」の割合が5割前後と、他年代に比べ高くなっている。

居住地区別では、全地区において「ほぼ食べていると思う」の割合が最も多くなっているが、「北西部」では、他地区に比べ若干低くなっている。(図表I-3-17)

図表 I - 3 - 17

問19 1日に必要な野菜摂取量350gを食べていると思いますか。(○は1つだけ)



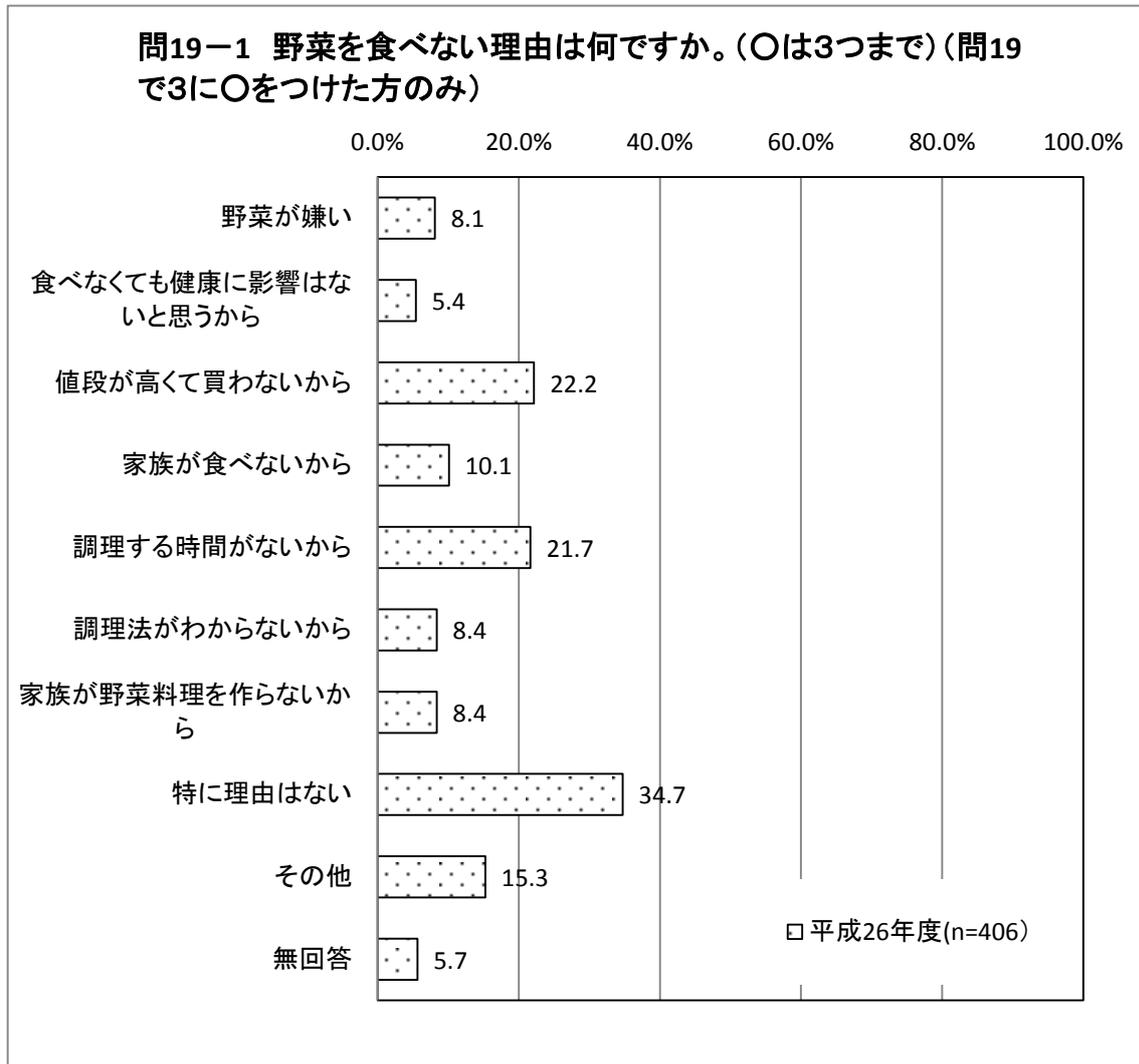
(19-1) 野菜を摂取しない理由

19-1 野菜を食べない理由は何ですか。

◆「値段が高くて買わないから」、「調理する時間がないから」が2割超

前問で「ほとんど食べていないと思う」と回答した人に野菜を食べない理由を聞いたところ、「特に理由はない」(34.7%)が最も多く、次いで、「値段が高くて買わないから」(22.2%)、「調理する時間がないから」(21.7%)の順となっている。(図表I-3-18)

図表 I - 3 - 18



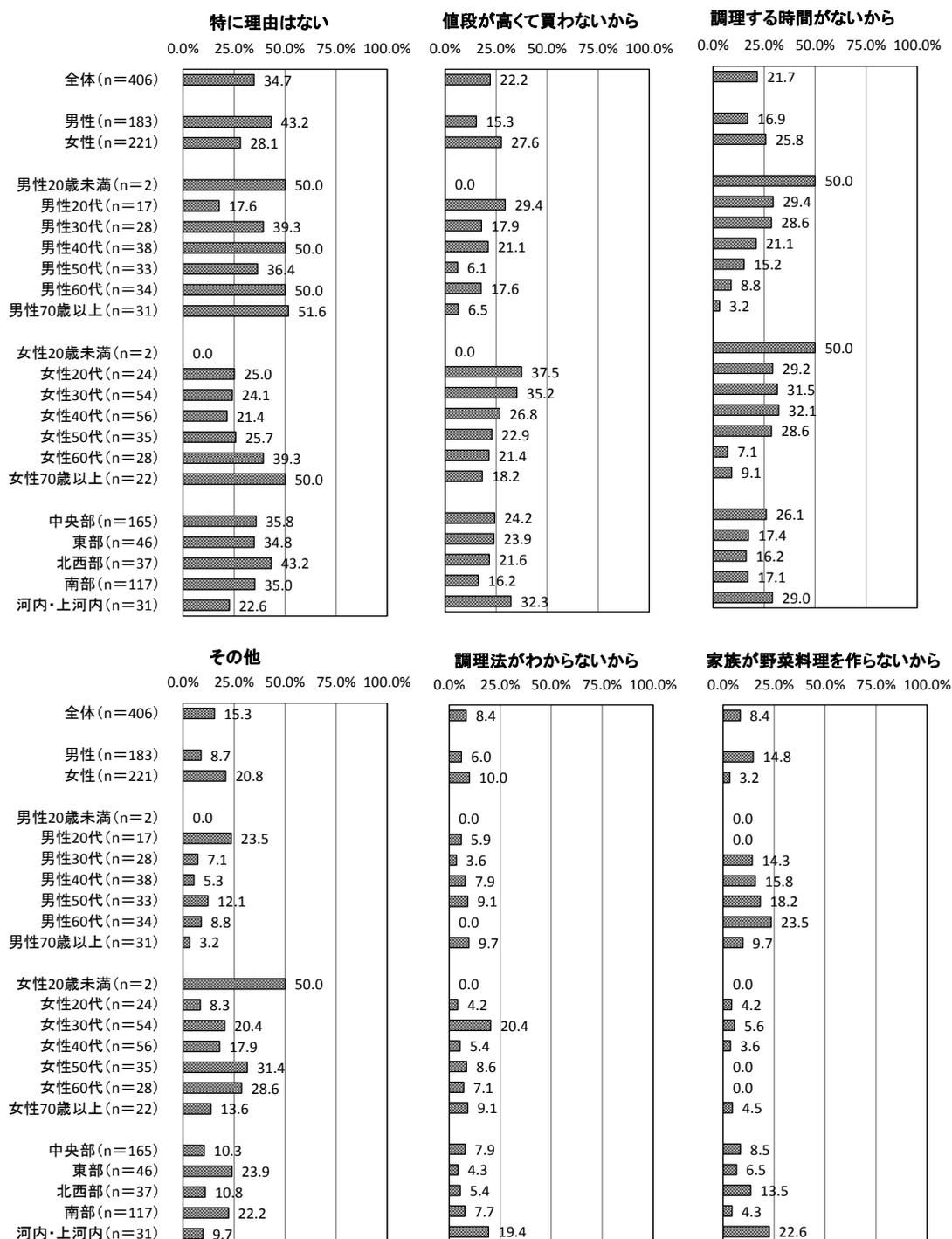
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性の「特に理由はない」(43.2%)が突出しており、女性では「特に理由はない」(28.1%)が最も多く、次いで「値段が高くて買わないから」(27.6%)となっている。

性・年齢別では、男性ではどの年代においても「特に理由はない」が多くなっているが、女性では、「女性20代」と「女性30代」では「値段が高くて買わないから」、「女性20代～50代」では「調理する時間がないから」が3割程度だった。

居住地区別では、「河内・上河内」以外で「特に理由はない」が最も多くなっているが、「河内・上河内」では「値段が高くて買わないから」(32.3%)が最も高くなっている。(図表I-3-19)

図表 I - 3 - 19



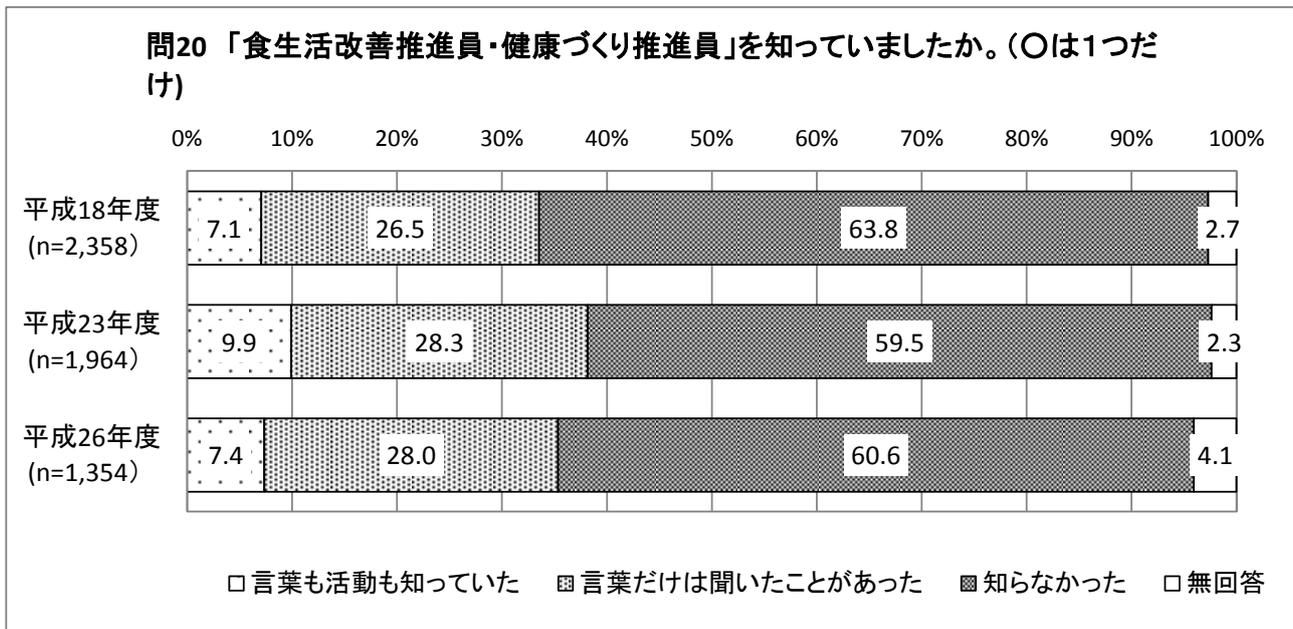
(20) 食生活改善推進員・健康づくり推進員の認知度

20 「食生活改善推進員・健康づくり推進員」を知っていましたか。

◆「知らなかった」が約6割

「食生活改善推進員・健康づくり推進員」の認知度は、「言葉も活動も知っていた」(7.4%)、「言葉だけは聞いたことがあった」(28.0%)となっており、平成23年度の水準を維持している。(図表I-4-1)

図表 I - 4 - 1



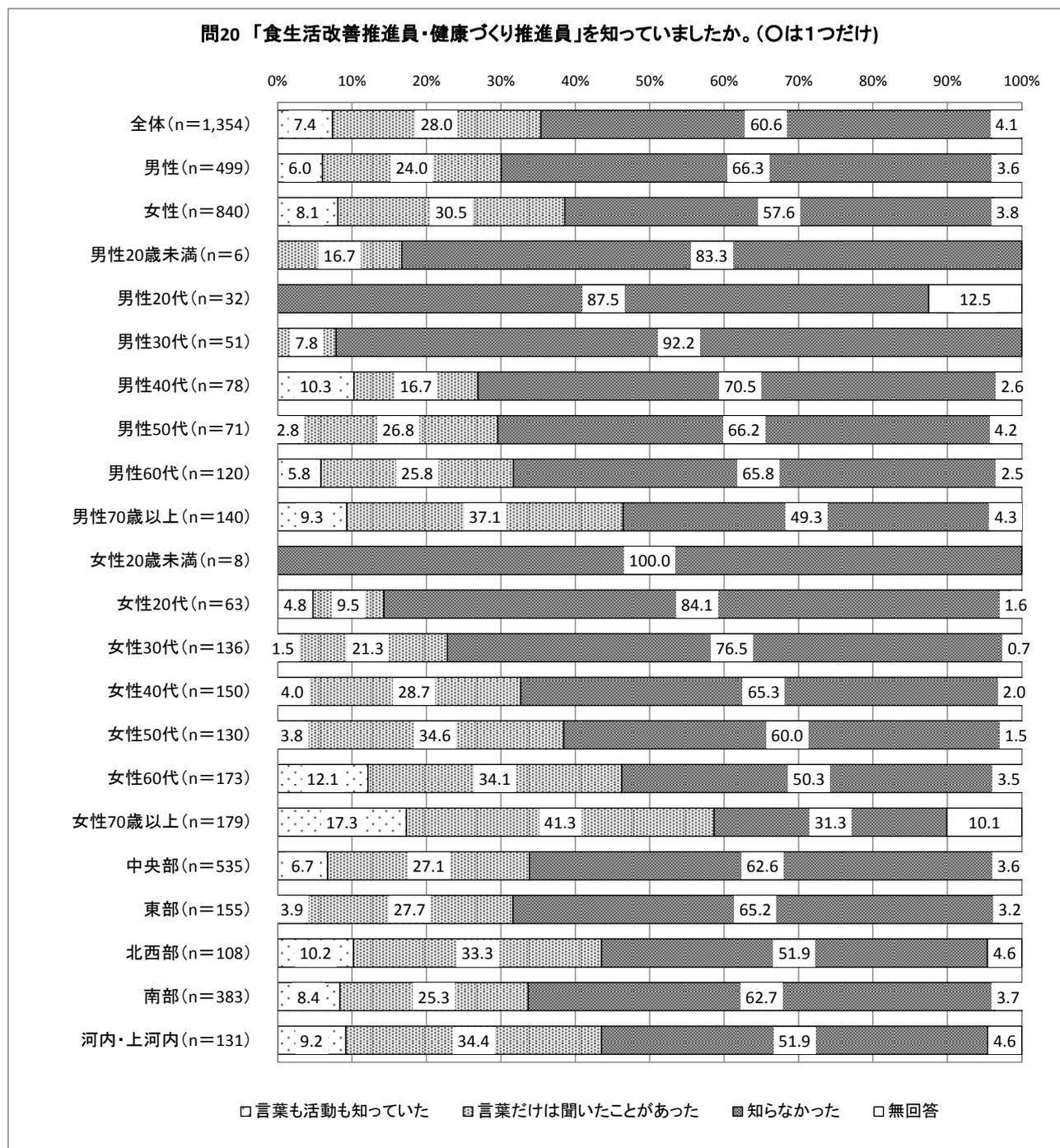
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「知らなかった」の割合が高いが、男性は66.3%と、女性の57.6%より約9%高くなっている。

性・年齢別では、女性は、年齢が低くなるほど「知らなかった」の割合が高くなり、「20歳代」では8割台となっている。また、「男性30代」で「知らなかった」の割合が9割を超えている。

居住地区別では、「東部」と「北西部」で「言葉も活動も知っていた」の割合に約6%の差があった。(図表I-4-2)

図表 I - 4 - 2



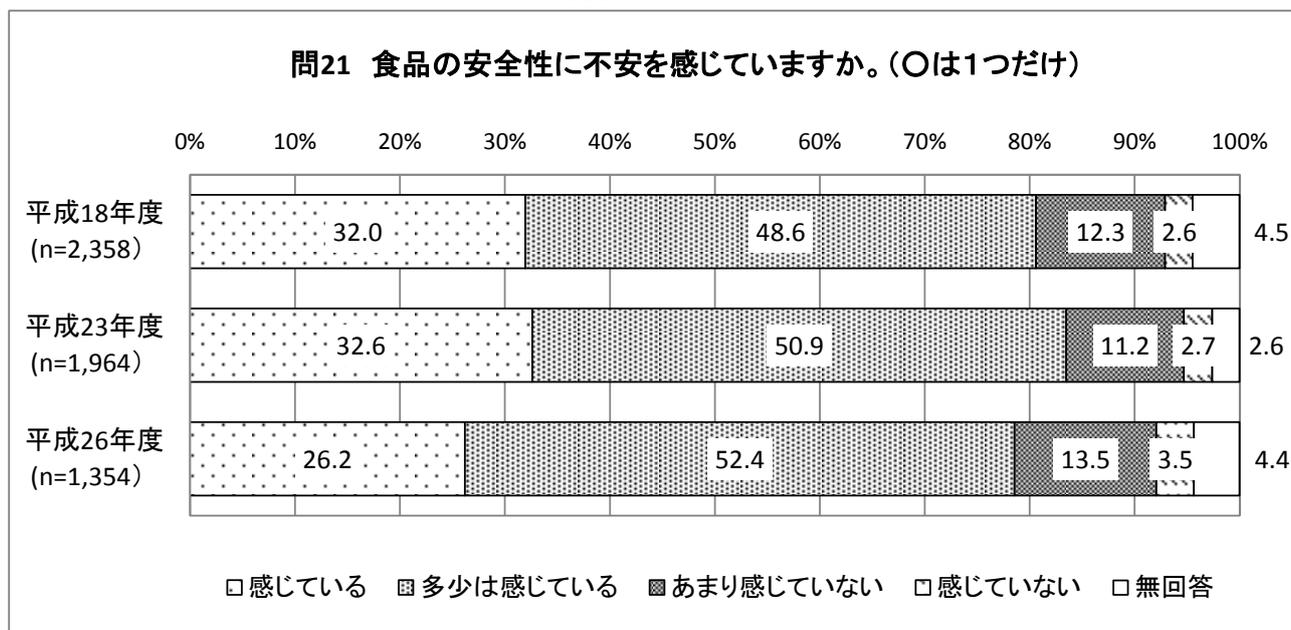
(21) 食品の安全性への不安

21 食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」が約8割

食品の安全性に不安を感じるかは、「感じている」が26.2%と、平成23年度調査(32.6%)から減少している。「多少は感じている」(52.4%)、「あまり感じていない」(13.5%)、「感じていない」(3.5%)は、微増となっている。(図表I-5-1)

図表 I - 5 - 1



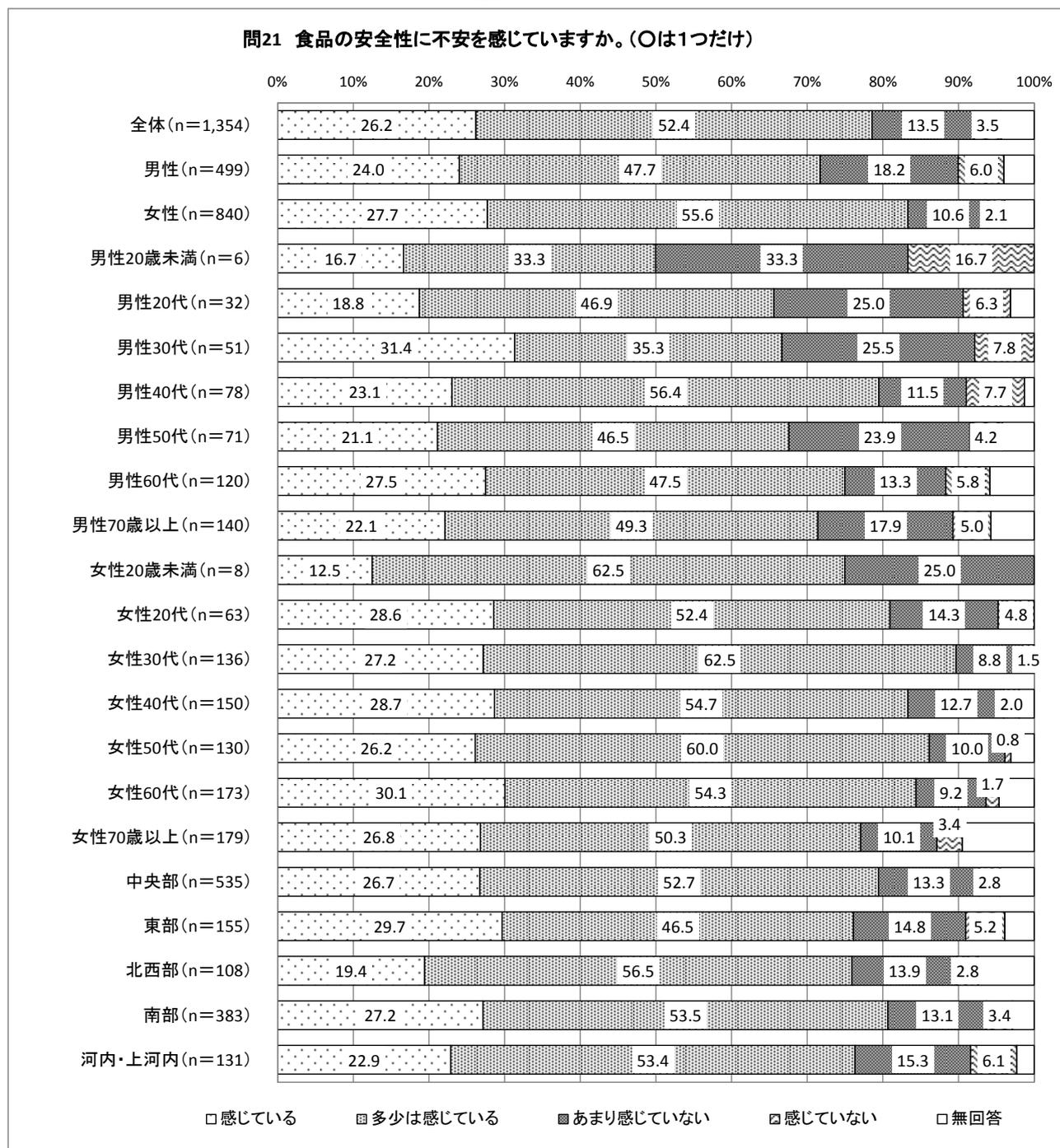
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、男性71.7%、女性83.3%となっており、女性の方が約12%高くなっている。

性・年齢別では、全体的に女性の方が「感じている」割合が高くなっており、「女性30代」が89.7%で最も高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」と「東部」で「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）（21.4%）が2割を超えている。（図表I-5-2）

図表 I - 5 - 2



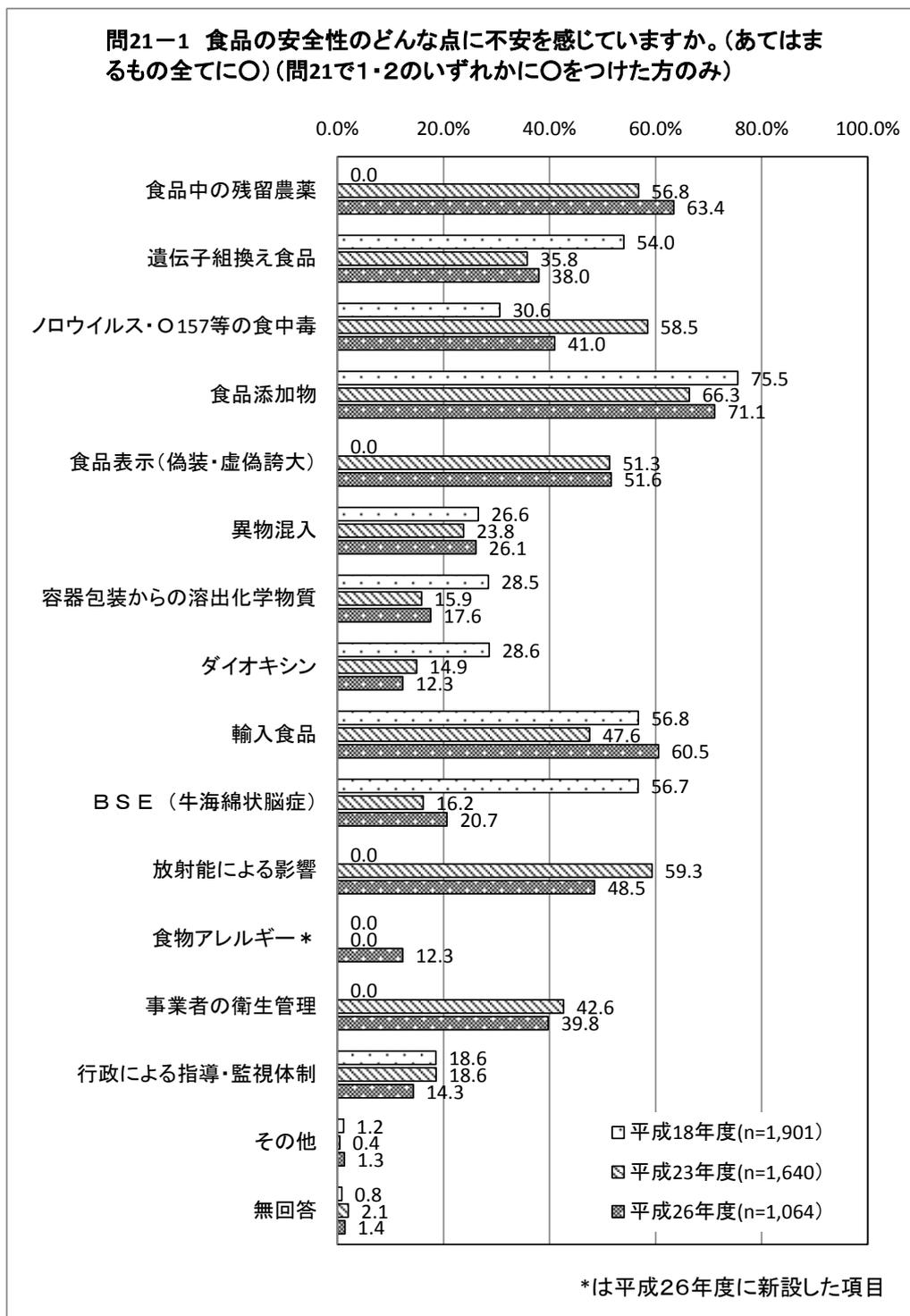
(21-1) 不安の内容

21-1 食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「ノロウイルス・O157等の食中毒」,「放射能による影響」が減少

不安の内容は、「食品添加物」が71.1%と最も多くなっている。また、「食品中の残留農薬」(63.4%),「輸入食品」(60.5%),「食品表示(偽造・虚偽誇大)」(51.6%), も高い割合となっている。(図表I-5-3)

図表 I - 5 - 3



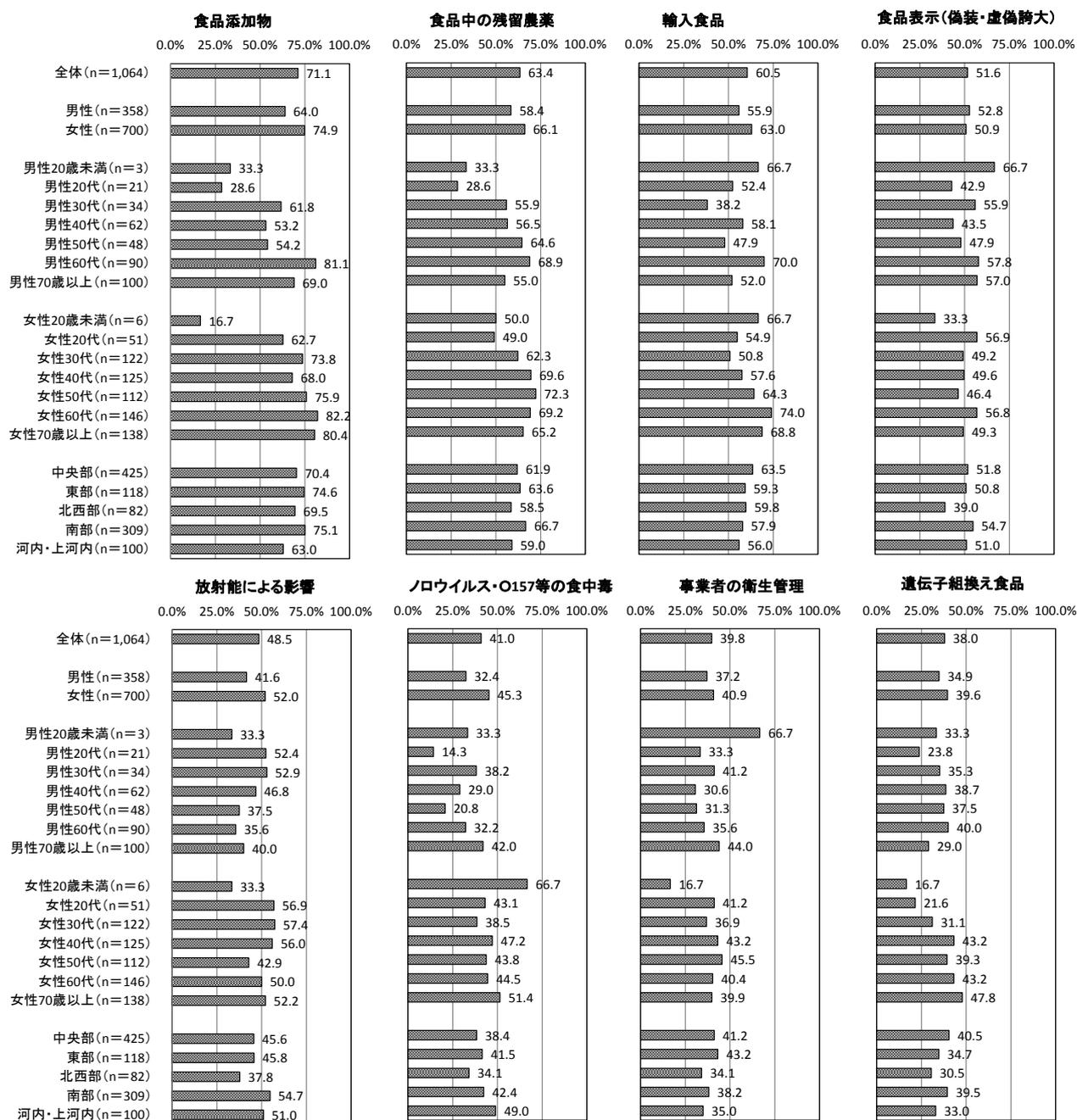
【性別／性・年齢別／地区別】

上位8項目を性別で見ると、ほぼ全ての項目で女性の方が男性よりも高くなっている。特に「ノロウイルス・O157等の食中毒」では男女差が約13%と大きくなっている。

性・年齢別では、「食品添加物」は「男性60代」「女性50代」～「女性70歳以上」で高くなっている。また、男女ともに「20代」で「食品表示(偽装・虚偽誇大)」の割合が高くなっている。

居住地区別では、特に大きな開きは見られないが、「食品表示(偽装・虚偽誇大)」,「放射能による影響」などで、他地区に比べ「北西部」で低くなっている。(図表I-5-4)

図表 I - 5 - 4 (上位8項目)



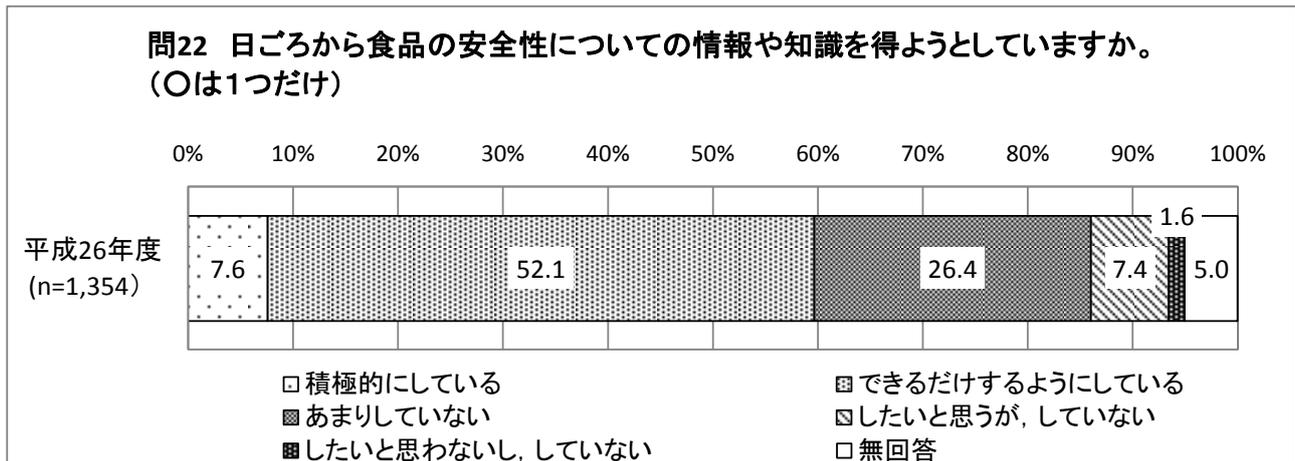
(22) 食品の安全性についての情報や知識の習得

22 日ごろから食品の安全性についての情報や知識を得ようとしていますか。

◆「している」が約6割

食品の安全性についての情報や知識の習得は、「できるだけするようにしている」が52.1%と半数を超え、「積極的にしている」と合わせると、59.7%となっている。(図表I-5-5)

図表 I - 5 - 5



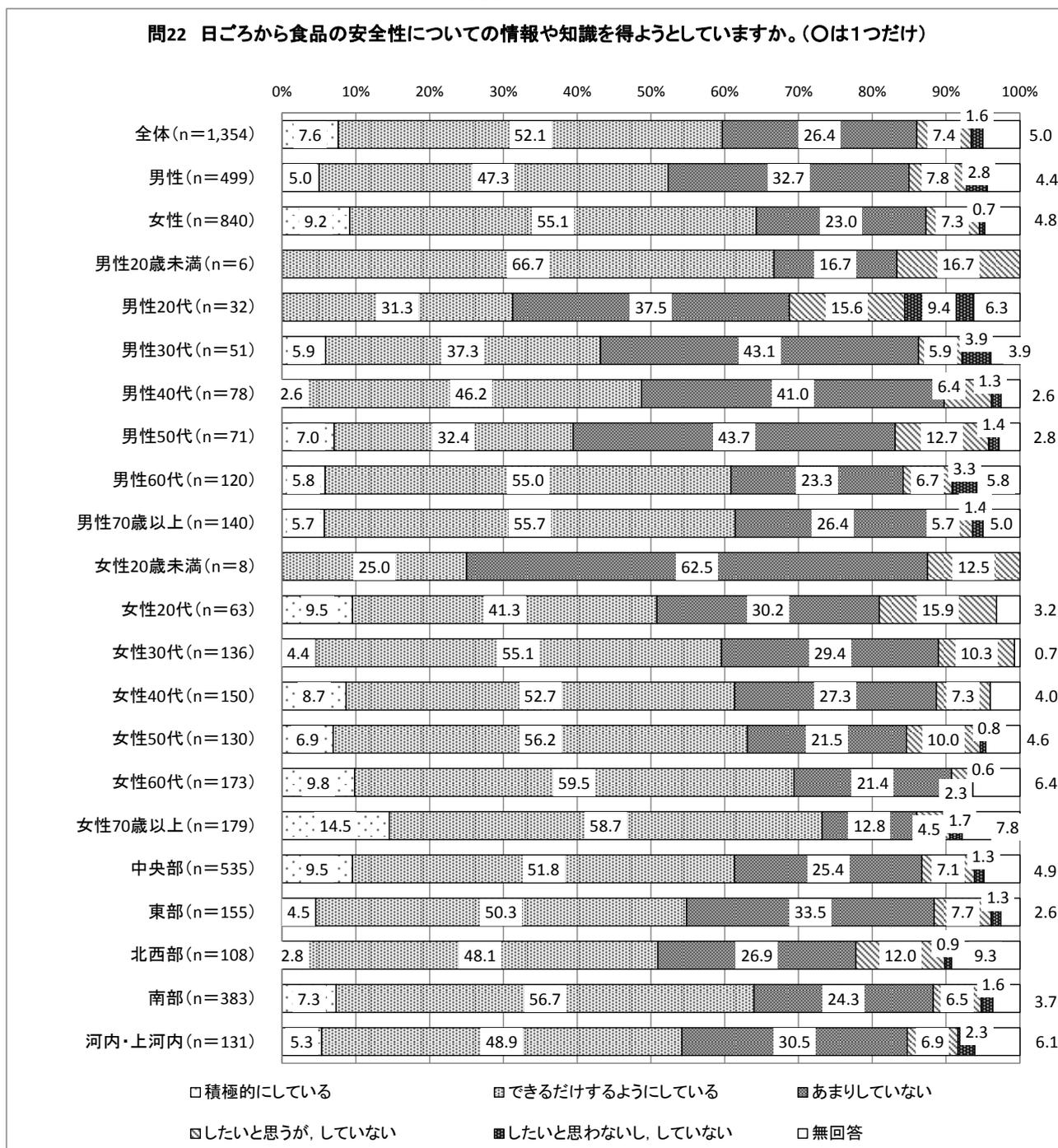
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「している」（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）は、男性 52.3%，女性 64.3% となっており、女性の方が約 12% 高くなっている。

性・年齢別では、「男性 20 代」、「男性 30 代」、「男性 50 代」で「していない」（「あまりしていない」と「したいと思うが、していない」の合計）が「している」の割合を上回っている。

居住地区別では、「中央部」で「積極的にしている」（9.5%）の割合が他地区に比べ高くなっており、「北西部」（2.8%）は他地区に比べ低い。（図表 I-5-6）

図表 I-5-6



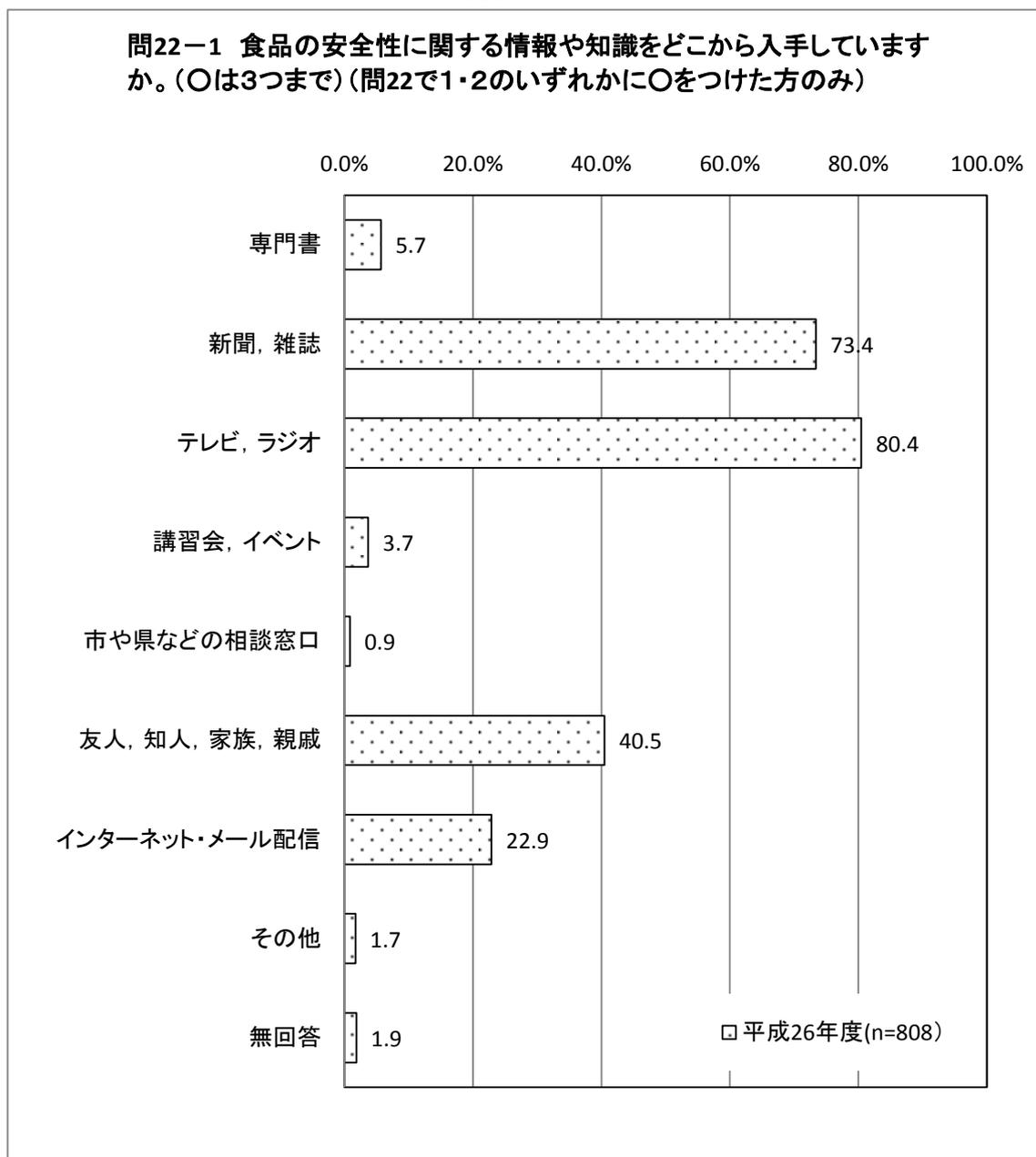
(22-1) 食品の安全性についての情報や知識の習得方法

22-1 食品の安全性に関する情報や知識をどこから入手していますか。

◆「テレビ，ラジオ」が約8割

食品の安全性に関する情報や知識の入手先は、「テレビ，ラジオ」が80.4%と最も多くなっている。次いで「新聞，雑誌」(73.4%)，「友人，知人，家族，親戚」(40.5%)となっている。(図表I-5-7)

図表 I - 5 - 7



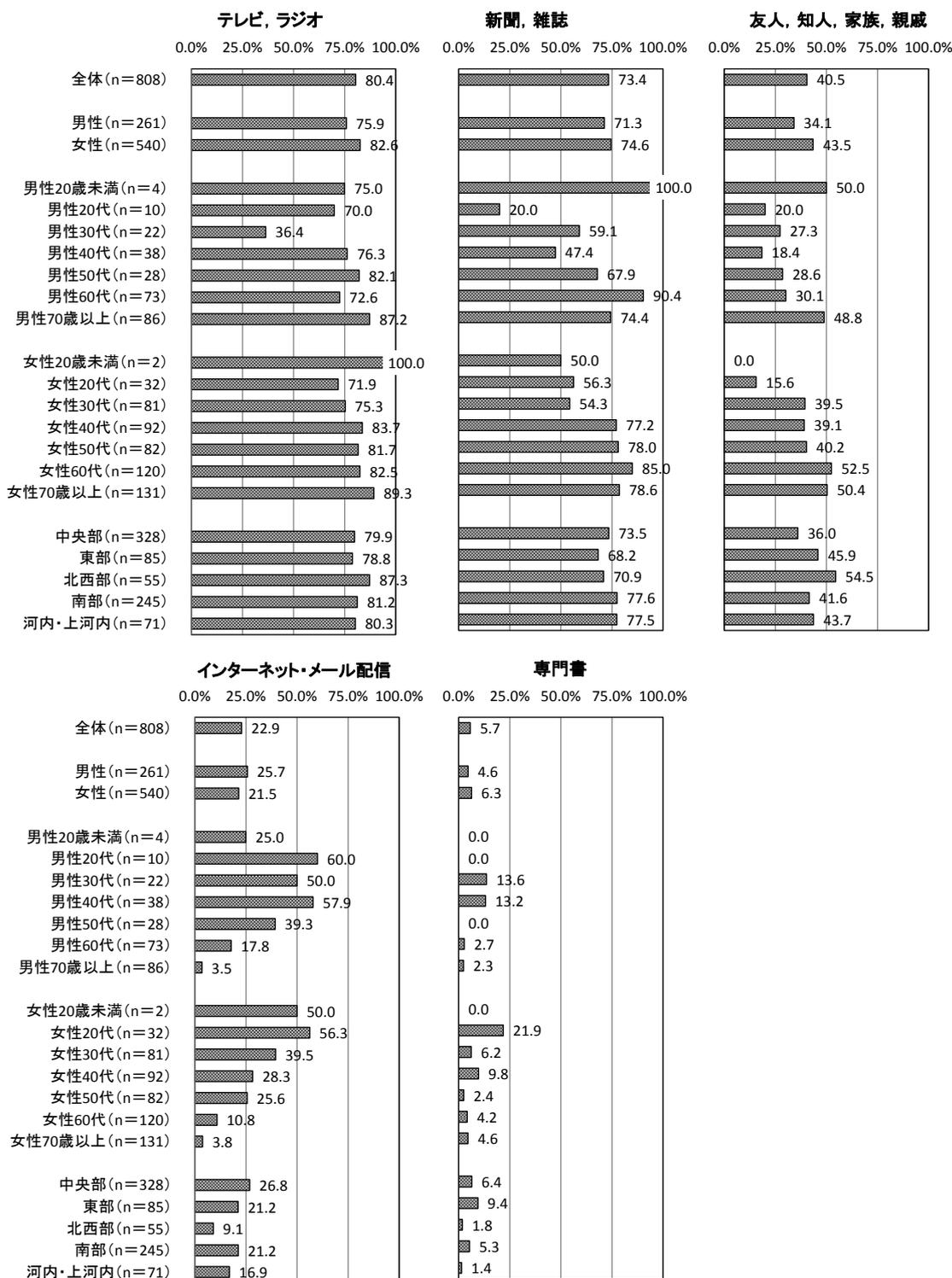
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも「テレビ、ラジオ」と「新聞、雑誌」の割合が7割を超えている。

性・年齢別では、男女とも年齢が低くなるほど、「インターネット・メール配信」の割合が高くなる傾向にある。また、年齢が高くなるほど、「テレビ、ラジオ」や「新聞、雑誌」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、「北西部」で「インターネット・メール配信」の割合が他地区に比べ低くなっている。(図表 I - 5 - 8)

図表 I - 5 - 8



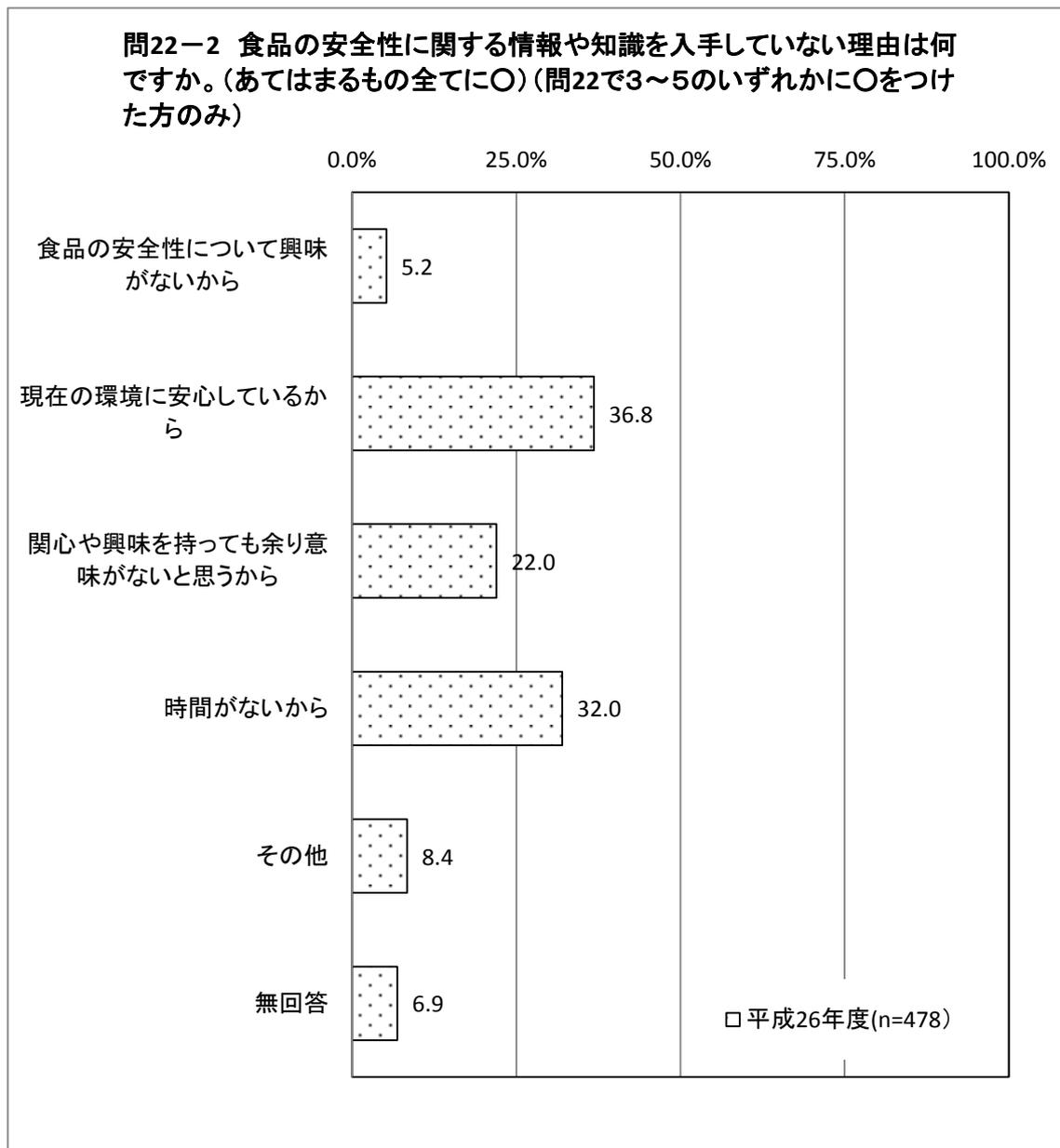
(22-2) 食品の安全性についての情報や知識を習得しない理由

22-2 食品の安全性に関する情報や知識を入手していない理由は何ですか。

◆「現在の環境に安心しているから」が約4割

前問で「あまりしていない」「したいと思うが、していない」「したいと思わないし、していない」と回答した人に食品の安全性に関する情報や知識を入手していない理由を聞いたところ、「現在の環境に安心しているから」が36.8%と最も多く、次いで「時間がないから」(32.0%)、「関心や興味を持ってあまり意味がないと思うから」(22.0%)となっている。(図表I-5-9)

図表 I - 5 - 9



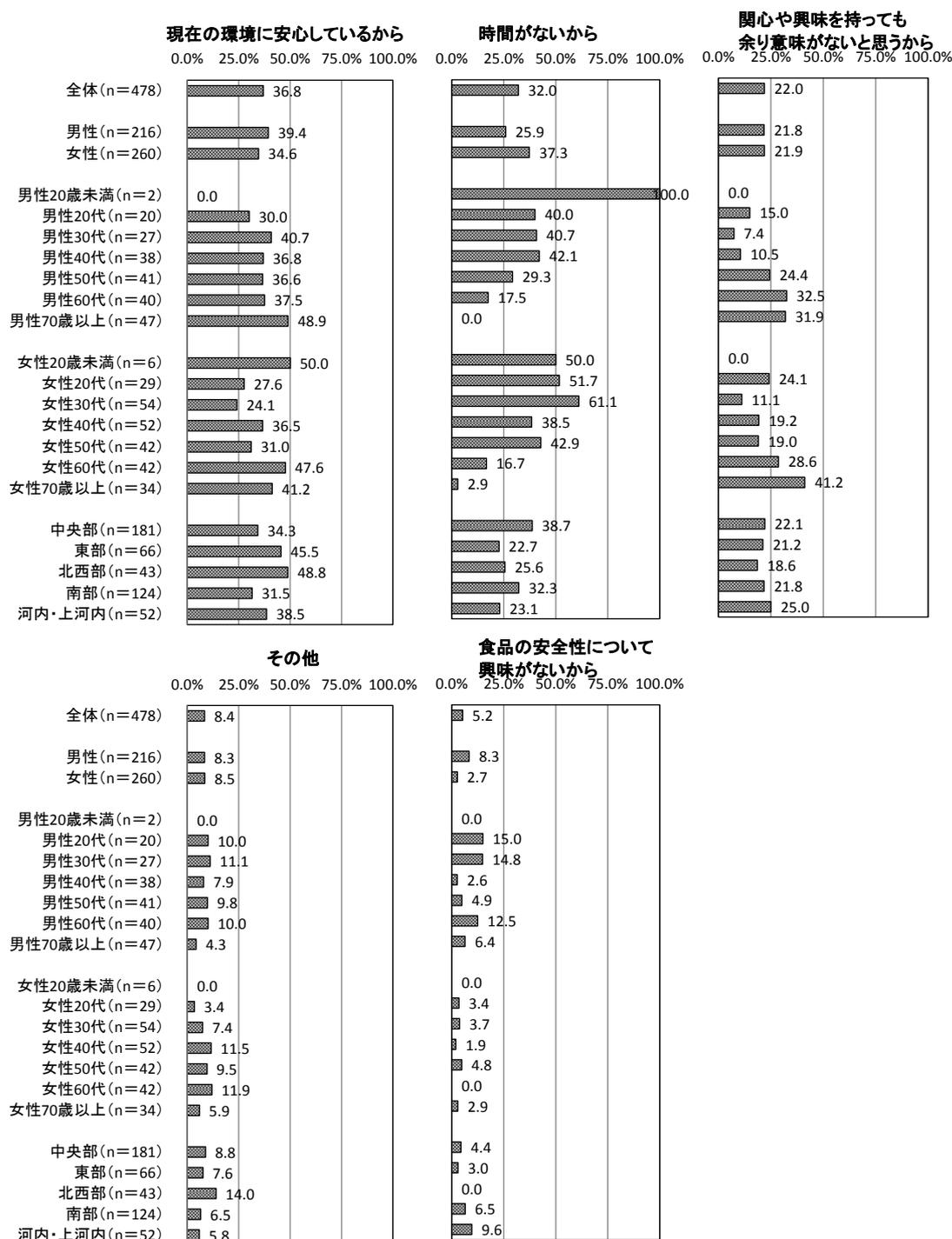
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、男性では「現在の環境に安心しているから」、女性では「時間がないから」の割合が最も高くなっている。

性・年齢別では、「男性20代」～「男性40代」と「女性20代」～「女性50代」で「時間がないから」、「男性50代」～「男性70歳以上」、「女性60代」～「女性70歳以上」で「現在の環境に安心しているから」の割合が高くなっている。また、「女性70歳以上」では「関心や興味を持ってあまり意味がないと思うから」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「東部」、「北西部」、「河内・上河内」で「現在の環境に安心しているから」、「中央部」、「南部」で「時間がないから」の割合が高くなっている。(図表I-5-10)

図表 I - 5 - 10



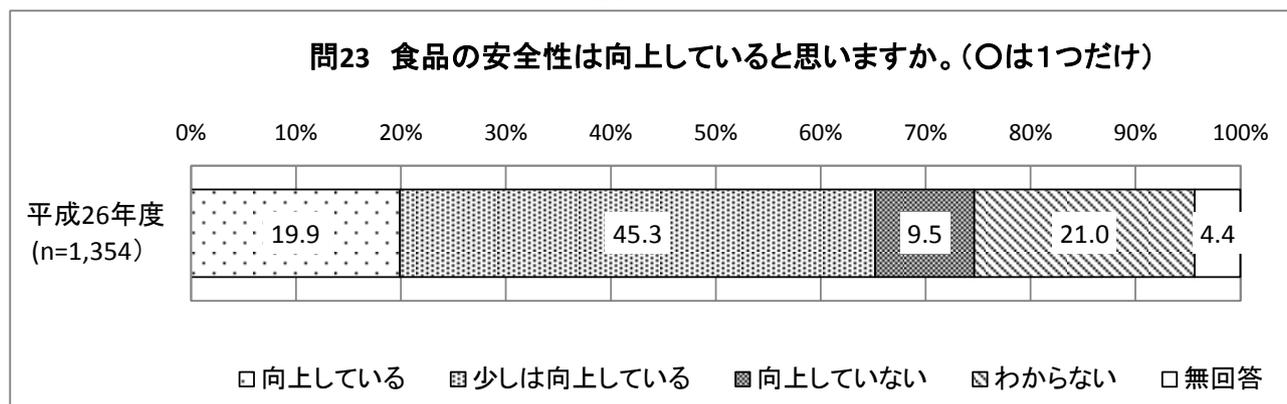
(23) 食品の安全性の向上

23 食品の安全性は向上していると思いますか。

◆「向上している」が6割超

食品の安全性は向上していると思うか聞いたところ、「少しは向上している」(45.3%)と「向上している」(19.9%)を合わせた「向上している」が65.2%と6割を超え、「向上していない」(9.5%)は約1割となっている。(図表I-5-11)

図表 I - 5 - 11



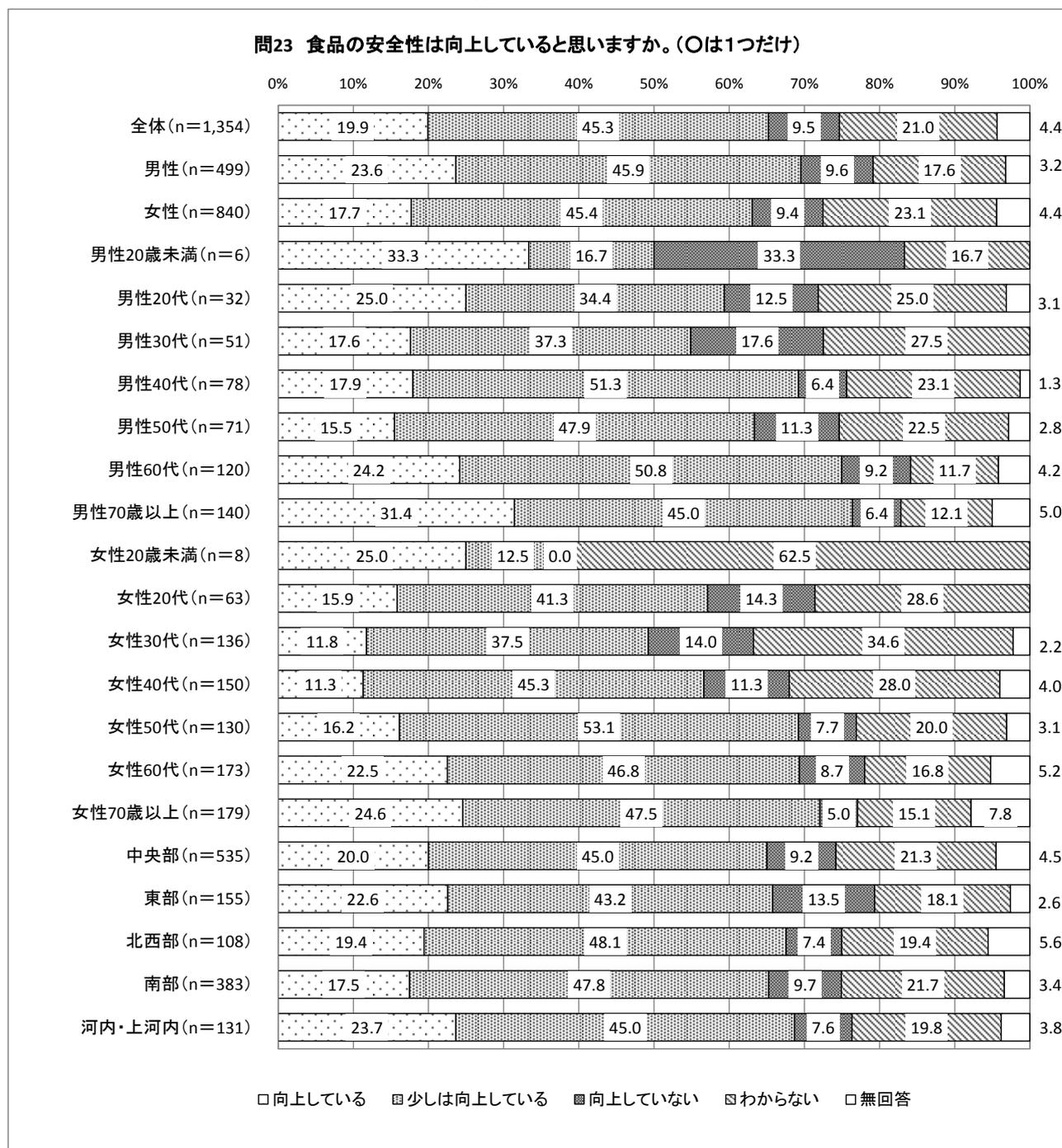
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「向上している」（「向上している」と「少しは向上している」の合計）は、男性 69.5%、女性 63.1%となっており、男性の方が約6%高くなっている。

性・年齢別では、男女ともに年齢が高くなるほど、「向上している」の割合が高くなる傾向にある。

居住地区別では、全地区で「向上している」の割合が6割を超えているが、「東部」の「向上していない」の割合が他地区に比べて高くなっている。（図表 I - 5 - 12）

図表 I - 5 - 12



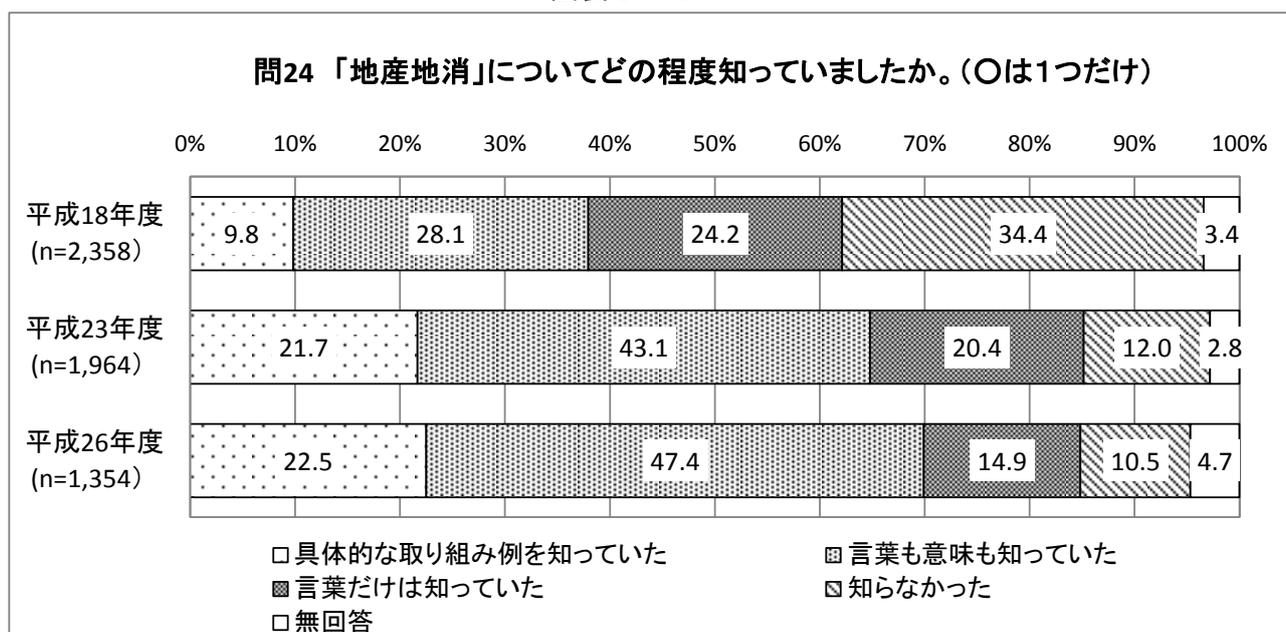
(24) 地産地消の認知度

24 「地産地消」についてどの程度知っていましたか。

◆「言葉も意味も知っていた」が4割超

「地産地消」については、「言葉も意味も知っていた」(47.4%)が最も多く、次いで「具体的な取り組み例を知っていた」(22.5%)と、平成18年度調査、平成23年度調査に比べ、増加傾向となっている。(図表I-6-1)

図表 I - 6 - 1



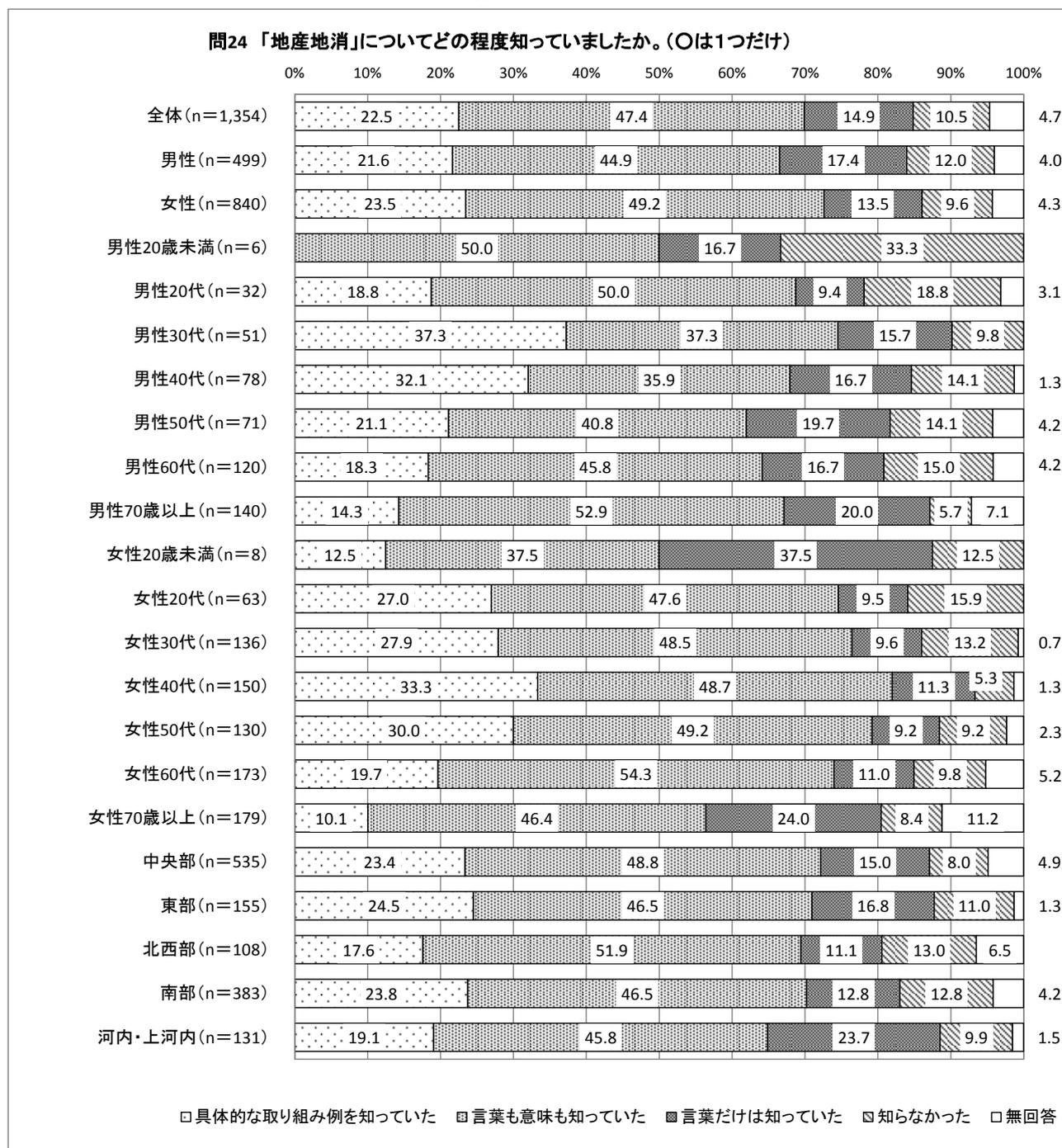
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「知っていた」（「具体的な取り組み例を知っていた」と「言葉も意味も知っていた」の合計）で、女性（72.7%）が男性（66.5%）より約6%高くなっている。

性・年齢別では、「女性30代」～「女性50代」で、「知っていた」の割合の合計が75%を超えている。「女性40代」においては、82%と最も高い割合となっている。

居住地区別では、「河内・上河内」の「知っていた」の割合が他地区に比べ低くなっている。（図表I-6-2）

図表 I - 6 - 2



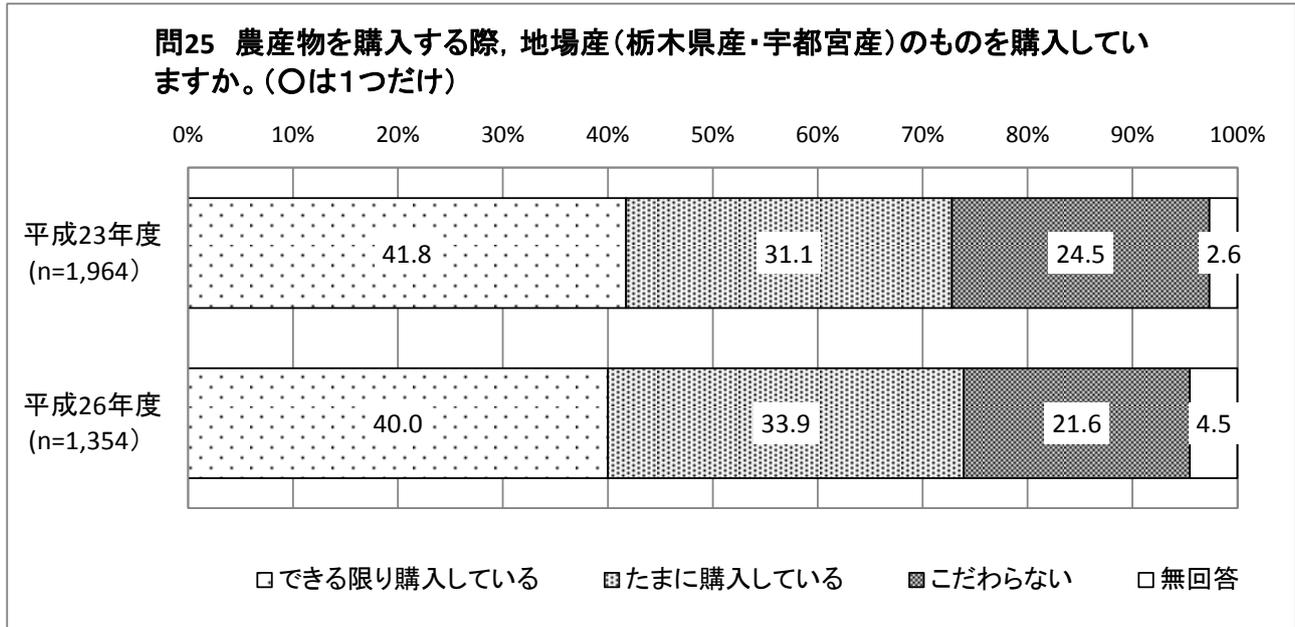
(25) 地場農産物の購入

25 農産物を購入する際、地場産（栃木県産・宇都宮産）のものを購入していますか。

◆約4割が地場産品を購入

地場産品の購入は、「できる限りそうしている」が40.0%、次いで「たまに購入している」(33.9%)、「こだわらない」(21.6%)の順となっている。(図表I-6-3)

図表 I - 6 - 3



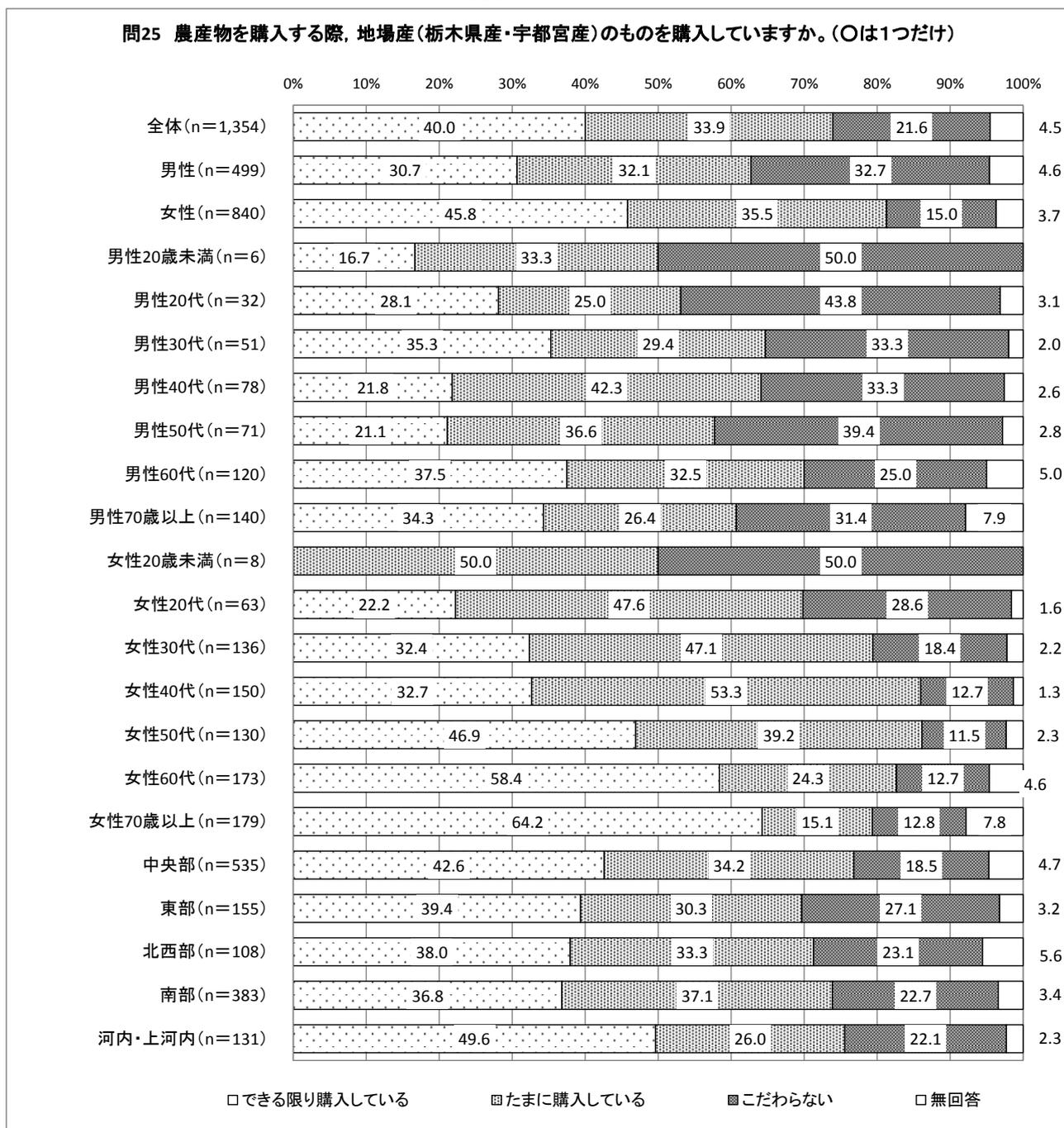
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性で「こだわらない」、女性で「できる限り購入している」の割合が最も高くなっている。

性・年齢別では、「女性70歳以上」で「できる限りそうしている」の割合が64.2%と最も高くなっている。また、男性では全ての年代で「こだわらない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「できる限りそうしている」の割合が半数を占め、他地区に比べて高くなっている。(図表 I-6-4)

図表 I-6-4



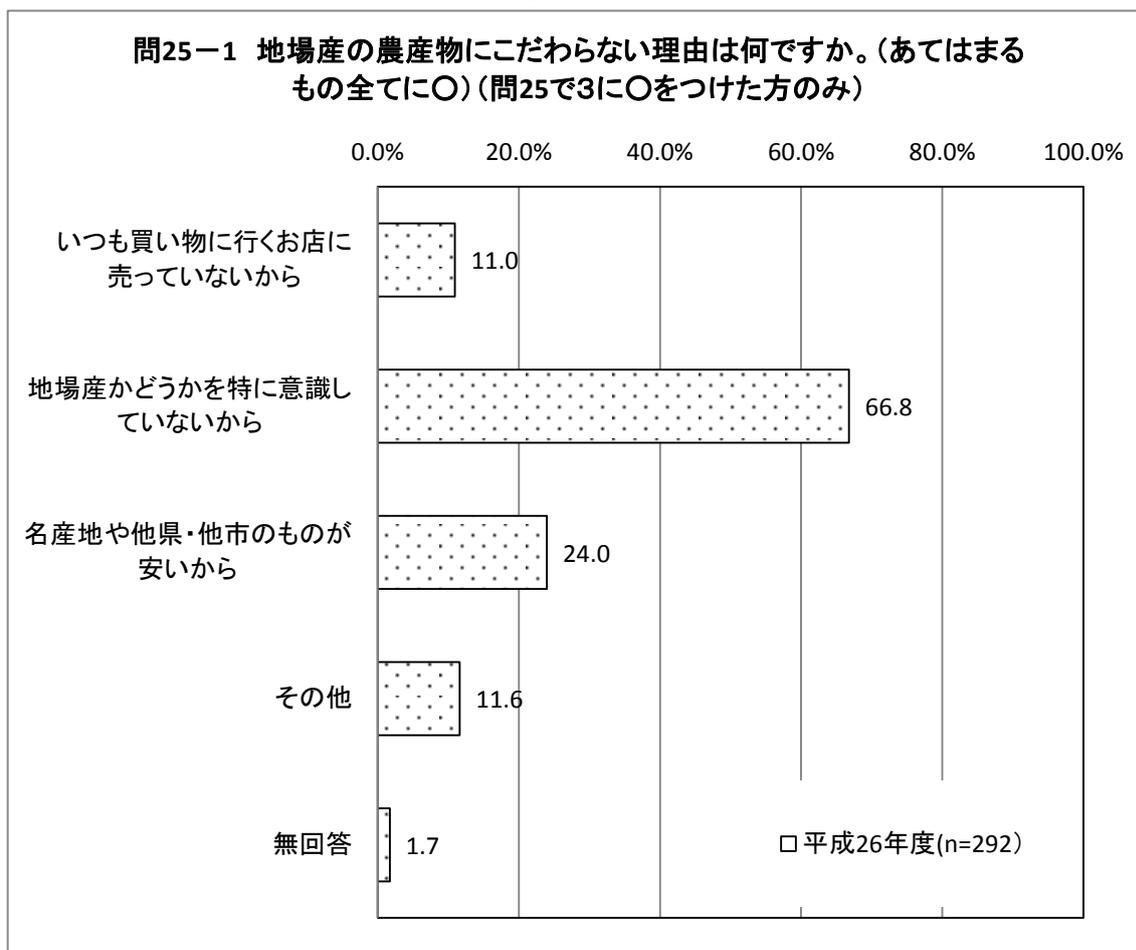
(25-1) 地場農産物にこだわらない理由

25-1 地場産の農産物にこだわらない理由は何ですか。

◆「地場産かどうかを特に意識していないから」が約7割

前問で「こだわらない」と回答した人に地場産品にこだわらない理由を聞いたところ、「地場産かどうかを特に意識していないから」の66.8%が最も多く、次いで、「名産地や他県・他市のものが安いから」(24.0%)となっている。(図表I-6-5)

図表 I - 6 - 5



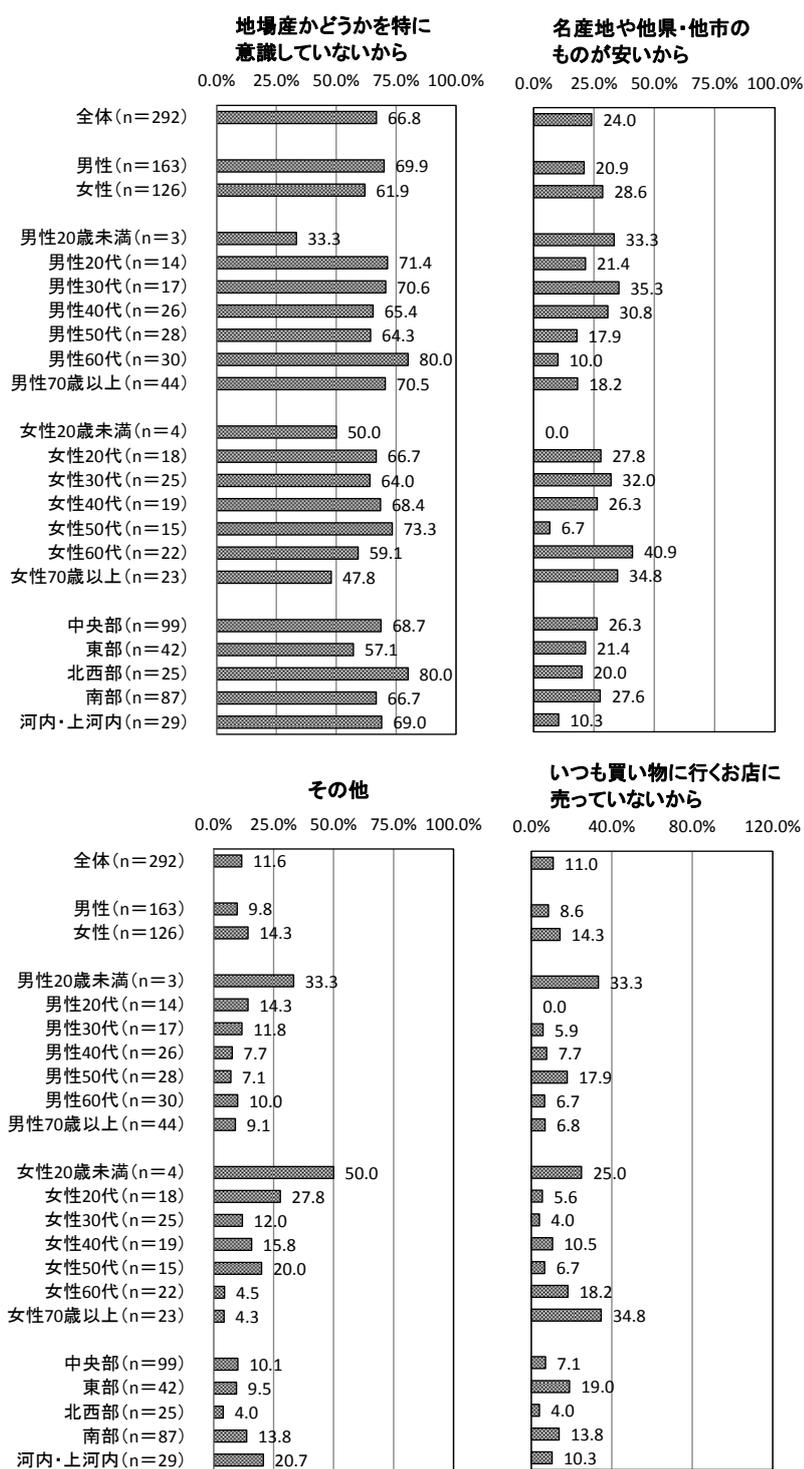
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「地場産かどうかを特に意識していないから」では男性（69.9%）、女性（61.9%）ともに6割を超えている。

性・年齢別では、全年齢で「地場産かどうかを特に意識していないから」の割合が高くなっている。また「女性60代」においては「名産地や他県・他市のものが安いから」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「北西部」の「地場産かどうかを特に意識していないから」の割合が8割と高くなっている。（図表I-6-6）

図表 I - 6 - 6



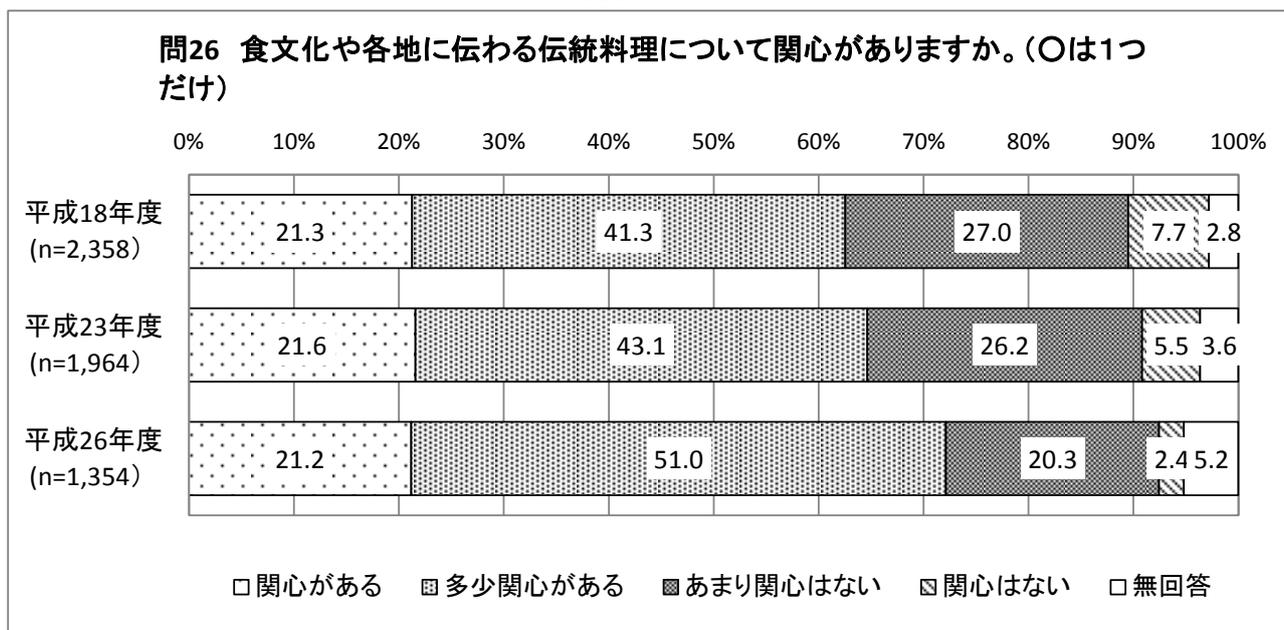
(26) 食文化や伝統料理への関心度

26 食文化や各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。

◆「関心がある」が7割超

食文化や伝統料理についての関心は、「多少関心がある」(51.0%)が半数を占め、これに「関心がある」(21.2%)を合わせ、「関心がある」(72.2%)の回答が約7割を占めている。これは平成23年度と比較して増加傾向にある。(図表I-7-1)

図表 I - 7 - 1



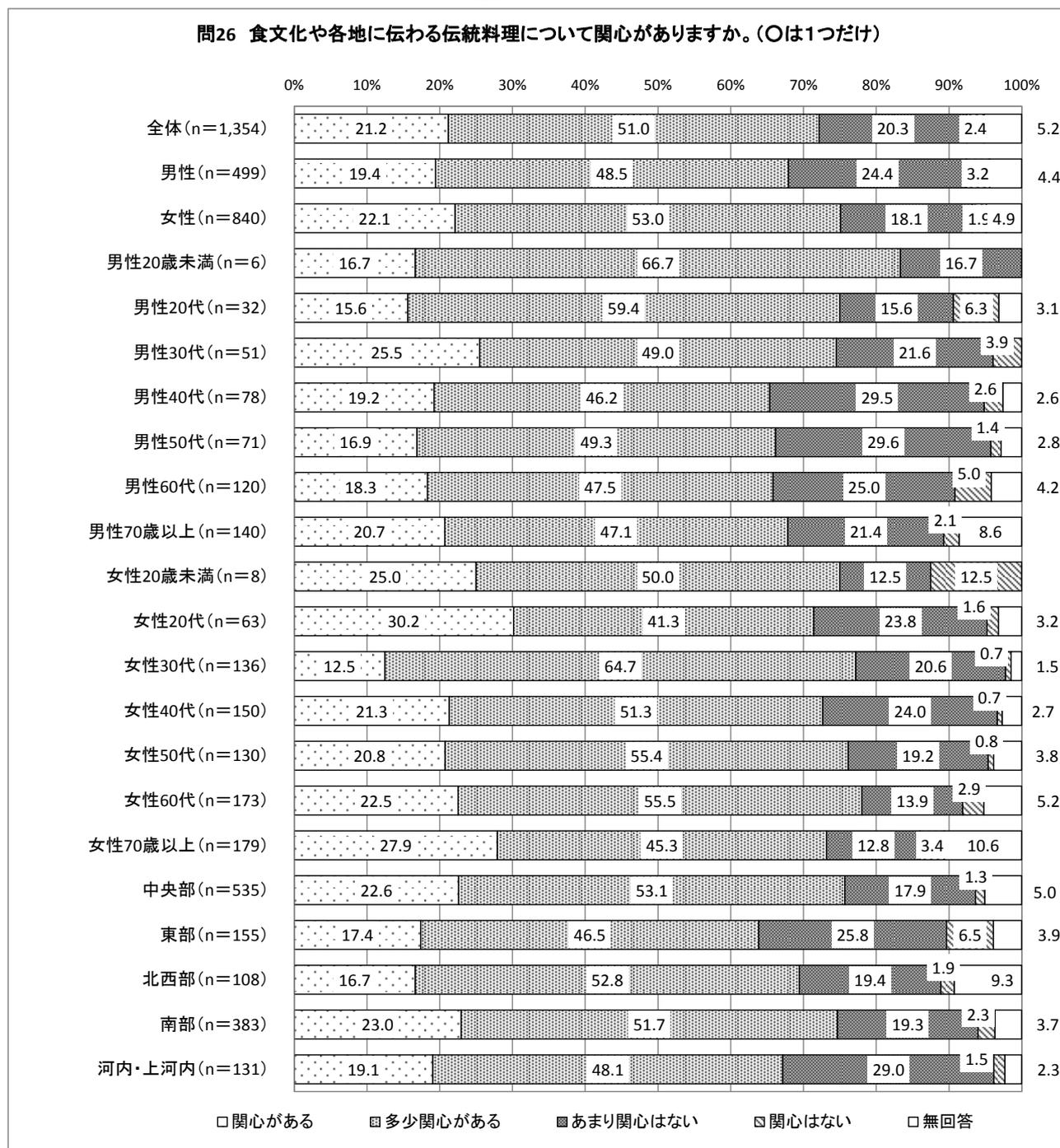
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「関心がある」（「関心がある」と「多少関心がある」の合計）は、女性（75.1%）が男性（67.9%）よりも約7%高くなっている。

性・年齢別では、男性の「40代」「50代」で「あまり関心がない」の割合が、他年代より高くなっており、約3割を占める。

居住地区別では、「中央部」と「南部」において、「関心がある」の割合が7割を超えており、他地区に比べて高くなっている。（図表 I-7-2）

図表 I-7-2



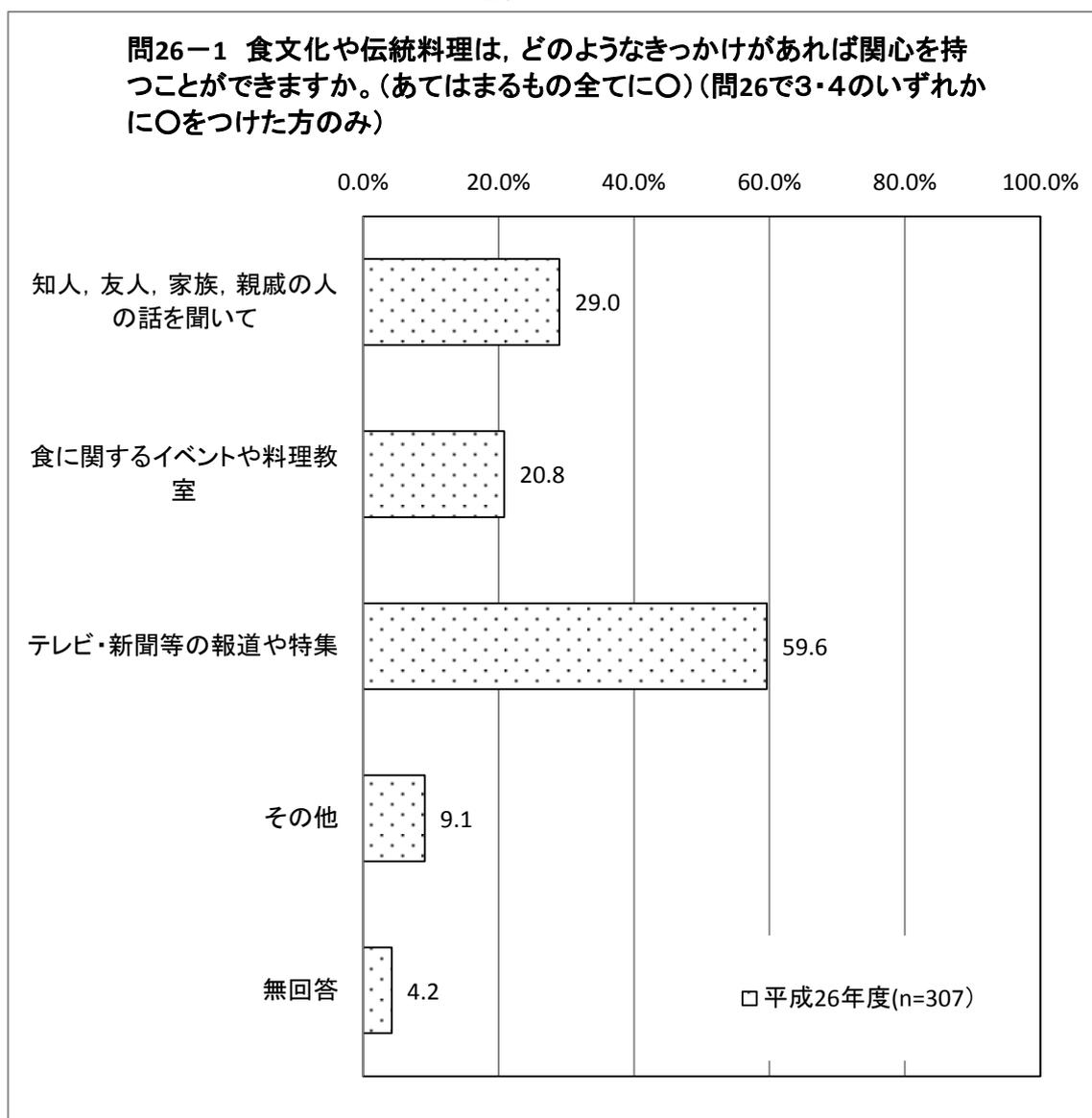
(26-1) 食文化や伝統料理への関心を持つためのきっかけ

26-1 食文化や伝統料理は、どのようなきっかけがあれば関心を持つことができますか。

◆「テレビ・新聞等の報道や特集」が約6割

前問で「あまり関心はない」「関心はない」と回答した人に食文化や伝統料理に興味を持つきっかけを聞いたところ、「テレビ・新聞等の報道や特集」(59.6%)が最も多く、次いで「知人、友人、家族、親戚の人の話を聞いて」(29.0%)、「食に関するイベントや料理教室」(20.8%)となっている。(図表I-7-3)

図表 I-7-3



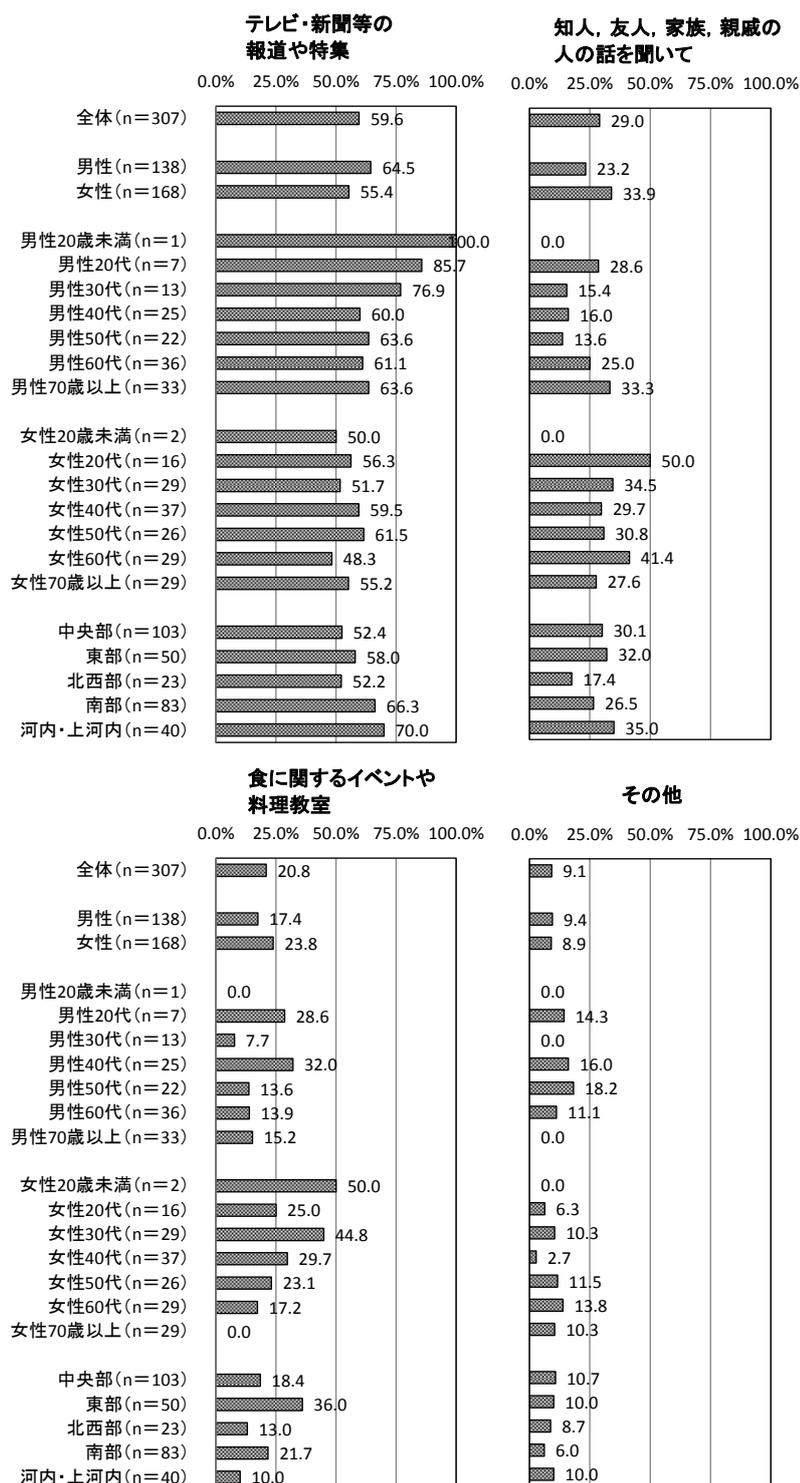
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「テレビ・新聞等の報道や特集」では男性（64.5%）、女性（55.4%）ともに最も高い割合となっている。

性・年齢別では、全年齢で「テレビ・新聞等の報道や特集」の割合が高くなっている。また「女性20代」では「知人、友人、家族、親戚の人の話を聞いて」、「女性30代」では「食に関するイベントや料理教室」の割合も高くなっている。

居住地区別では、「東部」の「食に関するイベントや料理教室」の割合が他地区に比べ高くなっている。（図表 I - 7 - 4）

図表 I - 7 - 4



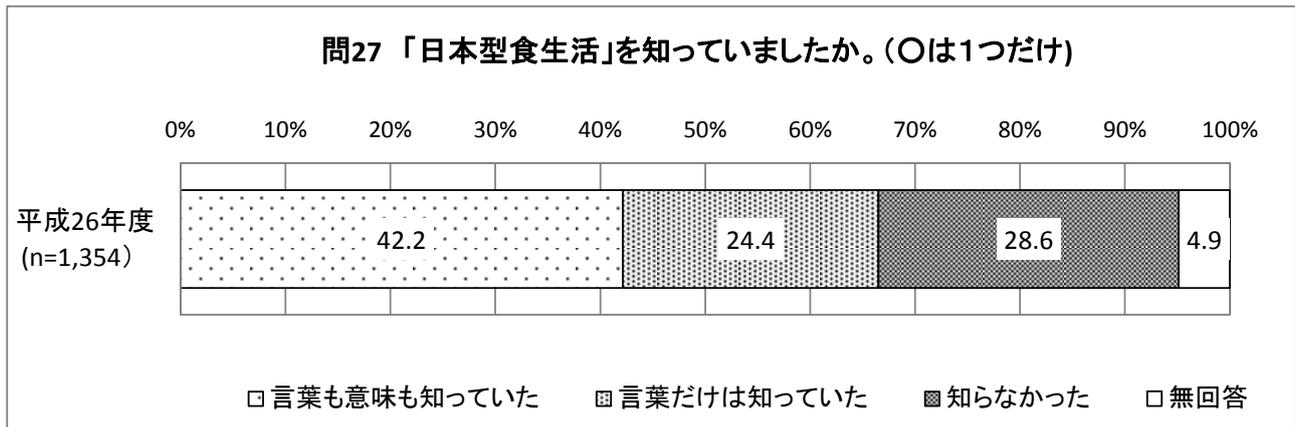
(27) 日本型食生活の認知度

27 「日本型食生活」を知っていましたか。

◆「言葉も意味も知っていた」が約4割

「日本型食生活」について、「言葉も意味も知っていた」(42.2%)、「言葉だけは知っていた」(24.4%)の「知っていた」が66.6%と6割強となっている(図表I-7-5)

図表 I - 7 - 5



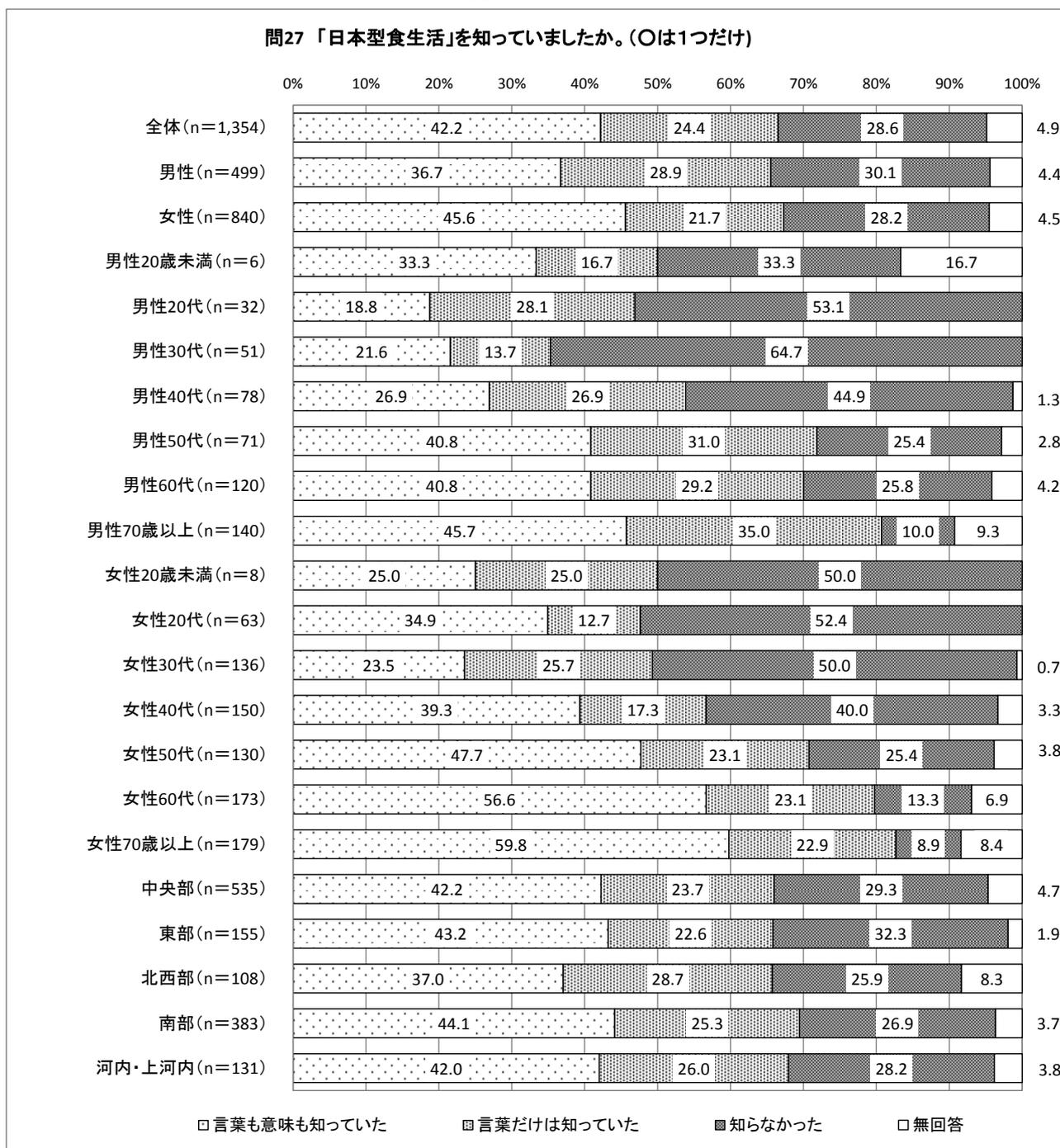
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の合計）は、女性（67.3%）が男性（65.5%）よりも約2%高くなっている。

性・年齢別では、「知っていた」の割合は年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、男女ともに70歳以上では8割を超えている。

居住地区別での大きな差は見られない。（図表 I - 7 - 6）

図表 I - 7 - 6



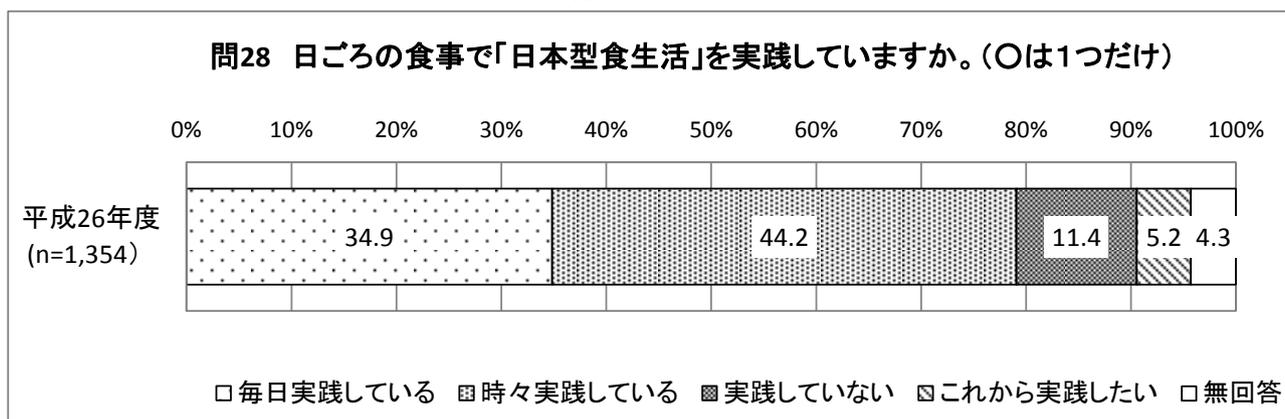
(28) 日本型食生活の実践度

28 日ごろの食事で「日本型食生活」を実践していますか。

◆「実践している」約8割

「日本型食生活」の実践は、「毎日実践している」(34.9%)、「時々実践している」(44.2%)の「実践している」が79.1%と約8割と高い割合となっている。(図表I-7-7)

図表 I-7-7



【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「実践している」（「毎日実践している」と「時々実践している」の合計）は、女性（82.4%）が男性（74.2%）よりも約8%高くなっている。

性・年齢別では、「実践している」の割合は年齢が上がるほど高くなる傾向にあり、「男性60代」、「女性30代」、「女性50代」、「女性60代」、「女性70歳以上」では8割を超えている。一方で、「男性20代」、「男性40代」、「男性50代」では他年代に比べ「実践していない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「南部」と「河内・上河内」で「実践している」が8割を超えており、他地区に比べて高くなっている。（図表 I-7-8）

図表 I-7-8

